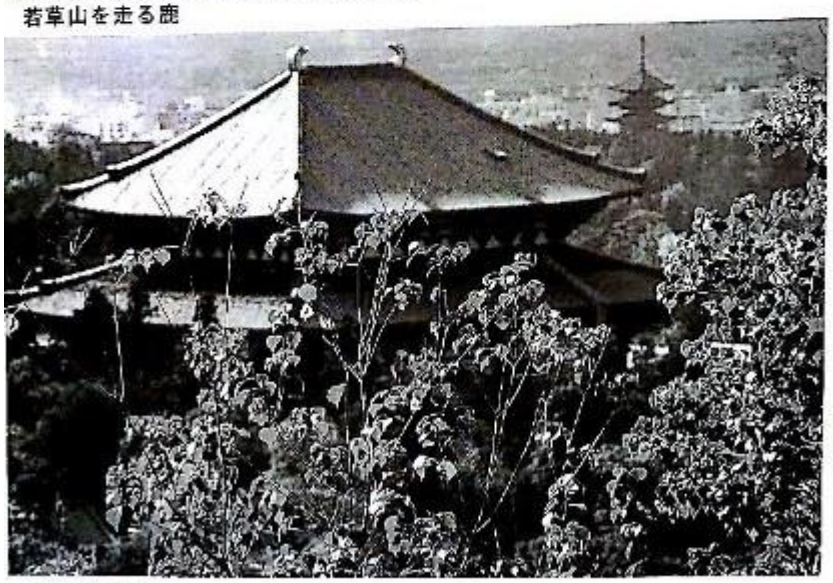
Photo essay

夕ぐれ

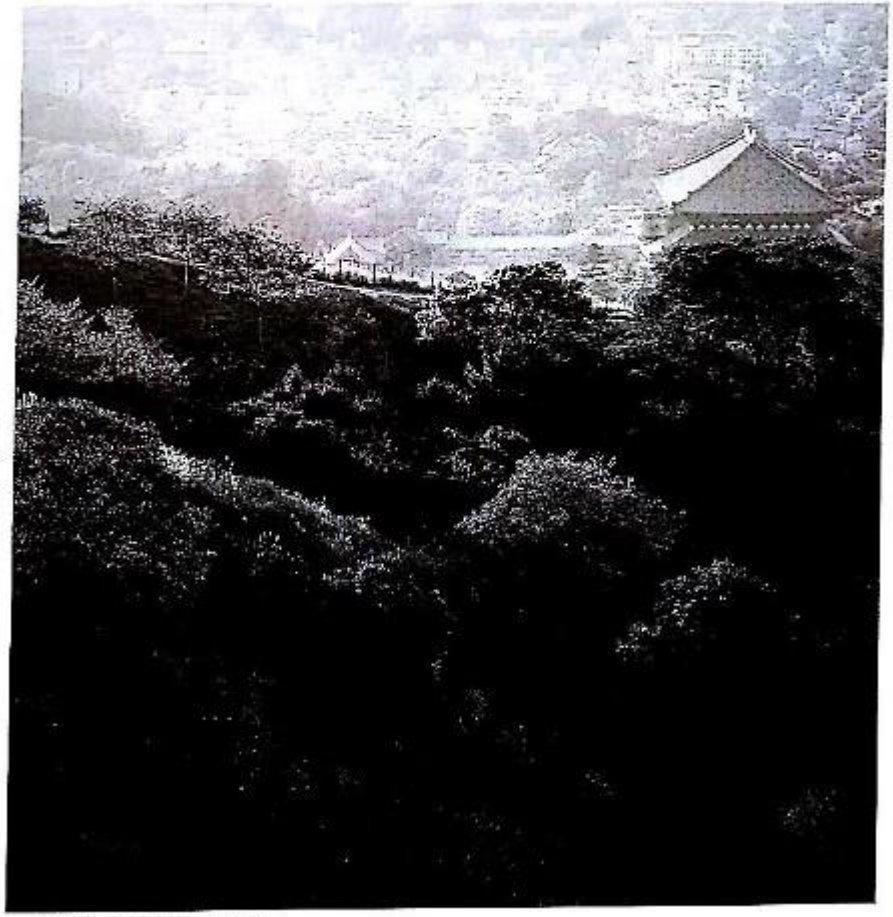
題字　中田蘭石
撮影　由井　収
文　松永恵一

若草山を走る鹿

燃えるような鮮烈な紅葉
茜色の陽に染まりながら
いくつもの葉が優雅な舞を
舞っては消えて行く
時折吹いてくる風に
黄金の海はさわさわと波を立て
琥珀色の葉　紅の葉は宙に散り
勝手気ままな舞を舞い続ける
疾風がふうわりと撫でると
天平の昔がよみがえる
薄紅の残光の中に
軍艦のような大仏殿の大屋根
一つ枝に残る黐(もち)の実
目をつぶると風の音が
読経のように聞こえてきた



大仏殿秋色



若草山より望む大仏殿

季節の実景

晩秋

撮影　武市通治

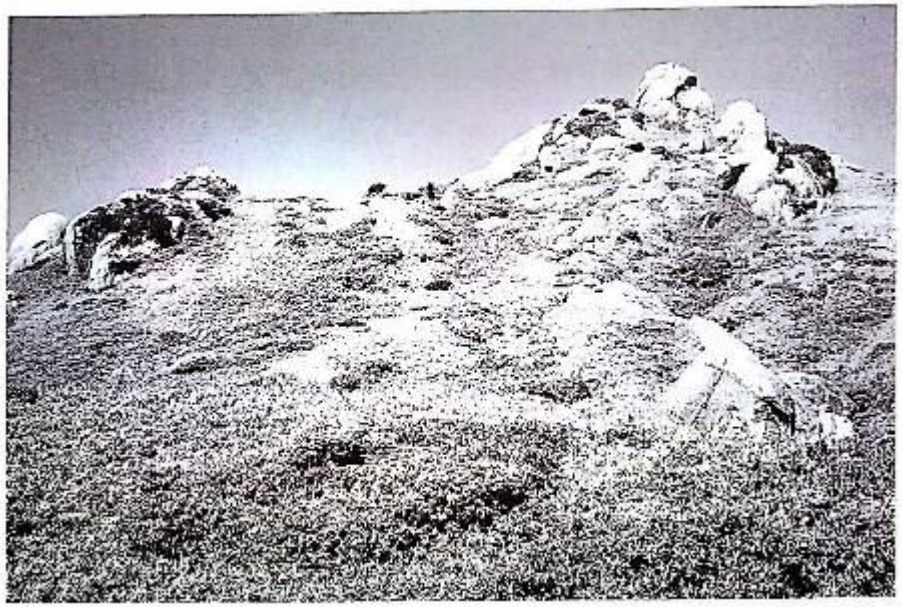
残り葉

枯野

阿蘇野晩秋

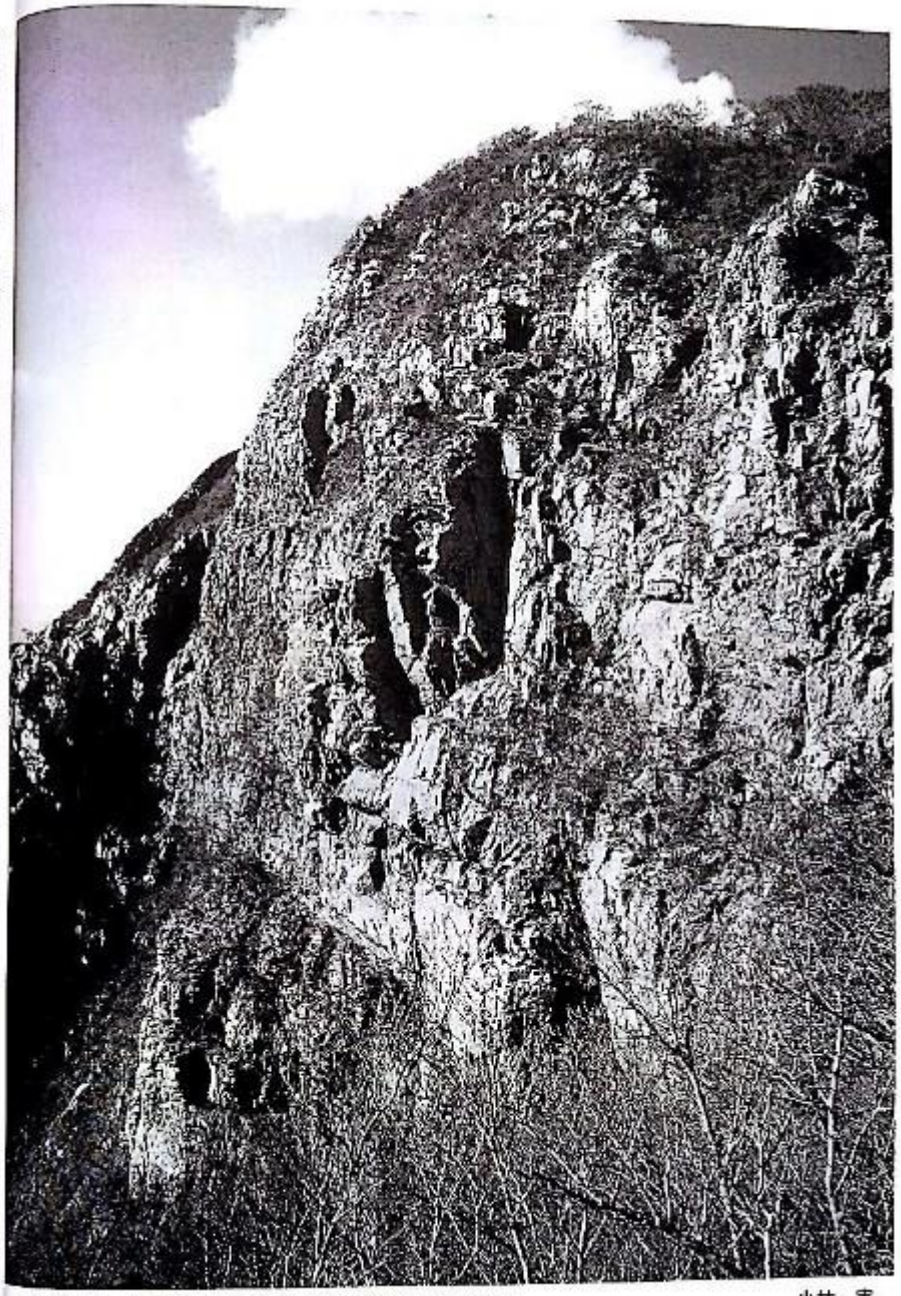
秋雨

落ち葉



宮之浦岳（屋久島）　森澤　元博

翁　岳（屋久島）　森澤　元博



967㍍ピーク付近より見た御池岳のボタン岩（鈴鹿）　小林　実

●目次

新ハイキング 別冊 関西の山
'96年11・12月 秋号 第31号

表紙：松田教男「桑谷山より雪の綾床山を見る」（京都北山）

●作者プロフィール●1918年、京都市生まれ。京都市立芸術大学学。1987年より山岳絵画、山岳画の個展多数開催。（京都宇宙画廊、南アルプス絵の小屋、東京ギャラリー白号、他）京都山と野に親しむ会代表、日本山岳会会員、一等三角点研究会会員

●グラビア
夕ぐれ……撮影 由井 収文
季節の実景（晩秋）……松永 恵一
随想（山のエッセイ）
奈良井にて……武市 逍治 4
集合時間……2
山道にて想う……真田 英一郎 10
篠生 功 11
生駒 耆峰 12

紀行
木曽の森と山……警見 守康 14
西居……松田 敏男 18
連載 日本深山紀行29 鬱森山……浅野 孝一 23
伯耆子岳から鷲峰ノ頭山へ……酒井 賢治 26
川上岳……多摩 雪雄 30
夜叉ヶ妹池……岡井 克治 32

エリア別研究
近江側から登る鈴鹿の山々……岩野 明 34
㉞大鈴言谷から南乙岳……
㉟水舟ノ池・深谷山連峰……
㊱㊲㊳武越山・二子山……
㊴㊵㊶ミズナシ・太尾の稜線を歩く……49 46 43 40

●京都北山やぶ清言猫快山行記（28）……京都北山グループ
五つ峰の尾根道しと岩屋山・半国山三角点一つ……山口 恵次 37
●近世の百選を歩く④ 大山崎から天王山・長岡八幡宮へ……中村 敏文 52
●文学歴史探訪ハイク⑪ 上町台地・夕陽丘を訪ねて……松永 恵一 56

コースガイド
1 中津峡山……慶佐次 盛一
2 ハライド・国見岳……若林 英郎
3 鳥見山と外輪山……柴田 昭彦 64 62 60

●関西・山岳の古道を歩く ⑪井関越 ⑫五本松越……寺山 英男
●野の花讃歌（18） 思わぬ宝見登山に感激……市川 正次郎
●訪問 倉敷の山々・五塔三尖へ（3） 秀麗緑山……山形 茂之 68 36 34

沿線ハイキングガイド……
サービスチェーン……
せせらぎ……
新ハイ関西山行計画と報告……80 75 74 72
バス時刻（京都北山）……
総目次（21号～30号）……
編集後記・広告案内……36 92 90

巻頭言

一人で山を歩いているのに出会うことがあります。いわゆる単独行と言われるもので、だれにも気兼ねせず、自分ひとりのペースで歩くわけですからとても快適な山歩きが楽しめます。私も若い頃はよくこの単独行を楽しんだものですが、今はやめています。

やめるきっかけは、ある先輩に「単独行は危ないから絶対にするな！」と諭されたからです。「山の中で足の付でも折ったら、一人だと一巻の終わりだよ」とも。万一のことを考えると恐ろしくなってやめたわけです。

二人以上で歩けば、その心配はまずありません。山は油断してはなりません。少なくとも数人のグループ巻山をしてください。いつも一緒の小人数で歩いているとエゴが出て嫌だと言う人もあります。そのようなときは新ハイキングの山行に参加してみてください。

人数は多くなりますが、何度も参加しているうちにきっと気の合ういい人にめぐり会えるでしょう。時にはその人たちと連絡を取り合って計画すれば、新鮮な山歩きができてよいでしょう。人好き好きがありますが、単独行だけは避けたいものです。

新ハイキング関西（代表）村田 哲夫

やませみクラブ

初心者のための 山歩きを楽しむ会

●ゆったりした行程、ペースです。
●基礎をもう一度学びたいという方も大歓迎!!
●お一人でも、どの回からでもご参加いただけます。

	期日	テーマ	予定コース	費用
21回	11月 1日～4（月休）〔三泊四日〕	「樹齢7200年の縄文杉と黒味岳」 屋久島・黒味岳と縄文杉 ☞世界自然遺産に指定されている屋久島は島全体が山の秘境。誰有名な縄文杉は、苔むしてたたり海いた巨しか見ることができない樹齢7200年の巨杉。黒味岳山頂に立てば、九州最高峰・宮之浦岳を一望する雄大な風景に出合う。黒味岳の南麓標高1600m地点にある避難小屋、花之江河は見事な天然の純白木庭園。初心者向きの屋久島山行プランです。	＊黒味岳（標高1831m/歩行所要時間：約8時間）〔第1日〕大阪 ☞ 鹿児島 ☞ 屋久島空港 ☞ 子守滝 ☞ 宮浦（泊）〔第2日〕☞ 登山口……辻川小屋……花之江河……黒味岳……登山口 ☞ 宮浦（泊）〔第3日〕☞ 荒川……縄文杉……荒川 ☞ 宮浦（泊）〔第4日〕☞ 大川の滝 ☞ 屋久島空港 ☞ 鹿児島 ☞ 大阪 ※屋久島～屋久島は航空機から高速船に変更になる場合があります。	115,000円（諸3・昼2・夕3食付き）
22回	11月 ①10日 ②14日〔日帰り〕	「奇岩、巨岩の稜線を歩く」 湖南アルプス～竜王山 ☞奇岩・巨岩が連なる縦横道はミニアルプスの稜線で、眺望も抜群。特に巨岩の大岩盤頂上からは360度の大展望で、琵琶湖から比良の山並みまで見渡せます。	＊竜王山（標高505m/歩行4時間30分）大阪 ☞ 京都 ☞ 上桂駅……落合峠……天狗岩……白石峠……竜王山……白石峠……洞見岳……治道峠……祥雲山……オランダ峠……上桂駅 ☞ 京都 ☞ 大阪	①12,000円 ②10,000円（お弁当付）
23回	11月 23（土祝）～24日〔一泊二日〕	「渓谷と温泉、ススキの山（高原）へ」 赤目四十八滝～大洞山～尼ガ岳 ☞1日目は紅葉の赤目渓谷から温泉まで歩くコースで、近畿の秘境を満喫します。翌日は山頂部原のたおやかな大洞山に登り、広大な展望の尼ガ岳へと縦走します。	＊大洞山（標高1011m/歩行所要時間：約8時間）〔第1日〕大阪 ☞ 落合……赤目渓谷……赤目四十八滝……赤目温泉（泊）〔第2日〕☞ 中太郎峠……大洞山縦走……大洞山縦走……大タワー……尼ガ岳……下太郎峠 ☞ 大阪	29,800円（朝1・昼2・夕1食付き）
24回	①11月29日 ②12月1日〔日帰り〕	「後紅の峠道を歩く」 京都北山・槻敷ガ岳 ☞紅葉狩り後紅の京都北山。この季節、往年の峠道は沿道を彩る風情が深い。落ち葉を踏みしめて歩くトレイルは他の山域とはひと味違います。	＊槻敷ガ岳（標高896m/歩行6時間30分）大阪 ☞ 京都 ☞ 若狭線……若狭平駅…………鎌倉峠……槻敷ガ岳……鎌倉峠……桜谷峠……石仏峠……峠峠……神楽峠 ☞ 京都 ☞ 大阪	①10,000円 ②11,000円（お弁当付）
25回	12月 ①8日 ②12日〔日帰り〕	「ヤブコギで登り、紅葉の名湯へ」 北摂・剣尾山～槍尾山 ☞展望が再度し、展望のよい剣尾山山頂から、少しヤブを漕いで槍尾山に登ります。"ヤブコギ"は藪を掻き分けて歩くことで、山歩きの面白さの一つです。	＊剣尾山（標高784m/歩行4時間30分）大阪 ☞ 阪急西口……石倉山茶屋……大岩窟……剣尾山……槍尾山……長谷寺……第二広場……まやがに広場……ダム沢…………紅葉の郷 ☞ 大阪（下山後、入浴のうえ）	①11,000円 ②10,000円（お弁当付）
特別企画	12月 8日～12日〔10日間〕	「初心者のためのNZ・花を見るハイキング」 ニュージーランド・フラワーハイキング ☞ニュージーランドの花のベストシーズンに最高峰マウントクックを眺めながら歩く	関西空港 ☞ シンガポール ☞ クライストチャーチ～マウントクック～アオラキ～クイーンズタウン～ハンローモンド山～クライストチャーチ ☞ シンガポール ☞ 関西空港（詳細はお問合わせ下さい）	428,000円
26回	12月 22日～23（月祝）〔一泊二日〕	「冬山基本講座（やませみクラブ忘年登山）」 葛城山～金剛山 ☞冬山登山の基本とアイゼン歩行を勉強するとともに、やませみクラブ忘年会を兼ねた一泊二日のプラン。展望のよい葛城山頂・高原ロッジでゆっくりと湯につかり、名物鍋料理をつつきながら年忘れに興じましょう	＊葛城山（標高959m）＊金剛山（標高1125m）（第1日歩行3時間/第2日歩行6時間）〔第1日〕大阪 ☞ 葛城登山口……葛城山頂（泊）〔第2日〕……水越峠……金剛山……中葛城山……ロープウェイ 町 ☞ 大阪	30,000円（朝1・昼2・夕1食付き）

＊以降も、山行プランが続き来ます。詳細はお問合せ下さい。
＊やませみクラブは、女性お一人でのご参加、中高年・初心者を特に歓迎します。

フミニュース～ラヘル株式会社
0120-802514 FAX 06-265-3306
☎ 092-414-5566 ☎ 06-265-3303

奈良井にて

奥田英一郎

木曽路十一宿の中でも北の端近くにある奈良井の宿は、比較的人通りの少ないのがよい。古い街道沿いが残っていて、格子作りの民家や行燈の置かれた旅籠など、写真のモチーフとしてもおもしろいところだ。

通りのあちらこちらに山から引かれた冷たい水場があり、訪れる者にとってはなによりのごちそうである。水がよいせいか、この宿場町にも造り酒屋があって、"酒ばやし"という珍しい杉玉を軒下に吊りさげた古風な構えも興味深い。

いつの頃からか、この酒屋の「杉の森」という地酒がすっかり気に入って、新酒のできるのを待ちかねては出かけるのだった。

上品でもの静かな老夫婦がいて、荷造りをしてもらいながら言葉を交わすのも楽しみだった。

いつだったか、やはり信州からの帰りに例のように店に立ち寄ると、どこからともなく静かなピアノ曲が流れていた。クラシックだったので、この古い趣を残す宿場町の造り酒屋にちょっと意外なとり合わせのような気がしたのだが、しばらく聴いているうちに、何の違和感もなくむしろ不思議なくらいしっくりと聞こえてくるのだった。

ピアノをやっている私のパートナーが「モーツァルトのピアノソナタですね」と言うと、老主人がその言葉を受けるように「いろいろな曲を試みましたが、モーツァルトが一番酒に合うようです」と応えた。

伝統的な古い趣を残す造り酒屋にモーツァルトが合うというのは、老主人の好みだろうと思ったのだが、思い切りするほどに磨かれた柱や床板とともに、古いものにこだわる主のこころねが店の風格となり、研ぎ澄まされたモーツァルトの曲ともしっくりと調和して、違和感もなく聴かれるのかもしれない。

そんなことがあって間もない秋の半ばに、きのこ狩りと紅葉狩りとを兼ねて戸隠へ出かけた。たっぷりときのこ鍋をいただいたり、飯綱山に登ったり、また、民宿のおやじさんが手づかみで獲ってきた岩魚の骨酒をいただいたりして、すっかりリフレッシュした帰りに、奈良井に寄ってみた。

手打ちそばをいただいたあと、例の酒屋に入って老主人の手馴れた荷造りぶりを見ながら、言葉を交わしていたのだが、気のせいかいつになく生気がない。言葉も弱々しいので、加減でもよくないのかと思って訊ねると、奥さんを亡くされたということだった。

随想（山のエッセイ）

長年連れ添ってきた奥さんに先立たれてよほどこたえたのか、あの優しい笑みも失せ、すっかり気落ちした様子だ。

以前いかにも得意気に話してくれた岩魚釣りの話でも聞き出そうとしたのだが、「もう釣りも止めました」と言うのだ。

返ってきた言葉にとまどってわけを訊ねると、「釣ってきた獲物を貰ってくれたり、一緒に喜んでくれる者が居なくなると、不思議なことに楽しくなくなるものですね」と言うのだった。

夫婦の情愛の深さをしみじみと感じさせる言葉だった。むやみに殺生をしないことが、故人へのなによりの供養になるのではないか、という優しさが言葉のはしばしに感じられた。

涙はもう涸れてしまったようで、老主人の瞳はきれいに澄んではいたが、どこかもの寂しくうつろだった。

いま思い返すと、あの時古風な土間で聴いたモーツァルトの曲——あれは確かにピアノソナタには違いなかったのだが——実は「レクイエム」ではなかったのか——と。

集合時間

霧生　功

山行の第一歩は、パーティを組む同行者の顔が集合場所に全員揃った時ではないだろうか。

予定時刻になっても来るべき人の姿が見えなければ、人混みの中を右往左往して捜したり電話をかけたりで、気分もそわそわと落ち着かない。列車に乗れば乗ったで車内を行ったり来たりして、

「居ましたか？」

「居ないなァ」と気が揉める。

もっとも、なかには、

「約束の場所に来ない者を捜したり待ったりする必要はない」と我関せずの人も。

この意見に賛成する人も多い。

目的地の駅に降り立ち、

「一列車待ちましょう」

「これに乗らないと、もうバスがないぞォ、待たずに行こう」

「タクシーを確保しておけ」

「お茶でも飲んで待ちましょう」

と、喧喧囂囂と十人十色の性格が出て面白い。後ろから突然「ヨッ」などと肩を叩き、「先回りして、待っていたんだ」などと人騒がせヤツもいる。

遅れた人も駅で車内放送を頼んだり、列車のダイヤを調べ特急で追いかけたりと大変だ。苦虫を噛みつぶしたような顔で待っていると、改札口から"ニイッ"、と白い歯などを見せながらVサインをして、「ヤァ！ごめんごめん寝坊しちゃって、やっぱり待つべきは友」などとニコニコ顔で言われれば、「駄洒落を言っている場合ではないだろう、コンチクショー」、な

どという気持ちとは裏腹に、ついこちらも意地張になってしまう。

またコッヘル・ガスストーブ・食料などを担当した者が来なければ、物理的にも楽しさは半減。途中で追いついて来たりすると、「ホッ」とし、その反動で楽しさも倍増する。

以前避難小屋泊まりの山行の時、食料とコッヘルを持ったTさんの姿が見えず、どうしたものかと焦ったが、とりあえず！時間待った後、出発した。

小屋では盛大にスキヤキパーティをする予定だったが、しかたなく非常食用のカンパンなどを取り出して、貧しい食卓となった。

「戦後の食料難を思い出すな？」などと懐ろしく古い話をしていたら、「スマン、スマン」と当の本人が頭を掻きながらヒョッコリ現れて、開口一番、「まず、いっぱい飲ませろ」で乾杯となり、一同喜色満面で盛り上がるなか、パーティの準備も整った。

「サァ飲みネェ、食いネェ」、と腕まくりして作ったT さんの料理を囲んだが、「甘さんに食べさせたい一心で、必死に追いかけて来た」と言うTさんの熱い心に感激？ して、大明神か大権現かとまつり上げているうちに、すっかりTさんのペースに乗せられ、油断した。「さあ食うぞ」と思ったが後の祭り。アッと言う間の早い者勝ちで、鍋の中はまっ黒けのネギだけになっていた。

このようなハプニングが鮮烈な印象となって、いつまでも懐かしく思い出される。いわばこれらのハプニングは料理のスパイスのようなもので、山歩きの隠し味といったところだろう。

とはいえ、やはり山行は時間厳守でありたい。もし出発時間が遅れれば気もあせり事故にもつながりかねないし、ましてつるべ落としの秋の日に道にでも迷ったら事態は深刻だ。と……まあ、これはよく言われることだが、ぼくへ自身の自戒でもある。

山道にて想う

左駒　登峰

▼今、私はどうしてこんなことをしているのだろう。何のために人も通らない山道で、20㌔ものザックを肩に喘いでいるのだろう。疲労困憊。呼吸も荒く目もうつろ。頭の思考もままならない。ザックを放り出したい。もう山小屋は目の前というのに、いっこうに近づかない。

念願がかない、意気込んで家を出て来たというのに、初日の登りにすっかり顔を出していた。10歩行っては息をつぎ、20歩行ってはザックを揺すり上げる。

随想（山のエッセイ）

もう高年の身には長期の山行は無理なのかも知れない。しかし、いつまでもここに座り込んでいるわけにはいかない。戻るよりは小屋のほうが近い。一歩一歩、数を数えるようにして小屋に向かった。もう今回で山は止めようと思いながら。

▼苦しい登りが続く。もう頂上が近いはず。先刻見た道標からして頂上に達してもよいはずだが。

前方の木に何か白いものが見える、案内の標示らしい。あそこまで頑張れば何か様子が分かるだろう。ともかくあの白いものまで頑張ろう。やっとたどり着いた標示板。裏返った板を返して見れば、「この木は遠い松です」にがっくり。

疲れた体には、はぐらかされてばかにされたような気がする。植物園でもあるまいに。こんな山の中で。

▼初冬の山道を登る。落ち葉がいっぱい。静かな森の中に私の足音だけが響く。ひと汗かいて歩みを止めると、カサカサと小さな足音が近づいて来る。

目を凝らして見ると、雀ほどの小鳥が私の踏み散らした落ち葉をかき回している。落ち葉の下の虫を探しているらしい。私の歩いた跡をついて来たようだ。私が立ち止まると、彼（彼女かもしれない）も立ち止まり、早く登れと言わんばかりに私を見上げる。

私は彼にせかされるように頂上に向かった。小鳥に追われて山に登ったのは初めてだ。

▼きょうは大変疲れた。まだ陽は高いが泊まることにしよう。たまには早く小屋に入ってのんびり休養するのも悪くない。

夕暮れも近くなって、一人の登山者が小屋にたどり着いた。顔を見ると私が小屋に入った時に次の小屋までと先行した若者である。「どうかしましたか」私の声に彼はけげんな顔をして私を見上げて、「あれ、元に戻ってしまったか」とうす笑いを浮かべた。とあるピークでひと休みして、出発する時に道を間違って戻って来てしまったらしい。

彼は私が声を掛けるまで、気づかなかったそうである。

▼きのうきょう、行き交う女性の登山者が気になってしかたがない。

どの人もどの人も美人ばかりだ。今までいっこうに気にならなかったのに、どうしてだろう。

もう中年を過ぎたと思われるくらいの女の人でも、「こんにちは」とにっこりされると、ついて行きたい衝動にかられる。

もう家を出てから何日になるのだろう。女の人が全部美人に見えだした時（どうもすみません）が、そろそろ帰りどきである。明日は山をおりよう。そうして車を我が家に向けよう。妻も待っていることだろう。

木曽五木を求めて

木曽の森と山

鷲見守康

木曽

木曽五木というものをご存じだろうか。ヒノキ科のヒノキ・サワラ・アスナロ・クロベ（別名ネズコ）、そしてスギ科のコウヤマキ。この五種類の樹木を木曽五木といい、木曽地方の美林を形成する代表的な樹種である。

平成6年11月、この木曽五木を求めて木曽の森と山をさまよった。田立の滝・赤沢自然休養林・夕森公園から天然公園と国道19号線を足繁く通った。

田立の滝

行楽日和に誘われて、目当ては長野県南木曽町の田立の滝。「田立の滝」という観光地を思わせるような地名ではあっても、登山やハイキングのガイドブックに登場することから、ずっと気になっていて、いつか折をみて歩いてみようと考えていた。

岐阜県土岐市から国道19号線を北上し、中津川市から長野県山口村を通過して南木曽町に入る。まもなく「田立の滝」の案内標示を見て19号線を離れる。要所要所の道案内に従い、田舎道を抜け、キャンプ場を経て、突き当たりの駐車場のある休憩所までひた走った。

すでに十台近くが駐車し、観光客らしきグループはいたものの、中高年の山歩きパーティが歩支度を整えているなど、決して観光地というほどの雰囲気ではない。例えば美濃の夜叉ヶ池のように人気があり、ふだんは山を歩いたこともない人たちまで押し寄せる、そんな感じであった。

天河滝

滝までの道は幅広くよく踏み込まれ傾斜もゆるく、「遊歩道」という名にふさわしい歩きやすさなのだが、やがて桟道や桟橋が現れ、滝後半はスリルに満ちた吊り橋を三つほど渡ることになる。

登山口から滝へは1時間ほど。「鏡岩滝」「洗心滝」「霧ヶ滝」と歩いて、やがて眼前に土嶽の「天河滝」が出現すると、「ワァーッ」と歓声が上がった。二段にわたり落差96㍍の滝を形成する垂直の花崗岩壁の迫力に圧倒される。この花崗岩は、さらに上部の「不動の滝」「龍ヶ瀬」へと続き、広大な岩床と心洗われるような滑滝を形成していた。

これほど見事で美しい花崗岩帯は、そうざらにあるものではない。「田立の滝」は、大正14年に「日本百景」に選ばれたそうだが、「なるほど……」と納得させられるものがあった。

渓谷に沿って針葉樹の大木が林立している。一つはモミ（マツ科）、そしてサワラとヒノキであった。往路はヒノキの大木ばかりだろうと頭から思い込んでいたのだが、復路にきちんと確認するとヒノキ科の半数以上はサワラであった。

サワラはヒノキ科ヒノキ属であることから、ヒノキとは瓜二つであり、まさに双生児ともいうべき樹木であるが、大木のサワラを見たのは初めてであった。

「龍ヶ瀬」のさらに上流で、通りすがりに一瞥したヒノキ科低木の表箱に、「おや？」と思って立ち止まり、縁川変をしげしげと観察したところアスナロであった。

「あすはヒノキになろう」と念じ続けているというアスナロを見たのも初めてだ。「不動岩」から「不動の滝」へのくだり道ではアスナロの林があった。

初めて出会った樹木は、このほかにもクロソヨゴ（モチノキ科）・サワグルミ（ニシキギ科）・アワブキ（アワブキ科）などがあったのだが、いつもながら、初めての樹木と出会うのは、自分の世界が豊かになるような楽しさがある。

この地方に多く分布する、紅色へと鮮やかに紅葉するのと同時に花を咲かせるマルバノキ（別名ベニマンサク、マンサク科）にも堪能し、樹肌がこれまで見たこともないほど黒々としたイヌブナ（ブナ科）を見て、なるほどそれで俗に「クロブナ」とも呼ぶのか、と合点がいった。

復路はコウヤマキ（スギ科）を確認して木曽五木のうちの四つに出会ったことから、残りの一つのクロベ（ヒノキ科）に会いたいという想いが、恋心のようにつのることになってしまった。

赤沢自然休養林

クロベに会いたい……田立の滝から帰った直後から、そんなことを思い続けた。

ヒノキ・サワラ・アスナロは、山地のブナ帯（標高600㍍～700㍍～1500㍍あたり）にも生育しているが、クロベは亜高山帯（標高1500㍍～2500㍍あたり）が当者地なので、手軽に行けるコースを考えあぐねていた。

そして思いついたのが、赤沢自然休養林だ。標高はなくとも、木曽五木の巨行林として管林署が管理する森だから、名札のついたクロベの樹にまちがいなく会えるだろうと考えた。

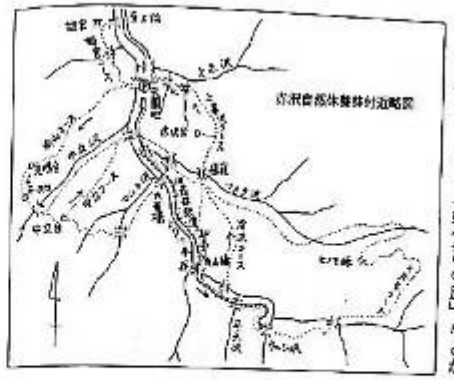
また赤沢自然休養林は、わが国の三大美林の一つとして「31世紀に残したい日本の自然100選」にも選ばれており、かつ、森林浴発祥の地とも言われているので、いつかは行ってみたいと思っていたところで

もあった。

翌週の日曜日、また国道19号線を走った。南木曽町からさらに北上し、大桑村を通過して上松町に至る。

19号線を北上して木曽谷に入るのは初めてである。中央アルプスの西麓にある木曽谷は、東側の伊那谷と比べて山が迫っており、木曽川の左右に続く山並みの中腹はちょうど紅葉の最盛期でもあった。

昔から木材の集散地として栄えた上松町は、観光地としても「寝覚めの床」などが



有名だが、赤沢自然休養林は町の西側に位置している。

11月3日から休養林内の森林鉄道も冬期運休に入り、シーズンオフの休憩林は中央週間の駐車場も閑散としている。空には灰色の雲が広がっていた。駐車場の隅にいきなり名札をつけたクロベ（名札は「キズコ」）を見つけ、きょうの目的の半分以上は早くも達成できたと思んだ。

休養林内には七つのハイキングコースがあるが、そのうち向山・中立・駒鳥、そして上赤沢の四つのコースを歩いた。

樹齢250年を超えるヒノキやサワラが立ち並ぶ天然林の雰囲気は一種独特で、初めて味わうものであった。美しい花崗岩が露出して川床をつくる谷川も清冽で、夏にはピクニックにもってこいだと思った。

天然林にはアスナロもけっこう多いのだが、クロベにはとんと出会わない。上赤沢コースでは、峠を境にヒノキの天然林と植林地の対照が鮮やかであった。ヒノキの天然林には、ミズナラ・カエデ・ホウノキなどの広葉樹の高木も林立していたが、どれも枝を広げることなく、層をすぼめるようにしてひたすら天に向かってまっすぐのびているさまに、不思議な感動を覚えた。

駒鳥コースでは谷川に水を飲みにきたカモシカに遭った。まだ幼さの残るからだつきであどけない表情を見せていた。

曇天続きの天候は回復し、中津川市付近で濃の山々の姿をじっくり味わいながら車を走らせた。姿のきれいな笠置山、張りが大きくなだらかでスカイラインの見事な高鉢山、二つのピークが並ぶ二ツ森山、ゴツゴツとした稜線の伊勢山と西に続く天然公園……、どれもが透明な大気の中ですっきりとそびえていた。

夕森公園から天然公園へ

木曽五木に数えられてか、また、次の日曜日、栗木曽と呼ばれる恵那郡川上村の夕森公園から、標高1580㍍の平坦地に高原湿原が開ける天然公園へと登った。

天然公園は、田立の滝からもめざすことができるのだが、先日は時間的な余裕がなく、登らなかった。

コースとしてはもう一つ、田立の滝よりさらに北に位置する「柿其渓谷」からのもあるのだが、田立の滝から登るのが一番おもしろく、一般的なようだ。

夕森公園は古くからの自然公園であるが、現在は国道19号線から県道でつながり、完

全舗装の大変立派な駐車場が広がって、ラジウム温泉の夕森荘がある。

大きくて清潔な総合案内所はシーズンオフに入り、閑散中。キャンプ場の中にはなかなか見事な「竜神の滝」があり、この滝を過ぎると川上川は広く明るい所となって、「八丁クラガリ」と呼ばれる渓谷にはきれいな水が流れている。

夕森公園から1時間ほど林道を歩いて終点に達すると、ようやく天然公園への登山口となった。登山道は適度な傾斜であるが、

頂上付近までヒノキの植林地が続き、あまりおもしろくない。

登るにつれて登山道には積雪が見られるようになり、やがて湧水が現れ、急登を越えると頂上部に出た。数センチの積雪だ。

頂上部の湿原帯を歩いていると、前方に突然、冠雪の中央アルプスが姿を見せた。木製の展望台から見る中央アルプスは、駒ケ岳・宝剣岳・空木岳・南駒ケ岳が間近だ。ピークは雲で隠されていたが、中央アルプスの山並みを西側から眺めたのは初めてであった。雲さえなければ北から東に御嶽・乗鞍、そして穂高連峰も見えるそうだが、ガイドブックの360度の展望というのは少し大袈裟であろう。南から西は木々に遮られて見晴らしが利かない。

頂上部は亜高山帯で、やっと天然のクロベを見ることができた。ほかにはアスナロ・ヤワラ、そしてヒメコマツもあった。

夕森公園から19号線への爆終、坂下町から眺める恵那山が見事であった。陽が落ちてボーッとしたかすかな光の中、真っ青な空を背景にそびえる遠目の恵那山は、この世のものとは思えないほどの美しさであった。

（平成6年11月13日・20日・27日歩く）

◇参考タイム◇

○田立の滝＝坪栗休憩所（1時間）天河滝
栗屋（1時間10分）不動岩（45分）天河滝
栗屋（50分）坪栗休憩所
○赤沢自然休養林＝向山コース（1時間）・中立コース（1時間）・駒鳥コース（1時間）・上赤沢コース（1時間20分）
○夕森公園から天然公園＝夕森公園（20分）栗穴の滝（40分）林道終点（2時間15分）天然公園（1時間40分）林道終点（50分）夕森公園
◇地形図＝5万＝寝覚・付知・上松

登山に必要なものは、
国産・舶来
すべて揃っています。
足にピッタリ！
登山靴のことならお任せ下さい。
（定休・火曜日）
〒604 京都市中京区丸太町通堺川東入
☎〈075〉211-5768
FAX〈075〉231-0318
山とスキーの専門店
京都 ムラカミ

鹿の住まいにおじゃました

西岳（にしだけ）

松田敏男

八ヶ岳

赤岳から権現岳を写した写真の右隅に、西岳が頭から上を出しているのが見つかった。

この年末はテントによる雪山山行を試みようと考えていた。それもルート上に山小屋のない所を。登山口からあまり遠くなく、つまり雪山といえどもすぐに下山できる危険の少ない所を探していた。全く登山者に会わないことを想定して、完全に自力で山を楽しめるのはどこかと考えていた時に見つけたのが、西岳の写真である。ここなら荒れた天候は続かないだろうし、晴れればアルプス級の山が間近に眺められる。

しかし八ヶ岳の案内を見ても西岳の山頂からの展望の記述はない。下山ルートとして紹介されてはいるものの、編笠山で十分展望を楽しんだあとは、登り返して西岳を通過して下山するのみといった文章しかない。だから頂の写真、それもたった一枚の権現岳の右にある西岳の姿から判断するしかないのだが、頂上付近に樹木がなくてザレ地か岩盤地のように見える。これなら雪が積もっていれば、十分楽しめる山頂にちがいない。赤岳からは眺めたりまで見えているのだから、逆から見れば赤岳は下の西岳からはしっかり見えることだろう。地形図で確認するかぎり、阿弥陀岳の全容ははっきり見え、権現岳に至っては大きく近くにそびえているはずだ。これなら編笠山の等高線のつまった急斜面よりずっと危険は少なく、また山頂直下は樹林帯のようなので安心だ。下山ルートとして案内文に載っているくらいだから、夏道はしっかりしている。たったひとりのラッセルなので山頂は踏めないかもしれないが、まあ楽しみに行くのだからあきらめもつく。ということで、この冬は西岳に登ることに決定した。

西岳より阿弥陀岳（左）と赤岳（右）

朝一番の近鉄電車に乗って、田辺でJR片町線に乗り換える。バスの発駅の梅田には30分以上前に着いた。長距離バスは発車してすぐ渋滞に巻き込まれた。年末の思いがけない大雪のためである。京都を通過したのはもう正午を回っていた。発車から3時間半以上経過している。どうなることやらと思っていたが、大津に入ってから徐々に走り始めた。普段ならまず一番に動きがとれなくなる関ヶ原あたりは、何ということもなく、路面も乾いていて、だんだんスピードは上がっていった。帰ってから聞いた話によると、一日遅れていたらとても行けなかったようだ。

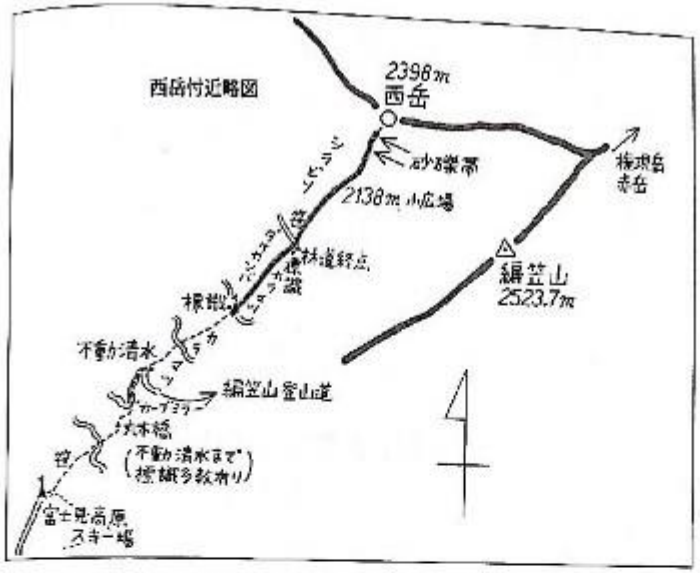
運よく3時間遅れで茅野に着く。しかしもう夕方の5時を回っていて、真っ暗。最も昼の短い季節だから、ちょっとしたダイヤの乱れが、大きく予定を狂わすことになる。楽しみに来たのだから、と私の心はもうすわっていた。この気持ちがあるかぎり、旅は楽しい。仕事帰りの人たちと、中央線の普通電車に乗り込む。青梨、すずらんの里、富士見、真っ暗のホームの信濃境と降りていく客ばかりを見送って、少し明るいめの小淵沢駅に着く。ここからはタクシーで登山口に入ろうと決めていたので、迷わず駅前のプレハブのタクシー事業所へ。他にタクシーに乗る人はいないから、気があせることもない。建物の中に入れてもらって、乗務員さんの手洗用の水道水をポリタンにもらう。

冬期開放のまっすぐな有料道路をゆるやかに登っていけば、登山口である富士見高原スキー場前に着く。雪はうっすらと積もっているだけ。拍子抜けするほどにわずかである。朝の京都のほうが多かったぐらいだ。雪白い水銀灯が皓皓と広い駐車場を照らしている。スキー場からは人工雪を噴射している音が鳴り続いている。しかし水銀灯が照らしている一角からはずれれば、一帯は暗闇でいたって静かだ。

木立ちの中に入ってテントを張れる所を探すが水平な場所が見つからず、駐車場に戻って、いちばん隅にテントを張った。見上げれば満天の雪が水銀灯の光にキラキラしながら舞っていた。広場には私を運んでくれたタクシーが一回転して去っていったタイヤの跡がくっきりと照らしだされ、そこから降り立った私の足跡がテントにつながっているだけ。テントに入れば水銀灯の明かりも眠りをさそうほどのものとなり、不思議なことに人工雪の噴射の音も、人のいるぬくもりのような子守歌に聞こえてきた。はるか来たんだ、うれしいなぁ、明日は雪山に入れる。水銀灯が消えたように感

に、眠りに入り始めた。

次の日は曇っていた。スキー場の横を回り道標に従い山道に入る。少々荒れた感じの道だ。夏は草が密生して暑苦しい所だろう。大小の道が交叉するが、道標があるので、安心してゆるゆると登った。荷物は重いが、ゆっくり歩いても、3時間でテント場に予定している林道に合うはずだ。きょうはそこまでの気楽な雪山散歩。初めての道でも、大きな山でははっきりしているから安心だ。林道を歩いたり、登山道に入ったりしながら、20㌢ぐらいの積雪になったところで、不動清水に着いた。



大きな杉があり、雪の中でも暗く、隅にはトイレなどの建物もあって、何だか薄気味悪い。人の感情が降り積もっているような所というのは、あまり落ち着かない。ベンチがあり、雪をはらって少し休憩するが、すぐに出発する。赤テープで導いてくれるのでよかったが、こういう休憩所一帯は道がいくつもの方向についているから要注意だ。霧氣の深いような所から上に出ると、また明るい開放的な雪道となった。落葉松林の中の一本道。単調だが、しんと静まり返った雪の道はすがすがしい。

歩き始めて2時間半程で、標高1730㍍地点の草が茂って廃道化した林道に出た。標柱があり、まちがいなく西岳に登っている道であることが分かる。開けているためか雪の量は不動清水あたりと大差ないが、地形図上の平面距離で測れば、ちょうど西岳と登山口との真ん中あたり。もう一段上で最後の林道に出合うはずだが、この地点をきょうのテント場と決めた。

テントの中で昼食をつくって、コーヒーを飲む。ゆっくりしてくつろいだ気分になった頃、外がずいぶん明るくなってきたので見上げると、青空が出ていた。ちょっと散歩をしてみようか。気持ちが浮き立ってきた。

やはりその上も落葉松が主体ではあるが、広葉樹も混じり始めている。右上には真っ白の稜線が見える。編笠山方面だ。昨夜の雪で、青空と白い樹林のコントラストで、樹林の間から輝いている。ダケカンバの木

西岳より北岳・甲斐駒ヶ岳・仙丈ヶ岳（左より）

も見え出し、シラビソのかたまりもあった。高度差でちょうど200㍍上がった所で視界が大きく見え、林道に出た。テント場にした林道よりうんと開放的だ。雪もずいぶん多くなってだれも踏んでいない広い雪道が右手に登っている。くるっと回り込めば、眼前いっぱいに真っ白の大きな編笠山がドーンと現れた。南アルプスが逆光の中に背景く並んでいる。早川尾根の上に高潔な姿の北岳がひときわ高かった。逆光の青い南アルプスを描いて、テントに戻った。

しかし次の日も曇っていた。ずっとテントの中でゴロゴロしているばかりでもないので、ちょっと散歩気分で、また上の林道まで上がる。林道のすぐ上に笹原で木はまばら。目印が少ないから赤布を小刻みにつけながら登れば、また樹林の中の道となった。枝は雪で白く、まさに白銀の世界。先程までのわずかの日差しもなくなり、何となく雪空になってきたので、きょうはここまでと思い、ひと休みする。明日も天気がかんばしくなかったなら、今回の山行の最高地点はここになる。記念の写真を写すことにしよう。雪り空をバックに雪がいっぱいついた樹木林の風景。その先は冷蔵庫の中に入っていくような光景だ。

テント場まで戻る間に晴れ出し、先程とはうって変わって美しい雪の世界となった。その輝きだした雪道の20㍍程先に黒いけものが、じっとこちらを見ている。カモシカだ。カメラを取り出してシャッターを切った。あわてているからブレたと思い、気を落ち着かせてもう一枚。雪で明るすぎるから次は偏光フィルターをと、急いでつけて見直した時には、何の姿もなかった。静かに見つめ、静かに去っていったカモシカ。毎日まわりを騒がせながら生きているのが恥ずかしくなる。カモシカは人間より数段上品な生きものだ。カモシカの過ぎ去った所までおりていき、その去っていった方向の足跡を見つめた。私をじっと見つめてくれていた所の足跡を写真にとった。雪の中の足跡は、日を浴びてぬくもりのある形をしていた。

夕日が落葉松林の間からまぶしく光り、甲斐駒の形も目を移動しながら観察すれば判明できる。そんな郷かしい夕刻が足早に去っていけば、もうテントの中は夜。まだまだ早いが、シュラフの中に入る。テントの中でさえ気温は氷点下12度。そんな冷気の中で思いがけないことが起こり始めた。すぐ近くでたくさんの鹿が鳴き始めたのだ。甘くささやくような鳴き声。思づかい。笹をかき分ける音。10㍍も離れてはいない。左からも右からも、鳴く声のあこがれるような音まで克明に聞こえる。私は鹿の住まいにおじゃましているのだ。テントの非気口を思いきり開け、両目を外に押し出すようにして見るが、姿は見えない。星明かりで、ボーッと雪の道が見えるだけ。何というすばらしい体験だろう。シュラフにくるまったままで、両膝を立てて何度外をうか

がったことか。左の脚が声をあげれば、右から応答がある。どんな話をしているのだろうか、知りたいなあ。

次の朝は快晴。西岳に登頂できる。足跡を雪の中に意識的にしっかりつけて、下山に備える。歩行をつけるまでの天候の変化はなさそうだ。きのうの最南地点などはあっさり抜け出て、どんどん高みに進む。トレースはないが、ラッセルする程でもない。この時を待っていた。そして今が実現の楽しい瞬間だと思うと、体が、目がしらがジーンと熱くなる。力も全身にみなぎる。2136㍍に小さな広場があり、またシラビソの森に入るが、突然砂礫帯に出た。赤茶で下山の目印をして砂礫帯を横切り、少し樹林帯に入りもう一度ザレ場に出る。ふり返れば南アルプスは二日前に描いた地点からよりもうんと高く、躍動している。そして最後の低い樹林帯を抜ければ、岩石帯の山頂だった。

立派な風貌の赤岳と阿弥陀岳がそびえ立ち、権現岳は尖鋒を天に突き立てて、壮大な眺めだ。円錐の編笠山の右奥には富士山が望まれた。中央アルプスや北アルプスもずらりと一線で並んでおり、白馬岳までくっきりと遠望できた。山頂は大きな岩がいくつもあり、その間は雪が腰ぐらいまでの深さで積もっているが、岩の上は乾いていた。岩の上に座ってこの壮大な眺めを心ゆくまで描いた。すばらしい山頂だった。計画設時での好判断に満足した。

一番上の林道がすぐ前に見える所までくだってきた時、突然、ピピッとひきしまった鳴き声が一声響き渡った。林道の脇の、こちらからは見えない所から、10頭ほどの鹿が一斉に逃げていった。上下に跳びはねる美しい後姿をただ呆然と眺めた。お尻の白い毛を立てて、笹原の中に跳びながら消えていった。のどかに食事をしていたひとときをかき乱してすまないことをしたと思ったが、美しいシーンを見ることができて、とても幸せだった。カメラを出していればシャッターが押せたかもしれない。雪眼が逆光で光っていたから、さぞいい写真にできあがったことだろう。

その夜はテントの排気口をまるめあげて、絵を描く時に使うクリップで止めて、ぜひとも鹿の姿を見ようと試みたが、氷点下15度以下の冷気を入れるばかりだった。でもきのうと同じく近くで鹿の鳴き声を感づかい、足音を聞くことができた。そうだ、次回はテープレコーダーを持ってきて録音しよう、そう思うとまた楽しみがひとつ増えた。

下山中にも鹿の走り去っていく姿を瞬間に見た。富士見高原スキー場に下山して、タクシーの運転手以来、3日半ぶりに人間と出会う。八峯苑鹿の湯まで歩き、入浴したあと、タクシーを呼んで信濃境駅に着く。

JRに乗るまでに時間がたくさんあり、駅前の店で正月用の柱飾りを買った。信州のは極彩色で活気があり、大好きである。わが家の玄関は、正月のみ信州の匂いがする。

（平成7年12月25日～29日歩く）

◇コースタイム◇

富士見高原スキー場前（2時間30分）標高1730㍍の林道（3時間）西岳（1時間30分）標高1730㍍の林道（1時間30分）八峯苑

◇地形図◇2万5千＝八ヶ岳西部

連載

日本霊山紀行 29

蓼科山（たてしなやま）

2530㍍

浅野孝一

蓼科山は「諏訪富士」とも呼ばれ、八ヶ岳連峰の最北端にそびえる美しい形の山である。

それ故、アララギ派の歌人伊藤左千夫は、「信濃には八十の高山ありと云へど女の神山の蓼科われは」、また島木赤彦は、「草枕いくつも越えて来つれども蓼科山はなほ丘の上にあり」とうたっている。

『日本山嶽志』は「立科山（別称蓼科山、蓼原岳、高井山、蓼岳山）信濃国北佐久・諏訪ノ二郡ニ跨ル、北佐久郡武田村ヨリ六里十八町（現在三里）ニシテ其山頂ニ達ス。標高八千三百四十九尺、」と記している。

『信濃国立科山登得記上』は「信濃国立科山は、（旧史は蓼科）佐久郡の正南に聳線して、諏訪小県の二郡に跨り、伊那郡に臨を出、伊木・湯川、豊岡に四郡を蔽ひ甲斐の二郡を背面にして、八嶽を利賀に連ね……（蓼科して登山女人は峯上を禁ず）山上に鎮座す大神は、高皇産霊尊と」記している。また山名の意味は「大神の産霊によりて、生立稲の科ひたり穂したるを表稲こころにて名る処也。」と記している。

木暮理太郎は『山の今昔』の中で、「今試に神と崇められた山の中でも、比較的高いものだけを國史から拾ひ出して見ると凡そ次の通りである。」と記し、その一つに「蓼科神（正六位上）信濃國陽成天皇元慶二年九月従五位下」であったと記しており、仁明天皇承和後陽成天皇にいたる間、高山は擬人化され位階が授けられた。

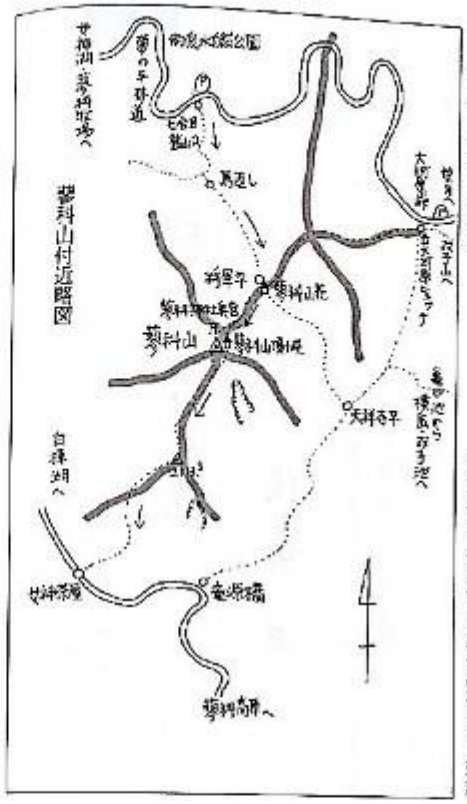
かつて私が若かった頃、山頂からの展望写真を撮るため幾度か登った。霧溜橋から樹林帯を抜き、天祥寺平から大河原峠に達し、さらに左へ登山道をたどって根石平から蓼科山に登った。早朝の山頂からの大展望を楽しみたい人は、蓼科山荘か山頂の小屋に泊まることをおすすめする。

今回、A旅行社の日帰り蓼科山登山の新聞広告があったので参加してみた。コース

北横岳より蓼科山

は北側の御泉水自然園の蓼科山七合目から将軍平、山頂、女神茶屋である。このコースは三度ほど歩いたコースでもあり、費用も手頃だった。

新宿駅朝7時30分に出発したバスは45名の老若男女を乗せ、11時30分に蓼科山の北の七合目登山口に着いた。登山開始は11時45分であった。歩き始めのゆるやかな樹林帯の登山道は、やがて「馬返し」を過ぎると急登に変わる。ふり返ると、霧ヶ峰方面と下方に女神湖が見えた。



将軍平で昼食をとっていると、午前中に登った登山者が続々とおりてくる。ここから山頂まで約150㍍の高度差であるが、岩の多い登山道で苦労する。途中下山者とよく行きちがった。

山頂着は14時30分頃、すでに霧もだいぶ過ぎているので、登山者は私たちだけであった。朝方見えていた八ヶ岳は霧の中で、天祥寺平と大河原峠、眺望あたりだけが見え、北方の北アルプスも霧の中であった。

将軍平と山頂直下に山小屋がある。蓼科山の山頂は広いが、岩が累々と重なりあっていて歩きずらい。山頂の中央部の窪地に蓼科神社の奥社がまつられている。2530㍍の三角点は東の一角にあり、西よりの岩塊の上に展望台がある。

蓼科神社の里宮は北方山麓立科町芦田にある。高井明神とも呼ばれ、祭神は高皇産霊大神他で五穀豊穣・桑蚕守護・安産祈願の神社である。

下山コースの女神茶屋へは四方へくだってゆくが、下山口が分かりにくい。蓼科山山頂小屋の横手から左に八ヶ岳を見ながらくだる。岩と岩の間に足をつっこみかねない。

山頂を右へくだりきるに進んで、山腹部の岩石帯から潅木帯の登山道にくだってゆくが、霧の日とか小雨の時は迷いやすい。潅木帯に入っても、登山道には岩が出ていて急でむき出しの赤土は滑りやすい。気をぬく暇のない下山道である。2200㍍付近で平地となりホッとするが、2113㍍のピークから再び急坂となる。

1950㍍までくだると、ゆるやかなカラマツの点在する笹原となる。再び急坂をくだり、ゆるやかな笹の間を進むと眼前に女神茶屋が見えてくる。私は感（ふん）となってしまい、迎えに来てくれた孫の人と清様の待つバスにたどりついた。

（平成8年7月歩く）

蓼科山山頂（展望台から三角点を望む）

◇参考タイム◇

蓼科山七合目登山口11・45―将軍平13・10～13・40―蓼科山14・25～14・45―女神茶屋17・35

◇地形図◇2万5千＝蓼科山・蓼科

山行二口メモ

山は早足が有利

ガイドブックのコースを歩いていて、ガイドに書いてない分岐があった。時間に30分くらい余裕があったとしよう。分岐を15分入り込んでみよう。すると「コレはまたすばらしい」という眺めに出会えるかも知れない。これは、早足のお陰というもの。

普通なら、一泊しなければ諦めない頂上を、早足なら、朝一番に家を出れば、日帰りで達成できることもある。同じ日数で、早足なら他の人よりたくさんの山行ができるのである。

とはいうものの、「早足」は持って生まれた体と訓練と、加えて精神力も必要なので、だれでもというわけにはいかないが、ブラブラと歩くより、スタスタと歩くように努力すれば、たいがいの人は、そこそこ早足になれるだろう。

今までブラブラと歩いていたのを、スタスタ歩きにすれば、少なくとも時間的な余裕が生じ、心にゆとりもできるし、心肺機能も向上する。（松尾）

低山登山～本格トレッキングまで、
登山用品のことならおまかせ下さい。
新入会の会員様で更に割引します。
山とスキーのヨシミ
〒543 大阪市天王寺区南河堀4-70
TEL06(772)7231
JR天王寺駅北出口右へ歩道橋渡ってスグ

奥高野の名峰と紀州の最高峰を巡る

伯母子岳から護摩ノ壇山へ

酒井賢治

奥高野

奥高野の伯母子岳は、古からこの山域屈指の名山とされてきた。同じ山系の護摩ノ壇山が高野紀伝スカイラインや林道の開通により、自動車で簡単に登れる観光の山と化した現在、あまり手垢がつかずいまだに奥深さを保つ伯母子岳は、私たち山好きにとって貴重な存在だと思う。

深田久弥氏は『日本百名山』の後書で「関西で選んだ伊吹山・大台ヶ原山・大峰山のほかに、昔から名の聞こえた鈴鹿山か比良山を加えたかった。鈴鹿山へは二度行った。しかし御在所岳はもう遊園地化していたし、藤原岳に登って鈴鹿の山々を眺めたが、何にしても高さのないことが、私を躊躇させた。比良山も同様である。むしろ奥高野の山々から一つ選ぶべきであったかもしれないが、私はまだそこを知らない」と記している。もし深田氏が伯母子岳に登っていたとすれば、奥高野の代表としてこの山が百名山の一つに選ばれていたのでは……と身贔屓ながら思うのである。

ともあれ伯母子岳はその素朴で落ち着いた風格といい、高野や熊野信仰など歴史的観点からみても、近畿の名山といえよう。

私は今までに二回登った。最初は新緑のコノ谷から登り、熊野古道を大股にくだった。二回目は晩秋の古道を逆に登り、五百瀬にくだって川津に出た。いずれも単独行で、晴天に恵まれ深く心に残る山行だった。

昨秋、山仲間のMさんから紅葉の伯母子岳へ行こうとの誘いがあり、二年ぶりに我が心の名山に登った。一泊まってみたかった「伯母子山の家」にも泊まり、静かな一夜を過ごした。翌日は、紅葉真っ盛りの尾根道を護摩ノ壇山まで縦走した。またまた晴天に恵まれ、思う存分奥高野の秋を満喫できた二日間の山旅であった。

11月3日、南海難波駅8時発の高野山行き急行に乗り、橋本でケーブルに乗り換ぎ、9時45分高野山口に着く。大勢の観光客がそれぞれの目的地へバスやタクシーで散っていく。私たちは予約していた立里荒神行きのバスに乗り、10時10分山上駅を出発する。荒神さん詣りの客で満員のバスは、高野の町を抜けるとスカイラインに入り、紅葉に染まる山間や高原上を快走する。途中から立里荒神への道路に入り、急坂をくだって野迫川村役場前で私たちだけが下車。予約のタクシーに乗り換え北股川に沿った山峡を南下、山腹に明るく拓けた平維盛ゆかりの平の集落を経て、11時15分谷底の集落大股に着く。きょうは村のお祭りだそうで餅まきがあり、村人が餅を奪い合っていた。

大股集落を渡って民家の間の坂を登り、左

伯母子岳山頂より奥高野の山々（手前左に牛首ノ峰・中央遠く護摩ノ壇山）

の小道を登ると村の簡易水道の水源池があり、ここから左へブロック造りの階段を上がる。墓地の前から山道に取りつくと、いきなり植林中の急登でジグザグに高度をかせぐ。ひと汗かき、雑木の間から右下に大股の集落を見下ろすと、勾配もゆるくなり右へ回り込むように山肌を歩く。二度ばかり小さな谷の上部を絡み、陽い植林の中をゆるやかに登って、12時頃、豊の小屋跡に着く。小屋は崩壊しているが以前はさぞかし立派な宿泊所であっただろうと推察される。

小休して、小屋跡の南側から古い指導標に従い草深い道を登る。右側に展望が開け、熊長谷の大きな切れ込みの向こうに夏虫山からくだる尾根、そして北股川源流を成す野迫川村の山と谷が鮮やかに望まれた。小屋跡から鞍部までは、鞍部すぐ北の1236㍍ピークより北方向にくだる大きな尾根の西側山腹に、ゆるやかにつけられた熊野古道（小辺路）の登りだ。昔日、人々は幾つもの峠を越えて、高野山や熊野詣でをしたのであろう。昔を思はせる静かで歩きやすい道である。夏虫山の頂上部を近くに仰ぎ、前方の梢間に青い空を見て、あとひとときの登り、13時前に鞍部に登り着く。雑木の疎林に小笹の敷きつまる、明るい乗越で、鞍部というより鞍平と称したい雰囲気だ。初めて伯母子岳と東へ連なる赤分峰のなだらかな稜線を見る。汗ばんだ肌にコノ谷からの風が気持ちよかった。ここでMさんと話しながらの楽しい昼食とした。

鞍部から幅広い尾根を少し歩き、夏虫山への分岐を右に分け、左にコノ谷の枝谷を見て雑木帯をゆるやかにくだる。右は夏虫山東南支尾根の山腹。このあたり、以前に歩いた時は牛蒡のようなけものの臭いが漂っていた。今回は二人ともザックを軽くするため、飲料水は途中の水場で補給するつもりだったが、肝心の水場は雨不足のため岩盤を流らす程度だった。コップで水を掬めポリタンを満タンにするまで余計な時間を費やした。状況判断の甘さを反省する。

コノ谷に沿って進み、夏虫山の支尾根が並行すると、突然と立ち並ぶ杉林の中をゆく。5～6人の女性グループがかしましく下山していった。さらに檜林と雑木林のふり分けを登って伯母子岳北の十字路に着く。幅広い遊歩道が通り、しっかりした道標が「右・護摩ノ壇山へ15㌔　左・伯母子山の家へ1㌔」と示している。

ブナの疎林、雑木と小笹の道をまっすぐ

伯母子岳山頂をめざし急登する。背後に午後の日差しをうけた紅葉が映えていた。14時20分、伯母子岳（1344m）頂上に着く。以前には視界を妨げていた灌木がいつの間にか伐採され、胸のすくような360度の展望が広がっていた。

西方向は近く牛首ノ峰を見て、口千丈山・奥千丈山・古畑山と長い稜線がうねりながら続き、遠く護摩ノ壇山まで連なっている。南方向は神納川とその支流の深い谷を隔てて鎌尖岳・国又山などの山並み、そしてはるか遠く果無山脈が霞いスカイラインを描く。東は峰続きで近い赤谷峰と、遠く連なる大峰南部の山々、そして北を埋めつくす高野の山々と、全くすばらしい展望台である。30分程展望を楽しみ、山頂東端から左へ全山紅葉の伯母子峠への道をくだる。15時前伯母子峠に建つ山小屋に到着。空身で赤谷峰を往復することにした。

赤谷峠へは、峠から東へクマザサをかき分け突き進み、紅葉に彩られた深い自然林の中の踏み跡をゆるやかに登る。古い木柵の架線場跡を過ぎ、幅広い尾根をゆくとススキと背の低い灌木の丘陵となり、峠から30分程で赤谷峰の丸い頂上に着いた。ここも四方全開の展望で、いま登ってきた尾根の向こうに、伯母子岳がやわらかい山容でそびえていた。山里らしいものは全く見えない。北方遠く荒神岳の尾根上に建つ「聞善社」が、西日に照らされ白く光って見えた。五百瀬への古道がくだる伯母子岳東面尾根はもう三回谷に影を落としている。秋の日はつるべ落としだ。15分程山頂で憩い、往路を16時過ぎ山小屋に戻る。少しして単独行の男性が小屋に着いた。けさ9時に高野山を発ち、熊野古道小辺路を歩いてコノ谷からの登頂と聞く。明日は五百瀬へくだり、三浦峠・果無越えを本宮まで行くとのこと、すごい健脚だ。

樹間から見る大峰の山々が徐々に夕闇に消えていった。10畳程の小屋に男性が三人、ゆっくりとスペースをとって、20時頃シュラフにもぐる。

4日、単独行の男性は6時前に小屋を出発。私たちはゆっくりと朝食をとり、7時30分小屋を出る。再度伯母子岳に登ったが、あたり一面の霧で朝の展望は楽しめなかった。しかし太陽は霧を透して東の空から斜光していた。一瞬、南側眼下の霧が風に払われ、大きな谷が口をあけた。少し待ったが霧は晴れず、8時山頂を出発。

自然林と小笹の暗るい伯母子岳西尾根をくだる。くだるほどに霧は晴れ、後ろを見ると、頂上部が霧に閉ざされた伯母子岳が大きな尾根を谷に落としていた。20分程で伯母子岳と護摩ノ壇山を結ぶ遊歩道に出る。幅2m程の明瞭な道で、あたりは紅葉の真っ盛りであった。次の牛首ノ峰はゆるやかに登って途中から北側山の腹をまく。ブナなどの深い森林がナベワリ谷に落ちていた。再び太尾根に沿って進むと、明るいススキのなかの登りとなり小さなコブに着く。

南東方向に大展望が開け、神納川最大の支流小井谷の全容と、谷をとり囲む山と尾根が展望できる。すぐ前の城山の太尾根ノ頭も頂上を踏まず南を巻く。このあたり尾根縦走というより、文字通り遊歩道を散策する感じだ。ゆるやかな登りくだりを過ごし遊歩道を進む。左眼下の深い谷に、尾根を迂回するように林道がぶっている。口千丈山は3等三角点の山らしいが、標石を確認しないまま通過した。右後方に、樹間を通してすっかり霧が晴れあがった伯母子岳や、きょう歩いてきた尾根が長々と続いていた。

明るい1294mのコブを越すと、遊歩道は主尾根から離れ、小笹の密生するくだり道となり、15時30分森林作業用の林道に着いた。伯母子岳自然遊歩道の標識が立つ。ここまで車で来て遊歩道を往復すれば難なく伯母子岳に登れるようだ。展望の良い路肩に座って小休憩する。ダンプカーが一台林道をくだっていった。

ここから護摩ノ壇山へはおおむね主尾根に沿って敷かれた長い長い林道を、ただひたすら歩くのみ。しかし、神納川の深い谷を隔ててそびえる護摩ノ壇山や尾根上の山々など、見あきぬ展望に心がなごむ。時折、北側に高野方面の山並みが広がる。途中、北股への林道や神納川にくだる新しい作業道を分け、さらに西向きに進む。古畑山頂上部の下を通過すると、護摩ノ壇山は神納川源流の谷の向こう真横に迫るが、この谷を大きく迂回しなければならない。杉林の谷の紅葉を大きな渚が駆けおりていった。

いやという程遠回りしてようやくスカイラインに出て、13時前護摩山タワーに到着した。タワー付近はマイカーや観光バスの客でいっぱいである。私たちは喧騒から逃れ、少し離れた林道で昼食とした。食後整備された遊歩道を登って、10分程で灌木に囲まれた護摩ノ壇山（1372m）山頂に着く。

和歌山県の最高峰だけに展望は360度で、伯母子岳をはじめ鉾尖岳・高国見山・城ヶ森山そして奥高野・紀州の山並みが果てしなく広がっていた。しかし、この山を中心として四方に延びる林道や観光道路は、山の奥深さを半減させている。カメラを手にした観光客が次から次へと登ってくる。私たちの山装束が場違いのように感じられた。もはやこの山は歩いて登頂する山ではないようだ。

バスの時刻まであたりを散策したりおしゃべりをしたりして、16時45分発・高野山行き特急バスに乗る。車窓に西日を浴びた紀州の山並みが後方にも続いていた。

（平成7年11月3日～4日歩く）

《コースタイム》

大股（3時間）伯母子岳（15分）伯母子峠（赤谷峰往復1時間）峠の小屋（泊）
伯母子峠（20分）伯母子岳（2時間30分）林道に出合う（2時間30分）護摩山スカイタワー（10分）護摩ノ壇山

《地形図》

2万5千＝伯母子岳
昭文社＝「55奥高野」

飛騨三名山のひとつ

川上岳

飛騨

多摩雪雄

好望・草山の昼食

初冬の冷気を頬に感じながら、長い間立ちつくしていた。

その見晴かす山々がいちいち指呼できるはずもないのに、北の国境稜線に2～3日前に訪れた金剛堂山や上谷山の姿を思い浮かべ、北から東にかけては双六岳から穂高、そして乗鞍・御嶽と連亙する日本の屋根を、息をつくことさえ忘れて眺め入っていた。いま、私の立っているなだらかな草山は飛騨の奥地、益田と大野の郡境上に位置する名峰、1626㍍の1等三角点峰・川上岳である。

東側の風下の窪地に座して昼食をとっていると、中老の男性が大きなカメラを持って静かに現れた。宮川から登って来た、月に二、三回は登山すると言い、早速三脚を設置し始めた。そして、私たちに四方の山々を丁寧にひとつひとつ教示してくれたのであった。

東面登山口まで

高山市に二泊した最後の日、宮川ルートのほうが近くて登りやすいのだが、宮林署でゲートのキーを借りられるのは9時過ぎなので、このコースはとれない。苅安峠・位山峠を越えて山之口の上之田から山之口川に沿って北上する林道は狭いが、手入れのよい杉檜林の中で要所には登山道の指標が立てられている。

小足ひを渡ると、すぐゲートがあり、大足谷を渡った地形図上の家屋記号の所に駐車。標高890㍍地点、頂上まで5㌔の標示がある。

図上破線は大足谷右岸に沿って、西から南へ廻上し、つめ近くで稜線に登っている。ここの紀行文をだいぶ前に拝読した覚えがあるが、私のファイルに記載もれのため、残念ながら詳細が分からない。

宮川ルートの宮併用林道を、メクイ谷とツメタ谷の合流点のゲートを開呼し、ツメタ谷1227㍍地点の清見村乗越まで車行すれば、標高差400㍍、距離にしてわずかに2㌔、1時間30分ほどで山頂に到着できる。

川上岳山頂に憩う（バックは乗鞍岳）

東面山之口ルート

大足谷を渡った登山口を出発したのは8時50分、すぐ上に二軒のボロ小屋を見て湿地を避ける広い大石道。右手に山の神を拝して、下草地点から10分、軽井沢敷の仮橋を右岸に渡ると、いきなりジグザグの急登が始まり、1150㍍圏まで木流と左手の小沢との中間稜を登って行く。

やがて小足谷との中間稜の北鉾山を蛇行しながら、徐々に登って行く杉伸林の中のしっかりした小道は、下生えのネマガリダケが幅広く刈ってある。

10時、右後方に乗鞍岳が見えてくると1

200㍍圏の稜線となり、「本日はようこそおこし下さいました。まだまだ頂上にはほど遠く、帰るのでしたらここから戻って下さい」と親切な標示が木の枝に下げられていた。

これまで宮林署の見出標を追ってきた。右手の都岸稜と並行に並行しながら徐々に登って、あと3㌔地点を過ぎると、槍・穂が見えてきた。紐木とネマガリダケの稜を登ると、山標のある1430㍍一服平の休み場に着く。東面の大好望と御嶽がすぐ間近に聳居している。

これまでにも三回20分近く休んだが、ここでも15分休んで11時ジャストに出発。右手になだらかな草山の頂上と対峙しながら、1～2㍍のコブを緩慢、だらだら降登する。1449㍍から登りとなるとブナが現れて、右（西）腹を長い間レベル（並行）にたどって大足谷源流近くの1490㍍で図記の稜線道と合したのだが、その谷筋ルートの跡形はまったくなかった。

そこから頂端の二段へくだって流れ沢を渡り、次の稜線は崩壊していて新しく設置された梯子で降登してから、また荒れ沢を渡る。ゆるい登りとなり、ツゲの群生するなかをジグザグに登っていくと、アオキとユズリハの間を抜けて笹原となり、見晴らしの良いたのしい道となる。宮村・清見・萩原の三村分岐1617㍍峰に着くと、宮村登山口まで1・7㌔の標示があり、北のツメタ谷源流に沿う広い林道には数台の工事車両が自家用車かが下のほうに見えた。

北の頂上へ向かって4～5分くだり、ドウダンツツジのトンネルを抜け、草地をゆっくり登って12時20分、川上岳の広大な草地の頂上に着いた。頭部を赤く塗られた1等三角点標石が寒風のないきれいな顔を見せている。遠北は西へ40度ずれて埋設されていた。

国土地理院の台帳名は兎馬場、林野庁所有。埋標・明治28・7・31。昭和62・10・15更新。1625・87㍍。

北西の風6㍍、わずかな層積雲、快晴、概氏9度。

1時間以上も滞頂した。くだりは風光を満喫しながら、のんびり2時間ちかかって駐車地におり着いた。

（平成7年11月初旬歩く）

△コースタイム▽文中を参照

△地形図▽2万5千＝山之口・位山

20万＝高山・飯田

甲津原から

夜叉ヶ妹池

筒井克治

湖北

春先から若狭や湖北の山々を訪ね歩いてきた。皆深い裾野の山里は季節が経つほどに明るさと輝きを増す。それは雪解けが緑の森を育て水を貯え、そこから生まれる風がやわらかく吹き渡るからだろう。

今庄から登る夜叉ヶ池が姉池で、近江高山からの稚児尾根上にある池は妹池と呼ばれているとか、高山の月ノ坊にはその守り本尊があると聞く。

相棒がいるので、甲津原から訪ねることにした。甲津原は姉川の最奥の村で初めて訪れる所だ。姉川はすでにダムの工事が始まっていた。付け替えられたトンネルを抜けて広い道から集落に入るとそこが甲津原だった。

分校の駐車場に車を駐めて、村に戻っていくとちょうど出かけようとしておられた民宿の主人に出会ったので池のことを訊ねた。「妹池か、うん！　何度も行ったよ。池の真ん中にナラの木があって、池の底からは水が湧いていて陰鬱とした池だ」「登る道はありませんか。高山からの道はあるみたいですが、地図を見ると甲津原のほうが上級のように読めるんで」と訊く。

思案顔をしていたが、アッチャコッチャ調べ歩いていることを説明すると教えてくれた。乗れと言うので、トラックの荷台に乗る。

整備された田んぼの中の道を行くと「向こうに見える谷の補修に道があってな、700m程から上を国に売り渡したが、その時切り開いた道があるからそれを登ると頂上に着く。2000m程戻ると池がある」と教えてくれた。

姉川吊り橋の残骸

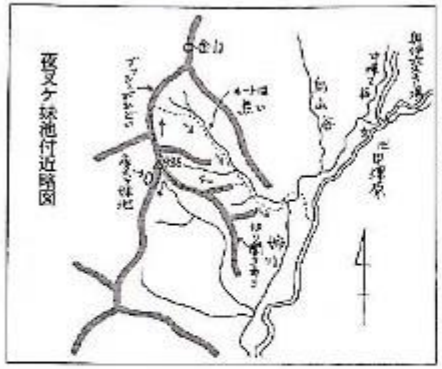
「あの山の名前は？」と訊くと、「あれは金山と言ってな、昔砂金がとれたんだよ」。幕府を騙して鉱山を開いたとか、物知りの人に会えたのはラッキーだった。いろいろ訊きたいのだが、「帰りに寄ります」と言って別れた。教えてくれたコースは僕の予定していたコースと一致した。

姉川の流れは深みもあり、パンツ姿になって渡渉する。水が冷たく辛抱の限界ぎりぎりで対岸に渡ることができた。身仕度してよく見ると、ナラの大木に吊り橋のワイヤーロープの残骸が目に入った。この地点は正規の道跡なのだ。

わずかに山道がある。植林の中は分かりにくいが、谷の奥に入ると良い道が通っていた。アドバイスにあった一つ目の谷からの道が植林地でよく分からずに迷んでしまい、ブッシュのひどい谷沿いの道を行く。

珍しいランの花が咲いている。ウドのやわらかいところを食べてみる。ブッシュに辛抱できず適当な尾根に取りつくことにする。ぐんぐん高度を稼ぎ、山頂まで迷うことはない。切り開きもわずかに形跡を残している。

2等三角点の山頂（986m）に着くと稚児尾根を戻るのだが、雑木のなかはどこも同じに見える。ミズナラの木を目印にして進むと緑苔路の細い道に出る。くだっていくと高木の森は深くなり、左手に谷の源流があり、それらしい雰囲気になってくると、池の水面が樹間から光って見えた。


夜叉ケ妹池付近略図

山の本に記述されているように、樹林に囲まれたちょっと不気味な感じのする池だ。残念ながら水量は少なくて、真ん中は湿地化して草が生えている。民宿の主人が言ったナラの大木はすでに枯れていた。

対岸に行って昼食にする。人が離れたのを感じてか、蛙の鳴き声が聞こえるだけの古池だった。妹池のまわりを十分見て、帰りは切り開きを伝うと、三角点への近道であった。訪れる人はまれなのだろう、テープの印もわずかだ。帰りは金山まで尾根通しで行き、集落へ適当な支尾根をおりようとしたが、歩きずらい雑木のブッシュに負けて谷をおりることになった。

帰りは登った位置を確認しながらおりて行く。杉林の中に一つ目の谷への道が見つかった。次回は池の水がたくさんある時に来ようと思った。

姉川を再びパンツ姿になって渡り返し、田んぼのふちに座りこんで緑の山並みを眺めると、何となく分かったような分からんような気分になった。何なんだろうと思う程に、谷の奥とは思えないような景色があるのだった。

民宿の主人は「よく分かっただろう」とにこやかに迎えてくれた。お茶をよばれながらいろいろと話をしてくれた。山の向こうに魚釣りに行き、金糞岳から鳥越峠を回って帰ってきたとか、鯉を二匹担いで登り妹池に放したとか、所有の山を国に幾らで売り渡したとか、池は浅井町の管轄でここは伊吹町なので池との付き合いは薄れた。昔は緑組もたくさんあったとか。また美濃の山池をあちこち歩いたことも話してくれた。

西時川の丹生から登る七々頭ヶ岳のことを訊くと「あの川もダムができる」とか。

早いうちに行かねばという気持ちになった。きょうもよい山歩きをありがとう。

（平成8年5月31日歩く）

△コースタイム▽

姉川取付点（2時間）三角点986m（15分）夜叉ヶ妹池（2時間）姉川取付点（但し登山道はない）

△地形図▽2万5千＝近江川合・虎御前山

関西・山越の古道を歩く

寺山　英男

⑪ 葛城越・井関越

6月15日はとても暑い日だった。

南海孝子駅に降り立ったのは9時過ぎ。和歌山方面に向かい、一つ目の踏切を左に折れて西仙寺に向かう。しばらく進むと木立ちの下に「孝子観音へ」の道標。それに従い山麓の道に入る。道端にカタバミが群れて咲いていて、イエローベルトみたいになっていた。所々にムラサキカタバミも競うように咲いていた。古い石碑があり、「和泉西国廿二番札所」「葛城第四信解品霊場」と彫られてある。山道を登る。階段状になり、やがて石段が始まり、山門が見える。

長い階段を汗をかきながら登る。本堂は木立ちの中にひっそりと静まり返り、本堂の左隅に「役の小角　長公の墓」の立札がある。裏側左奥に墓所と役ノ行者像がある。

役ノ小角が捕らえられそうになった時、母が泪となって捕まり、ここで亡くなったという。

本堂の右手裏から登山道にとりつく。道はつづら折りの急坂道である。よく踏まれた道だが落ち葉が積もっていて滑りやすい。10分ばかり登ると、下界がよく見える。雑木林の中を行くうちに広い林道に出る。ひと息入れる。

尾根道をゆく。クマザサの生える小道は気持ちがいい。飯盛山に到着したのは、11時30分だった。山頂から関西国際空港が、よく見える。和歌山市や岬町が眼下に広がる。女性2名、男性1名のグループがササユリを取っていた。もう1本で20本になる、と探していた。お恥ずかしいことだが、「やめてください」とは言えなかった。

ゆっくりと昼食をとり、12時15分、札立山に向かう。木々がこんもりと茂った小道を楽しむ。13時15分到着、次は大福山。

紀和国境稜線を行く。ハイキングコースになっていて歩きやすい。間もなく和歌山市内や紀ノ川やお城も見える。

向きを変えると、大福山や雲山峰が見える。しばらく進むと登り坂になる。大きな木の下にお地蔵さんがまつられ、そばに大福山と刻まれた古い石碑あり。元禄九年とあるから西暦1696年、300年前のものである。すぐ上が大福山。木立ちに囲まれ展望は無い。14時30分。

山頂を確認して、少し戻り、友人の持参したビールをいただく。冷蔵状態のをここまで持ってきた回数があり、うまい。ただこの一言につきる。ここから畑・石山へは往復30分。

まだ先があるので、畑石山は後日に残して井関峠に向かう。30分ばかりで15時10分峠にでる。左側にくだれば南海尾崎駅へ。これが井関越である。前方の山道は墓山峰へ登る道だ。峠の南側に大切にまつられた地蔵尊がある。今から約130年前に彫られたものである。ここまでの無事を感謝してあと少しのご加護を祈る。

JR六十谷駅方面へ右側に少しくだると、「大福の名水」との案内板があって、湧き水が二、三か所勢いよく吹き出していて、コップも置いてあった。

きょうは暑く、水筒も空になり喉も渇いていた。まずは顔を洗い、うがいをし、ゆっくりと飲む。甘露、甘露。水筒に詰める。

あとはひたすら六十谷駅に向かって歩く。途中不動明王尊がまつられている。霊験あらたかだと聞いた。

駅に到着したのは17時ちょうど。ビールを買ってホームで飲んでいたら、電車が来た。

暑いと言うよりも、よく歩いた感の強い一日だった。（約30㎞・8時間）

⑫ 葛城越・五本松越

6月29日、九州全域には大雨警報が出ていた。

南海泉佐野駅前から9時01分発の犬鳴山行きのバスに乗車する。中大木バス停9時35分下車。前に火走神社がある。古い社で、雷・稲妻に関係があるようだ。

バス停側の細い道をおりる。犬鳴川を渡り、曲がりくねった道を中大木・上大木の集落を行く。大木林道の標示板があり、ここが登り口である。天候の加減もあるのだろうが、樹木が茂り暗い舗装された林道を登る。ホタルブクロとオカトラノオが咲いていて、負けずにウツボグサもゆれている。

林道が終わると石コロ道になる。分岐点に10時25分着。ここから急な坂道をゆっくりと進む。足元は落ち葉が積もり滑りやすい。展望の良い地所があり、三峰山が見える。急坂を我慢して登ると尾根道に出る。所々にササユリが咲いている。右に犬鳴山の標識の前を通り少し登るとピーク。このあたりから前側にクバメガシの林の中を進む。落ち葉のプロムナードが心地よい。四つ辻に出る。左側の坂を登るとそこは、高城山で11時20分着。遠くに雷の音を聞きながら昼食にする。12時、ポツリ、ポツリと雨が来たので腰を上げる。

右下の新しい林道が見えるが、古道にこだわり、尾根を登りくだりする。峠手前で雨になった。ポンチョを着用する。12時50分、五本松に着く。ガスがかかり眺望がぜんぜん見えない。売店で休んでいたら、明るくなってきた。あたりにはヤマトナデシコが咲きみだれていた。

中滝川に向かう。展望台前の車道を南下する。粉河街道、神通大橋に向かう林道を越える頃から、天候が回復し、和泉山脈の展望も良くなってきた。程なく右手に昔の道があり、これに入る。深みのある道である。ここにもホタルブクロが至る所で咲いており、写真を撮る。松背山の中らしく、通行禁止になる時刻があるようで、注意が必要だ。

どんどんくだると車道に出る。すぐ前のやぶ道を入るとあるが、やめて車道をくだる。車道が大きく左に回る手前に右にくだる道があり、この道をおりる。果樹園の中を通る。日が差してきて暑くなる。思いのほか急な道である。ウグイスが二、三羽、掛け合いで鳴いている。

中滝川の集落を抜け中滝川の交差点を越え、桧ノ木宿跡で日陰を探して休む。14時50分、粉河寺に向かう。果樹園には桃が鈴なりに実り欲しくなる。分けてもらおうと、作業していた夫婦に声を掛けたら、三個くれて、「今年は出来が悪い、甘くないよ」と言い、お金は受け取らなかった。有り難くいただき、かぶりながら歩く。喉が渇いているのでおいしい。

程なく粉河寺に着いた。15時20分。境内を回る。朱印帳を買い御朱印をいただく。きょうの無事を感謝して、お賽銭を二、三か所入れる。

16時00分、お寺を出発。JR粉河駅には16時20分到着する。ビールを買っていたら電車が来た。16時24分発の王寺駅行きに乗車し、揺られながら、きょうのコースをふり返った。

野の花讃歌（18）

市川　正次朗

思わぬ雪見登山に感激

阪神大震災の秋はどんなだろうかと、11月初めの連休、車で能郷白山をめざしました。

名神大垣から一路北上、谷汲村のとあるお寺にカラフルな幟がはためき、大勢の人たちで賑わっているのにびっくり。縁日らしく山門からお寺までの、1㌔にも及ぶ門前町は、郷土の物産や食べ物を売る店が両側にずらり軒を並べている。案内板を読んでわかったのですが、そのお寺は「谷汲山華厳寺」といい、文殊大士作の十一面観音像をまつる西国三十三か所最後の霊場でした。

さて、お寺で買った五平餅をばくつきながら、根尾川沿いをさらに北上、山間が狭くなってきたところに「特別天然記念物・根尾谷断層」の看板。立派な地震断層観察館では明治24年に起きた濃尾地震によってできた落差6㍍もの断層そのもの、また当時の写真や資料が展示してありました。

ナナカマドの実

折から阪神大震災のあとだけに会計士々しく感じたものです。

今夜の宿、樽見の「住吉屋旅館」に荷を解いて夕食までの間、話に聞く薄墨桜を見に出かけました。樹齢千五百年？　高さ17㍍、枝張り24㍍、幹回り9㍍もの巨大なヒガンザクラの一種とか。付近は根尾川を見下ろす高台の公園になっていて、花のシーズンには大賑わいするそうです。そこから見上げる能郷白山とおぼしき山の頂上付近は真っ白、前々日の雪が残っているのでは……。

翌朝、能郷谷林道を車で約30分、登山口から登りにかかる。三合目を過ぎ、前山を巻くまでの標高差約500㍍の登りはかなりきつい。雪が登山道をおおうようになるが、前日に新ハイ関西の山行があり、大勢のメンバーがラッセルしておいてくれたお陰で全く苦になりません。

やがてブナやミズナラのゆるやかな尾根道となり、樹間から白銀の山頂が見えてくる。真っ青な空とのコントラストが美しい。が、夏の気候の影響か、それとも冬の訪れが早いのか、紅葉は期待したほどでもない。

五合目は眼前に山頂がパノラマのように広がる気持ちのよいところ、まるでスキー場のようです。あと200㍍と気合を入れて登りにかかるが、深い雪に足をとられて泳ぐことも何度か。

頂上は1617㍍、奥美濃の最高峰と言われるだけあって展望はいうことなし。北の方角には二つコブの荒島岳、赤兎山から温泉白山への連なり、西へ目を回すと三周ヶ岳・横山岳・伊吹山、そして遠く鈴鹿の山々が霞んでいました。

紅葉登山のつもりが思わぬ雪見登山になって面くらいましたが、静かで、大きくて、白山信仰の霊山とも言われるだけに奥深さのある、いい山でした。

この山に行かれたら、帰り道、村営の「うすずみ温泉」に立ち寄られることをおすすめします。大自然に囲まれた露天風呂もあって、山の汗を流すにはぴったりです。

京都北山　やぶ漕ぎ痛快山行記（28）

五つの峠の尾根通しと岩屋山・半国高山三角点を二つ

京都北山グループ

出町柳駅から8時40分発（休日ダイヤ）の京都バス岩屋橋行きに乗車、約1時間で終点に着く。

左の橋を渡って、岩屋不動さんへの車道を歩く。途中右に入る林道があるが、これは西谷林道で薬師峠を通らない志明院への最短ルートだ。30分程で岩屋不動の志明院山門前の広場に着く。

岩屋不動は弘仁十八番の一、「聖神」の拝台と言われる所。当山の修験僧現神上人が、戒壇を設けるのを初延に阻止されたのを怒り、呪法によって竜神を霊峰に封じ込め、降雨を絶ち初延を悩ませた。しかし、初延の命をうけた雲の絶間姫の色香に迷って神通力を失い、志明院とがろき霊神が降るというあらすじ……ホンマかいな？

余談はさておき岩屋不動志明院は、春はシャクナゲの名所として訪れる人が多い。

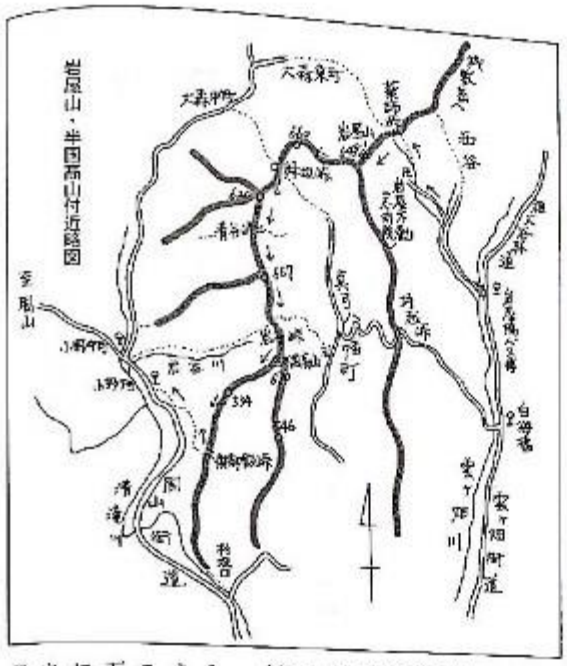
志明院の裏の右の山道を登る。薬師峠経由の桟敷岳へのメインルートで、よく踏まれた道は、やがて左へ小谷が分かれる。左の谷道は岩屋山への仕事道、右谷沿いの道は薬師峠へとゆるやかな登り道。雑木・草生えが邪魔する生え込みも時間掛かっているので苦にならない。先に水場は無いので、この谷で補給のこと。志明院から30分程で薬師峠に着く。

この峠は雲ヶ畑と大森東町と結ぶ峠、右側に赤いよだれかけ姿の六体の地蔵さんが並ぶ。右上への道は桟敷岳へ。岩屋山へは大森側に少しくだると左の杉林に登り口が見つかる。支尾根のトラバース道を尾根にのるとやがて志明院の奥の院がある。その先に岩屋山（△488・1㍍）の5等三角点標石が埋まっている。展望は利かないが、静寂そのもので北山らしい雰囲気が漂う。

次の緑坂峠へと尾根の踏み跡を忠実に拾い、西進すると持越峠からの尾根道と出

薬師峠の六地蔵

青谷峠の祠の地蔵



合い、それを直進する。次のピークで左に入る踏み跡道があり、幅広いのでうっかり入りそうになるが、この道は喜弓の谷におりてしまうので要注意。右の尾根道をP660m峠へとコンパスと地図で進む。青緑線と赤線間のこの付近の尾根道歩きはすばらしい。大森中町・緑坂峠への谷が近づくと二つ目の峠、緑坂峠への急なくだりですぐに峠に出る。この峠は喜弓八幡町と大森中町とを結ぶ昔からの生活道で、道の両側の杉植林も大きく育ち、木立ちの合間から喜弓盆地の静かな村落が見える。

緑坂峠から100m程登るとまた尾根にのる。このルートは2万5千の地形図にも破線路が記され、昭文社エアリアマップ「京都北山1」にも赤線のある静かな穴場コースだ。北に城丹国根、桟敷丘から飯森山・天童山・東俣山へと続く稜線も見える展望尾根だ。ゆるく登り、P620m峠を通過する。両側のウルシ・ハゼの紅葉が目を楽しませてくれる。

ゆるいくだりで杉・雑木林の鞍部、青谷峠に着く。朽ちた祠が残っているだけのさびしい峠だ。笹の中に、右は大森東町へ、左は喜弓側へと仕事道がおりている。青谷峠からP667mはもゆるい登りで、低山尾根通し歩きの醍醐味を味わう。汗もかかない快適な山歩きだ。両側に広がる低山の景観は、高原歩きとも思えるほど感じがよい。P667m付近でゆっくりとお昼弁当にする。

このピークより西に立派な踏み跡があり、以前にも歩いたことがある。小野中ノ町へ楽しいサブコースとしておすすめしたい。今回は岩谷峠へくだる。岩谷峠は標高580m程の古い峠。昭和初期まで喜弓の小学校上級生（四年以上）が小野郷の学校まで毎日この峠を越えて往復8キロ通学したという古老の話を聞いた。

喜弓側はうっそうと茂る杉林で薄暗く、岩谷側は雑木林の明るい黄茶赤色の緩斜

供御飯峠の地蔵尊

峻険。その対照に里山らしからぬ印象を受ける。岩谷峠から笹を掴みながら登ると、半国高山（P670m）の3等三角点埋設の頂上に立つ。南山には松林の斜面が広がり朝日峠から愛宕山方面の山々が望める静寂の山頂である。健脚組のパーティならこの頂上まで一気に来て、お昼をここでとることもできるだろう。

ここからきょう最後の五つ目の峠、供御飯峠に向かう。P534mの展望のくだり道は灌木と笹のやぶ沿ぎ、しかしハッキリとし、よく踏まれた一本道で迷うことなく供御飯峠に着く。この峠は杉坂と小野郷をつなぐ昔からの生活道だったが、岡山登道を車で通るようになってからは、山仕事の人やハイカーだけが通る峠道となった。

ここから北へくだると小野郷下ノ町の郵便局前のJRバス停に着く。バス便は1時間に一本あり、バスの時間を心配することなく低山歩きを満喫することができる。

（平成7年9月25日歩く）

《参考タイム》

岩屋橋バス停9・40—吉祥院10・10—葉師峠10・30—岩屋山11・00～10—緑坂峠11・40—P667m12・10～13・00（昼食）—半国高山13・30～40—供御飯峠14・20—小野下ノ町バス停15・00—JRバス乗車15・35

《地形図》▽2万5千＝周山

昭文社＝「47京都北山1」

金久昌繁氏の『北山の峠（中）』（ナカニシヤ出版）に詳しいことが記されている。

（記録・出口　嶽次）

〔この花・この草〕

ショウガ①（Zingiber officinale）

ショウガ科

東南アジア原産といわれるショウガは、古くから薬用・香辛料として用いられ、日本にも大平時代には渡来していました。

ショウガは草高60～100cmで、竹葉状の有柄葉が茎上に二列に互生し、花茎の端に穂状花序をつけます。花は黄緑色の小花ですが、日本では通常開花することはありません。

葉鞘の中に、生の老根茎（ひねしょうが）を「生薑」、そのまま乾燥したものを「乾生薑」、蒸した後乾燥したものを「乾薑」といい、用法・用量が若干異なります。

精油成分・ジンギベロールが主成分で、辛味成分はジンゲロール。発汗・解熱・健胃・消炎等の作用があり、悪寒・五痰・下痢・腹痛・月経・打ち身・冷え症・乗り物酔いなどに効果があります。

薬味や下味の名脇役として、また紅ショウガや酢漬け、若い葉ショウガをそのままかじったりと、ショウガは他の生薬に比べてとても身近な存在です。身体を温めたり解毒作用もあり、台所の万能薬といったところでしょうか。

次号では民間療法のいろいろを！（ゆ）

エリア別徹底研究

近江側から登る鈴鹿の山々 ㊹

ブナの森が続く雨乞岳南尾根

大納言谷から雨乞岳

雨乞岳南尾根の無名峰820㍍を本誌27号（98年3・4月）で紹介したが、今年の3月、残雪期に友人と大納言谷から南尾根に取りつき、雨乞岳に登った。南向きの大納言谷も、その稜線上も、雪は消え動物たちが集まっていた。登りに猪1頭・鹿4頭、くだりには鹿10頭を確認した。

この谷は両斜面がカヤ原で遮るものは何もない。驚いた鹿が急斜面を必死で登る姿をいつまでも見ることができた。966㍍峰を過ぎるとブナ林に変わり、尾根の両斜面はブナの林が長く続いた。落木に変わると、雪起の張りだしたすばらしい稜線が山頂まで続いた。

この南尾根が気になり、5月6日、友人K氏とこのルートを登り、稲ヶ谷をおりたが、多少のやぶはあるが迷うような所もなく、尾根にはけもの道と切り開きが続いていた。大木はないもののブナ林はやはりすばらしかった。このルートを皆さんも少かれ、雨乞岳へのバリエーションルートとして楽しんでもらいたいと思っている。

「かもしか荘」前で8時30分にK氏と落ち合い、477号線を武平峠に向かう。大納言谷出合の広場に車を停め出発、谷の古い林道を登る。この谷筋にはタラの木がかなりあり、新芽を期待していたが全部摘みとられていた。新緑の中にミツバツツジの赤紫の花が咲き、谷は明るく輝いていた。

何回か流れを渡り谷をつめると、左上に820㍍の無名峰が望め、その右肩に突き上げている支尾根が現れた。水を確保して、左の尾根に取りつく。急斜面を登ると、尾根にはけもの道が続きイワウチワの花が咲きみだれていた。鹿はいない。雪解けを待って他所に移動しているのだろう。

雨乞岳南尾根のブナ林

登るにつれ後方に展望が開けてくる。南尾根を右折していったんくだり、そしてゆるい登りをたどると、左の樹間に落水ノ頭から南雨乞岳へ、のびやかな笹の稜線が引き上がっていた。これからたどる南尾根、その右に御在所岳・岩峰の鎖ヶ岳、鎖尾根から水沢岳・仙ヶ岳、そして南西に続く山並み。ゆっくりと眺望を楽しむ。

ゆるい登りから雑木の尾根に変わると、左斜面にけもの道が続いた。アセビが増えると左斜面は植林に変わり、切り開かれていた。植林を過ぎると再びアセビの生え込む尾根に変わった。左斜面の雑木林を966㍍峰に向かう。尾根にはヤブレガサが傘をとじて並んでいた。

山頂に着いたが雑木におおわれ展望はない。前方の杉林からチェンソーの音が聞こえてくる。いったんくだって登りに変わると、尾根は切り開かれ赤い杭が続いていた。右斜面が杉林に変わり、山仕事の人たちが休んでいた。477号線からこの杉林の山裾まで林道があるとのことだ。登りつめてカヤ原の広場に着くと、南東に眺望が開けた。左に七人山と御在所岳から南に続く稜線、眼下には武平峠へ向かう勢覇スカイライン、車の音が遠い上がってくる。山頂へと続く尾根の両斜面はブナ林が大きく広がり、樹肌は背の低い笹におおわれていた。大木はないが、芽吹きの遅いブナ林がどこまでも長く続いていた。上の尾根に雌鹿が一頭現れ、白い尻を振りながら左の谷の笹の斜面に消えた。落木に変わるとカヤトの尾根に着き、展望が開けた。

北には緑の笹におおわれた雄大な雨乞岳、御在所岳から落ち込んだ武平峠の先に、伊勢亜野が春霞の中に大きく広がっていた。眼下は深く切れ込んだ稲ヶ谷だ。尾根の斜面は落木、右は背の低い笹とカヤ原の中にけもの道が続く。一部笹やぶもあるが、迷うような所はない。登りつめて南雨乞岳に着く。展望を遮るものは何もない。

正面には広い笹の稜線の先に雨乞岳本峰、左奥に御池岳の巨大な山塊、そして左下の清水ノ頭にはゆったりとした笹の稜線が続き、その左斜面は茶褐色にガレていた。その先の綿向山は左右に長く裾を引いている。左下に野洲川ダムが白く輝き、湖東平野が大きく広がっている。360度の眺望をゆっくり楽しんだ。

笹をかき分けながらいったんくだって水峰に向かう。深い笹原をゆるく登り、山頂直下で右の支尾根の落木に向かって深い笹を分けると、笹が低くなり露岩が現れた。山頂はすぐそこだが人でいっぱいだ。少し風下におりて眺望を楽しみながら昼食。風が強くしだいに寒くなってきた。

山頂から大沢ノ滝を覗きに行くと、大きなガマ蛙が蝌を抱き込んでいるのが二頭くらいいる。滝にはゼリー状のものの中に黒い粒が入った卵塊がいっぱいある。ひとときガマ蛙のプライバシーを覗いた。

池から引き返し、稲ヶ谷ルートをくだる。源流に洞穴があると友人に聞いていたので、二人で左右の谷や岸を探しながらおりたが見つからない。諦めてくだりだすと、谷の

大納言谷から雨乞岳付近略図

美濃の山（1）

近刊 大垣山岳協会 編　予価二〇〇〇円

奥美濃の探検登山の精神はヒマラヤに通ずという今西錦司流で、藪こぎもラッセルもなんのその、三角点を囲んで万歳、乾杯！

★全65山　写真・地図を添えてガイド

揖斐川水系の山 I

関西 山越の古道（下）

中庄谷 直 著　予価二〇〇〇円

吉野道、宝生道、鈴鹿越、沙見道、その他熊街道・竜神街道・伊勢古道など　全24コース

京都 丹波の山（下）

内田 嘉弘 著　予価二〇〇〇円

―丹波高原―　北桑田郡美山町・京北町、綾部市、船井郡和知町・日吉町の全51山　スケッチ・地図付

ナカニシヤ出版

京都市左京区吉田二本松町2
☎京都 075-751-1211 〒606

残雪期（3月中旬）の南尾根から雨乞岳

右斜面に古い坑道のような穴があった。中島伸男氏著「近江鈴鹿の鉱山の歴史」によると、雨乞岳山系の清水谷に大平鉱山があったが、昭和9年3月雪崩で壊滅して三名の死者が出たとのことである。その鉱山の名残りの太いワイヤーロープが現在も奥の畑峠の近くの大岩に巻きつけてある。これはこの時試掘した穴のようだ。覗くと底には水が溜まり奥は真っ暗だ。入り口の土砂を棒切れで掘り出し、溝を作って水を抜く。赤い泥水がドッと流れ出し、しばらく待つと底が現れた。ライトを持って中に入るが、泥が深くて進めない。奥は右に回り込んでいるようだった。

谷のくだりは荒れてはいるがテープと紐の印があった。谷筋にはエンレイソウ・ミヤマカタバミ・ヤブレガサ・ネコノメソウ・マムシグサ等が確認できた。谷を高巻きしてくだり、谷の上流に向かって二、三分たどり、左に回り込むと、落差約20mの稲ヶ滝が二段になって轟音を響かせていた。写真を撮って、谷をくだり、477号線を大紺屋谷出合に向かった。

（平成8年5月6日歩く）

△コースタイム▽

大紺屋谷出合（45分）南尾根（45分）966m（1時間）南雨乞岳（20分）雨乞岳（20分）古い坑道（50分）稲ヶ滝（10分）477号線（45分）大紺屋谷出合

△地形図▽

2万5千＝御在所山・伊船

昭文社＝「45御在所・鎌ヶ岳」

（岩野　明）

エリア別徹底研究　近江側から登る鈴鹿の山々 ㊺

銚子ヶ口北峰から

水舟ノ池・深谷山連峰

銚子ヶ口からイブネへと続く山域に、鈴鹿の秘境ともいえる深谷山連峰がある。

東は北谷尻谷と土谷尻谷。西は佐目小谷の支谷、深谷がこの連峰に深く切れ込んでいる。稜線の西側には佐目小谷にスパッと崩れ落ちた大ガレが展開している。地図をよく見ると、大峰の南東のピークはこの山系の最高峰で、1089mとある。南の1022mへと続く稜線は、ブナを主体にした植林がうっそうと茂っている。以前に佐目小谷の道が通れた時には、水舟ノ池に登りこの稜線を何回もイブネに向かって歩いた。今は風越林道から銚子ヶ口に登り、このルートを楽しんでいる。

今回紹介するルートは、私だけのとっておきのルートである。このルートをたまに歩いている人もあるようだが、先を急いで通過するだけでは興味がない。三発ちして、この深山幽谷をゆっくりと楽しんでもらいたい。

神崎川林道から右折して風越谷林道を進み、風越谷に回り込むと右下に砂防ダムが現れた。その上の道路脇に車を駐める。右下の河原におりると、左の杉林にテープと紐の印が付いていた。印を追って右に進み倒れた大杉をくぐり抜け、支谷を渡ると尾根に登る踏み跡があり、杉檜林の尾根に植林道が続いた。植林の急斜面を、灌木をつかみ体を引き上げるように登ると、檜林に変わり銚子ヶ口への登山道に出合った。

左折して登山道をたどり尾根にのると、須谷川をはさんで武尾山から銚子ヶ口へと続く稜線が望めた。ゆるくくだってから雑木の尾根を登ると、後方に展望が開けた。御池岳から南に続く主稜線、その手前には近江側に派生する山々が波打ち、大きく広がっていた。右下に沢音を聞きながら山腹の巻き道をたどり、杉林に入ると、すぐ下に須谷川が現れた。以前付けておいた赤テープの印の所を右折して支谷を渡り、須谷川に沿って杉林の中を登る。谷におりて少し登り右の支谷で水を補給して、その支谷を登る。広い谷には落ち葉が深々と積もり、谷の斜面は赤い蕾をつけたタニウツギの群落。花の時期にもう一度来たい所だ。

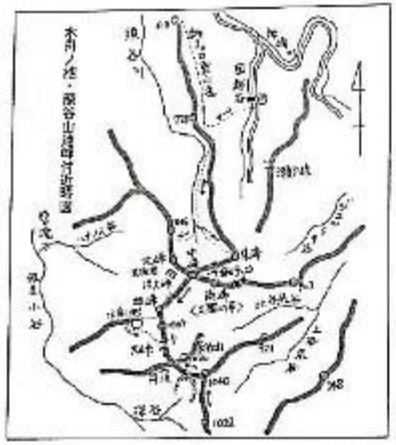
稜線から左折して銚子ヶ口の北峰に向か

水舟ノ池

う。植林の横の急斜面を直登するとたちまち小さなガレが現れた。鹿一頭がガレの横から駆けおりて樹林に消えた。右折して北峰の山頂に着くと、300度に近い大パノラマが展開した。左に南乞岳・綿向山、その手前にダイジョウからカクレグラと続く稜線、眼下には佐目小谷と永源寺ダム。湖東平野が大きく広がり、愛知川が白く蛇行している。奥には琵琶湖と比叡山・比良・湖北の山並み、そして鈴鹿山・霊仙山・御池岳・藤原岳と続いている。この山頂はあまり知られていない私だけの展望台だ。

右にガレが現れ、その下に天狗岩が望めた。雑林の境に切り開きと赤い杭が続き、左斜面がブナ林に変わり、ゆるく登って右折すると中峰で、左から登山道が合流した。ゆるくくだり、雑木におおわれた広い鞍部に着いた。御金明神への『参詣道中記』に記されている大峠（付近略図に「旧大峠」と記した[8]）だ。昔は草原が広がりすばらしい展望が開けていた。以前、私も古い参道をたどり何回もこの大峠に登ったが、初めて登った頃は草原の中に潅木が茂る程度だったが今では展望はない。

『参詣道中記』に記されている大峠についてご一部紹介する。「左に天狗岩が岩立し



て自然の木点々ありて空をつき、天をつく大峠に到着を待る。大峠より南東方に水舟の湖あり。この湖水繁紀の一吾を縋けば意義も又奥ゆかしい」。このあと北西の山々や湖東平野の集落、北東の伊勢平野と山々の記述が続き、「此の間右手前方に大蔵谷と佐目小谷深谷山連峯あり、左に谷尾の大閑の平の連峯を挟み、恰も中腹を開きたがるが如き渓線を観る。此の寿恵広の嶽姿は瑞尾金神社鎮座ましますの澤塔の神瑞建なり。嗚呼大峠の壮観勝想快感しみじみうたれつつ想を求む」（滋賀県神崎郡永源寺町大字佐目『ふる里の記』より）。

コブを二つ越え、西峠に着いた。右は雑木、左にはカヤトが広がり、大きく展望が開けた。くだり終わった鞍部で水舟ノ池を確認し、右折して植林の中をおりる。踏み跡は消えるが、左折して植林の中をほぼ水平にたどり、支尾根を右折して踏み跡を探しながらおりる。くだり終わって左折して、杉林の中の小さな広場から右斜めに行くと水舟ノ池に着いた。標高約1000㍍、鈴鹿山系では一番大きな池であたりの新緑と青空を映し明るく輝いていた。

この池は尾根からは真下に見えるが、植林が大きく育ち、しかも下刈りされていないので、以前歩いたルートはほとんど消えていて、杉林に入ると池の縁に着くまで見過しが利かないので要注意だ。

右の尾根から池を回り大峠に向かう。池の北側はカヤ原のなかに育ちの悪い植林が続き、南西斜面は杉林が大きく茂っていた。大峠へと植林の尾根の先え込みを登ると、カヤ原の尾根はアセビが点在し、真上に大峠が望めた。カヤ原が消えた広場から樹林のけもの道を右斜めに登ると、大峠の南の広場に出た。右折して深谷山連峰の最高峰1080㍍に向かう。尾根には切り開きと赤い杭が続く。樹林の中を登りつめ、ゆるいくだりから左斜面ブナ林の登りに変わり、最高峰の手前で道は右にくだっていた。そのまま尾根を直進するとブナを主にした雑林が続き、イワカガミとやわらかい草が尾根をおおっていた。

最高峰1080㍍の山頂は雑木に囲まれているが、さわやかな風が心に残る山頂だった。引き返して分岐を左にくだり、カヤトの尾根に出た。前方にこれからたどる深谷山連峰、その先に伊勢平野、右には鈴子・イブネが屏風のように立ちはだかっていた。右には南乞岳だ。

くだってゆくと、佐目小谷に垂直に切り

落とされたような大ガレの上に出た。そしてイブネからダイジョウと続く稜線が望めた。ガレの上の剣尾根をたどり、舟窪の手前から左の1040㍍の山頂に向かう。ブナ林をゆるく登るとシャクナゲと雑木に囲まれた山頂に着いた。

5月の末にこのルートを歩き、深い霧のなかこの山頂で昼食をとったが、寒くなりすぐ引き返した。20～30㍍先が何とか見える程度で、足元にはイワカガミの花や新緑の木がぼんやりと浮かんで、鮮やかなシルエットを残して消えてゆく幻想的な静寂の世界が続いた。大峠の近くでウサギ一匹に出会ったがすぐに逃げてしまった。ガレの横を舟窪におりていると、ガスの中からまたウサギが一匹が急に現れたが、今度は逃げない。さっきと同じように脱兎のごとく逃げると思ったが、一瞬立ち止まり私を見て、素早く馬の横を通りぬけ尾根を登っていった。

引き返して舟窪にくだる。この舟形の窪地の右の急斜面は、長年に渡って刈り取られているようで、谷間の樹木は根を露出しながらも、シナの木もブナの大木も異様な迫力でその生命力を見せていた。ブナ林が続く尾根をくだり、1022㍍の山頂に登る。細長い山頂部はすばらしいブナ林におおわれていた。背丈を埋めたブナ林の新緑の中に、ヤマツツジの赤茶色の花が鮮やかに咲いていた。

ひと休みして引き返す。尾根にはフタリシズカやフタバアオイが群生していた。舟窪で昼食。

大峠のゆったりと広がる草原には、アセビの新芽とヤマツツジの花が彩りを添えていた。左下に水舟ノ池を望みながら1067㍍を越え、西峠で一服してくだる。分岐で右折して鈴子ヶ口三角点を通り、東峠で大パノラマをゆっくり楽しむ。山頂や潅木の斜面にはアカモノ（イワハゼ）の小さくて可愛い白い鐘状の花が紅色の雪をつけていっぱい咲いていた。

くだり終わって風越谷林道を車で走っていると、猿の群れが林道を横切っていた。車を止め窓から顔を出し見ていると、約20頭が座を登っていった。ボス猿が座の上から私を見下ろし、ガッ、ガッ、ガッ、といつまでも威嚇していた。

（平成8年6月5日歩く）

《コースタイム》

風越谷林道（35分）鈴子ヶ口登山道（40分）北峰分岐（10分）須谷川支谷出合（25分）北峰（15分）（旧）大峠（15分）西峰（20分）水舟ノ池（35分）大峠（25分）深谷山最高峰1080㍍（25分）1040㍍峰（5分）舟窪（20分）1022㍍峰（25分）舟窪（30分）大峠（50分）鈴子ヶ口三角点（5分）東峠（50分）風越谷分岐（30分）風越谷林道

《地形図》

2万5千＝御在所山

昭文社＝「44霊仙・伊吹・藤原」

（宮野　明）

エリア別徹底研究

近江側から登る鈴鹿の山々 ㊻

神崎川林道から 風越山・二子山

神崎川林道は現在、瀬戸峠の東の谷までのびているが、最近山腹の古い道を八日市警察署が切り開いて道標を立てるなど整備してくれたので、瀬戸峠から神崎川へおりる道と合流している。この周辺にもあまり知られていないすばらしい山がある。

瀬戸峠の西の風越山（870㍍）は、北東斜面が伐採されている。そして白滝谷の南の二子山（822㍍）も北東斜面が伐採され植林されたばかりで、山頂には露岩がある。鈴鹿のほぼ中央にあるこの二つの山は、1000㍍を超す山々が周囲にあるため見過ごされ、登る人はあまりいないようだ。鈴鹿山系の展望台ともいえるこの二つの山は案外手軽に登れ、一度登ると四季を通じて何回でも登りたくなるような山だ。

神崎川林道を進み、右に分岐する風越谷林道を進むと坂道に変わり、左に大きく迂回しながら折戸峠の尾根を回り込むと地道になる。左下は白い花崗岩の神崎川渓谷が続いている。林道終点の道路脇に車を駐める。

右下の谷に向かって、急斜面のピンクのテープの印をたよりに谷におりると道標があり、雑木の山腹の古い杣道にテープの印が続いていた。広い谷にくだってうっそうと茂る樹林の中を登ると、瀬戸峠からの道と合流したが、そのままま一つすぐ登ると前方が明るくなり、切り開きの尾根に出た。左前方には神崎川の支谷・白滝谷から一気に屹立した双耳峰の二子山が望めた。

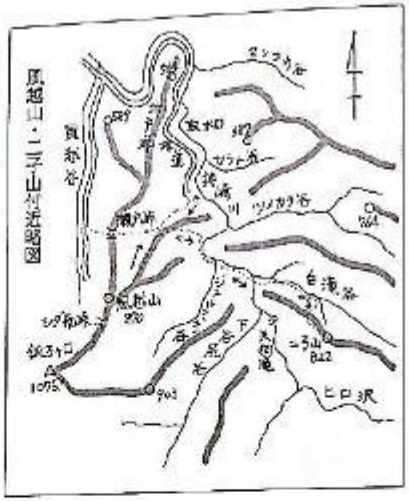
右にとり、左斜面は伐採、右は自然林の尾根上は、雑木の中に白い切り株や木の根が続いた。踏み跡をたどると、一本の檜の大木が現れた。大きな幹の間にアセビが根付いて茂っていた。この巨木は遠い遠方から何百年も成長を続け、このように宿り木や蔦が絡んでも拒みも恐れもしない。風雪に耐え悠然とそびえている姿を見ていると、頭の下がる思いになり、また会いに来たくなる。

風越山の檜の大木

大岩が何段にも重なった登りを行くと、岩壁が現れた。岩の間から樹木が大きく茂っている。直登できそうだが大岩の基部を右に回り込んで登ると、又檜の大木が現れた。岩の上から倒れ込み、大きく枝をのばして茂っていた。まさにこの岩山の主ともいえる風格がある。杉や檜の大木におおわれたこの岩場には迫力があり、深山の雰囲気が漂っていた。

登ると切り開きの尾根に出た。ゆるい登りから急斜面の雑木の尾根に変わり、檜の大木を見上げながら登ると、切り開きのピークに出た。この時、前方の急斜面を眺1頭

が斜めに登っていった。このピークで左から尾根が合流し、先端に出ると大きく眺望が開けた。左から大鈴堂・御池岳・藤原岳・静ヶ岳・竜ヶ岳・釈迦ヶ岳・御在所岳と続く雄大なスカイラインが連なっていた。前方には天老堂から次大野と続く山並みが大きくそびえ、後方には風越山の上にイブネと鎧子ヶ口の山稜だ。1000㍍を超す山頂から見下ろす風景と違い、800㍍程度の山頂からは今まで見落としがちな山々が堂々とした勇姿を見せてくれ、思わぬ展望をゆっくり楽しむことができた。



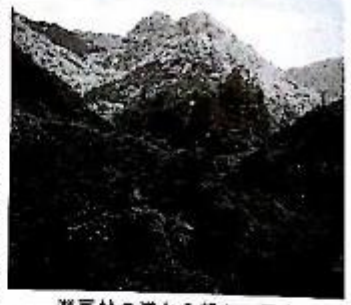
ゆるく登って切り開きから右の樹林をたどり、風越山の山頂に着いたが、杉と雑木におおわれ展望はない。引き返す。

なお風越谷林道終点から谷を登り、シダ峠から風越山に登って尾根を瀬戸峠にくだるコースは植林の尾根にやぶが茂り、下刈りされるまで通行は無理だ。

瀬戸峠からの登山道におりて右にとり神崎川にくだる。以前は雑木や雑木が生えこんで道を塞いでいたが、刈り込まれ整備されていた。神崎川左岸には巻き道が続き、伐採された後の若木の中の踏み跡を登る。ガレを高巻きして急斜面をくだり、ジュルミチ谷出合を過ぎてゆるく登って切り開きをたどると、白滝谷出合に着いた。対岸の左に白滝谷が切れ込んでいた。

神崎川は白い花崗岩の河床に清流が走り、明るく輝いていた。石を伝って流れを対岸に渡りロープをつかんで崖を登ると、杉林の中に広場があり道が分かれた。左折して白滝谷に向かう。杉林の中を登り雑木林に

冬春号・新発売！
登山・ハイキング
バス時刻表
近畿版 97冬春号 11月発売
JR用時刻表には掲載のない路線も多数収録
登山道に通じる停留所をピックアップ
登山・ハイキングファンのためだけの時刻表です
三重・滋賀・奈良・和歌山・京都・大阪・兵庫の2府5県をカバー
関東版 97冬春号 10月末発売
東京・埼玉・神奈川・静岡東部・山梨・栃木西部・群馬・長野中央部を収録！
「関東版」「近畿版」ともに書店や有名スポーツ店で発売！
ご注文の際は最寄書店にご注文下さい
関東版・近畿版とも B6判 定価1200円 〒68
書苑新社 tel.03-5285-7445



瀬戸峠の道から望む二子山

変わると、左下に白滝谷の瀬音が近づいてきた。左に怪獣を思わせるナワラの大木を見て谷に沿って登ると、二子谷出合に着いた。右上の二子山に向かって切れ込んだ水の涸れた谷を登るとすぐ谷の分岐に着いた。右の滑床の支谷の急斜面を直登し、尾根の鞍部に着いた。神崎川側の斜面はガレが急角度に落ちていた。左に登ると真上に、白い露岩を見せる二子山が望め、後方のピークにはツガの大木が一本大きく枝をのばしていた。

尾根上に細道が続き、左斜面は檜の植林、右の雑木の急坂を登りつめ、ゆるい登りかと細木と草付きの急斜面を登り、岩の上に出るとカヤ原が広がる二子山の山頂に着いた。北方が雑木におおわれているが、300度に近い大パノラマが展開した。腰を下ろしゆっくり昼食。左には鶴子ケ口山系の山並みがその長い裾を愛知川へと落とし、右と不老堂が大きく盛り上がり、その先には天狗堂・御池岳から釈迦ヶ岳へと続くうす青い稜線、真下白滝谷は濃淡さまざまの青緑若葉の樹海、その先には神崎川林道が見えていた。

さわやかな風が吹き上げてくる。カッコウ・ウグイス・ホトトギスなどいろいろな鳥の声を聞きながら、鈴鹿のど真ん中で私だけの豪華な景色を、心おきなくゆっくりと楽しんでから引き返す。

なお、この先の829㍍からハト峠に続く稜線も歩いてみたが、829㍍までは植林が続き大体歩ける。この尾根から眺める二子山もみごとだ。829㍍から先は笹やぶで進めない。尾根を白滝谷にくだり登山道をおりたが、造林小屋が倒壊して道を塞いでいた。（平成8年6月15日歩く）

《コースタイム》

神崎川林道終点（15分）登山道（1時間）風越山（55分）神崎川（30分）白滝谷出合（25分）二子谷出合（15分）尾根（25分）二子山（1時間）神崎川（55分）神崎川林道終点

《地形図》

2万5千＝御在所山

昭文社＝「45御在所・鎌ヶ岳」

（宮野　明）

KOBEの登山専門店

手作りザックの店です。
心ときめき、背負いやすいザックです。

イモックと呼んで下さい。

●ウォーキングザック26
日帰りから一泊旅行に最適です。
ショップとフロントのポケット。
サイドファスナーは内部の小物を取り出せ、反対側にはスッキリ小物の収まるセット出来る。
かつぎ易さで定評のアタックタイプです。
●カラー：マイン・レッド・ブルー・ライター・ベージュ
●容量：26ℓ ●重量：790g
●素材：ナイロン・ポリエステル・ナイロン強靭
●価格：7,500

（オリジナルザックのパンフレット御希望の方は、¥200切手を同封の上、お申込み下さい。）

OUTDOOR SPORTS SHOP
IMOCK®
KOBE
神戸ザック
神戸市長田区大橋町9丁目3-1
〒653 TEL(078)621-5851
FAX(078)621-3528

エリア別徹底研究　近江側から登る鈴鹿の山々 ㊼

芽吹きの尾根歩き

ミズナシ・太尾の稜線を歩く

421号線は八風峠を渡ると、石榑峠に向かってカーブの多い坂道が続く。この道路の北側にミズナシの山塊がある。南斜面は植林が進んでいるが、稜線と北斜面には落ち着いたすばらしい雑木が続く。吉崎緑谷を抉んで北にそびえる太尾の山塊は、鈴鹿山系を代表するような基本的な雑木が大きく茂り、ゆったりと広がる尾根の中央に幅3～4㍍×長さ40㍍、その名の通りの長池がある。だれにでも四季おりおりに忘れることのできない思い出の山があるが、この太尾も私の好きな山域で、「心のふるさと」のようだ。

八風街道から茶屋川林道を進む。八風橋を渡るとすぐ道路脇に広場があり車を駐める。9時出発。右に回り込むと、すぐ右の道路脇に「分収育林・永源寺渓流の森」の道標が立っていた。右折してこの道を登る。

杉林の中の折り返しの坂道を登りつめると檜林に変わり、真上に尾根が見える。道は山腹を左に回り込み、枝打ちされた檜林の急斜面を登る。尾根にのると切り開きの中に造林公社の赤い杭が続いていた。右下には八風谷と421号線。そして北から三池岳・釈迦ヶ岳へと続く山並み、その手前右には水木野から不老堂と続く山塊、山腹には濃い緑の杉が彩りを添え、尾根にはイワカガミが群生していた。959㍍に向かって急斜面を登りつめる。山頂には雑木とヒメコマツが茂り展望はない。

ひと休みして754㍍に向かう。尾根上は赤松・モミ・杉・子セビ、南斜面はカシを主にした落葉樹林、北は落葉樹林が続き、樹間から太尾の稜線が望めた。ゆるい登りとくだりにはどこまでもイワカガミの群落が続いていた。花の時期にぜひ歩きたい尾根だ。右に植林の斜面が現れ、大きく眺望が開けた。421号線を時折通る車の音が聞こえてくる。

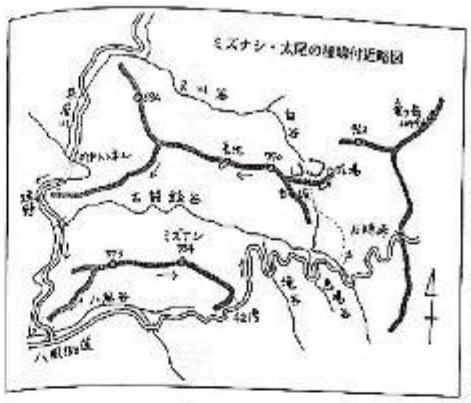
421号線より望むミズナシの稜線

植林の尾根は雑木のやぶだ。左の雑木の中をいったんくだって登り返すと、ミズナシ（754㍍）に着き、南に大きく眺望が開けた。ひと休みの後、檜林の境目を421号線に向かってくだる。多少のやぶはあるが切り開きをくだり終わり、左斜面の檜林から合流した細道を左折しておりると4

21号線に出た。

石榑峠へと向かう。前方に非吹き前の荒いた樹林の上に、緑の笹を被った雄大な竜ヶ岳が見えた。滝谷や馬場谷を大きく回り込んで登ると、左手に竜ヶ岳から白谷峠・太尾へと続く稜線が望めた。

道路の左にミラーが現れ、以前その支柱に付けた赤テープの印があった。白谷峠への取り付き点だ。これからたどる白谷峠までの斜面は杉林で、左折して谷にくだりだすと、すぐ道が分かれた。左に進み谷を渡り、広い杉林の中をゆるく登りつめ、明るい植林地に出ると、支谷に向かって急なくだりが続いた。谷から山腹を左に登ると、白谷峠へと続く谷が現れ一部消えてはいるが古い道が続いていた。深く切れ込んだ谷を急登すると白谷峠に着いた。峠の木に「やっとこさげだ」とペンキで書いてある。昭文社の旧版の地図には又川谷に登山道が記されている。私もそのルートを歩いてみたがほとんど消えていて、何とかこの峠に登りついてほっとしたことを思いだした。



白谷の源頭のガレ場に向かう。奇岩が点在し、鈴鹿では珍しく赤松の疎林がガレ場をおおっている。このガレ場は、ほとんど知られていない。そして竜ヶ岳へと続くキレット、この尾根道はけもの道になっている。

右折して雑木の尾根を登るとすぐ左斜面にもろい花崗岩のガレ場が現れた。その横を登りピークに着く。腰をゴろし、大展望を楽しみながら昼食。西の太尾の山腹は、ガレ場の回りに雑木と杉・モミ・松などの濃い緑が混在していた。北には自然林におおわれた静ヶ岳の稜線、その手前には竜ヶ岳が又川谷源頭からガレ場の上に一気に突き上げ、石榑峠へと落ち込んでいる。食後、いったんくだってキレットの手前まで行き、白谷峠に引き返す。

太尾の長池

白谷峠から太尾へと続く細尾根を登る。右斜面はガレ場が続き、登りつめた太尾の尾根は前方が急に開け、伐採地に着いた。南西斜面は杉が植林してあるが、鹿やカモシカに食い荒らされて全然育っていない。尾根を右に向かうと、左斜面の植林の中に湿原と小さな池のある湿地があった。植林地を過ぎ、ゆるく登り、疎林の中の背の低い笹原を登りつめると、右にカヤ原が広がり、その先に静ヶ岳と竜ヶ岳が望めた。疎林の尾根には笹の緑のジュータンが770M付ピークまで続いた。しかし展望はない。

くだり始めると笹は消え、広い樹林の中は深々と落ち葉が積もっていた。ゆるい登りとくだりをたどると、細長い湿地に長池が忽然と現れた。ひと休みする。

明るい日ざしをいっぱいにうけた池は、周りの木立ちと笹を映し、アメンボがさざ波を立てていた。木々はやっとときた暖かい春を感じ、いっせいに芽吹き始めていた。

尾根と南北の急斜面は、大きく茂る樹林が谷底まで続いている。のんびり歩いていると、我を忘れ自然の中に溶けこんでゆく感じだ。前方が明るくなると植林に変わり、尾根が分かれた。左折して雑木と植林の境目をくだる。切り開きには赤い杭が続いた。

前方には茶屋川を挟んで送電線の鉄塔をのせた相山・山山系が望めた。いったんくだり終わるとゆるい登りとくだりの尾根が続き、樹林から急斜面をくだり終わると右下の焼野の広場に着いた。

広場から茶屋川林道に出て八風街道に向かう。古語橋を渡ると間もなく取り付き点に戻った。（平成8年4月25日歩く）

《コースタイム》

永源寺渓流の森（25分）尾根（30分）72
3M付（40分）ミズナシ（30分）421号線
（35分）421号線白谷峠分岐（25分）白
谷峠（10分）ガレ場（20分）太尾尾根（15
分）770M付（10分）長池（30分）尾根分
岐（45分）茶屋川林道（40分）渓流の森

《地形図》

2万5千＝竜ヶ岳

昭文社＝「44鈴鹿・伊吹・霊仙」

（山野　明）

山と高原地図シリーズ

定価 各700円（税込）

1 北アルプス総図
2 白馬岳
3 鹿島槍・黒部湖
4 剱・立山
5 上高地・槍・穂高
6 乗鞍高原
7 御嶽山
8 中央・南アルプス総図
9 木曽駒・空木岳
10 甲斐駒・北岳
11 塩見・赤石・聖岳
12 鈴鹿・戸隠
13 志賀高原・草津
14 軽井沢・浅間
15 西上州・妙義
16 美ヶ原・霧ヶ峰
17 八ヶ岳・蓼科
18 富士・富士五湖
19 箱根
20 伊豆
21 丹沢
22 高尾・陣馬
23 大菩薩連嶺
24 奥多摩
25 秩父・秩父
26 奥秩父1 雁坂山・甲武山
27 奥秩父2 金峰山・千曲岳
28 谷川岳 谷川山・武尊山
29 越後三山 巻機山・守門岳
30 尾瀬
31 日光 男体山・白根山
32 那須・塩原
33 磐梯・吾妻・安達太良
34 飯豯山
35 朝日・出羽三山
36 鳥海山
37 蔵王 蔵王山・船形山
38 那須・甲子・茶臼岳
39 八幡平 焼山・秋田駒
40 十和田湖 八甲田・奥入瀬
41 二セコ・羊蹄山
42 大雪山・十勝岳
43 白山
44 霊山・伊吹・鈴鹿
45 御在所・鎌ヶ岳
46 比良山系
47 京都北山1
48 京都北山2
49 京都西山
50 北摂の山々
51 六甲・摩耶・有馬
52 高槻高原・二上山
53 金剛山・岩湯山
54 紀泉高原（休刊中）
55 奥高野（休刊中）
56 大峰山脈
57 大台ヶ原・大杉谷・高見山
58 赤目・倶留尊高原
59 氷ノ山 氷ノ・後山
60 大山・蒜山高原
61 郡山・剣山
62 石鎚山
63 福岡の山々
64 九重・阿蘇
65 祖母・傾・大崩
66 椎葉・五家・安家山

※昭文社の「山と高原地図」は年度版として毎年書換発行されます。ご山行の際はなるべく最新版をご使用くださいますようお願いいたします。
※昭文社の「山と高原地図」へのご要望・ご意見がございましたら、本社編集部「山と高原地図」担当までお気軽にお電話ください。また新情報等お教えいただければ幸です。

株式会社 昭文社

本社 東京都千代田区九段北4-2-11 電話03(3262)2141(代) 〒102
支社 大阪市淀川区西中島6-11-23 電話06(303)5721(代) 〒532
営業所 札幌・仙台・横浜・千葉・浦和・立川 名古屋・金沢・京都・広島・福岡

近世の古道を歩く④

大山崎から天王山・長岡天満宮へ（11キロ）

①離宮八幡→②宝積寺（宝寺）→③十七烈士の墓・酒解神社→④天王山→⑤勝龍寺城→⑥長岡天満宮→阪急長岡天神駅→JR長岡京駅

中村敏文

① 離宮八幡（京都府大山崎町大山崎）

西国街道山崎に鎮座する離宮八幡はJR京都線山崎駅に近く、阪急大山崎駅からも数分の位置にあるので集合場所として最適。油の神様として著名な旧府社で応神天皇と酒解大神・印心姫の三坐を祭祀する。

石清水八幡宮は平安時代に僧行教が宇佐から八幡神を勧請し、いったん離宮八幡付近へ寄宿してのちに男山へ奉安されたという。

嵯峨天皇の造営した河陽離宮も当社付近にあったとも推定され、その後、石清水八幡宮の神事に携わる大山崎神人の社商人としての発展は目覚ましく、鎌倉・室町時代には当社も発展したと思われる。

江戸時代の神領は幕府の手厚い保護を受け九百五十石を認められ、元禄年間には幕府費用で立派な本社・拝殿と付随の建物が再興されたが、幕末に長州藩の屯所となり焼失したそうである。したがって現在の社殿などは昭和四年以降の再建である。

天王山へは山崎駅から東海道線沿いに東へ進み一つ目の踏切を渡る。まっすぐに北西へ急な坂道を10分も登ると宝寺へ着く。

② 天王山宝積寺（宝寺・大山崎～長岡）

奈良時代に聖武天皇の勅願により山崎橋を架設した行基の開創といわれる古寺である。平安時代から宝寺と通称され、現在は真言宗智山派で木造十一面観音を本尊にまつる。

山門の木造金剛力士像は鎌倉時代の作とみられ、総高20㌢の三重塔も桃山時代建立とされる。ともに重文、塔前の石灯籠には天正十二年（1584）社家代表井氏利定寄進の銘がある。戦国時代に衰えた寺勢も山崎神人の援助で本殿を保ち、織田信長も一時滞在して石清水八幡宮修造を指示している。

宝寺三重塔

「山崎の合戦」後に秀吉は山崎城を修築し山崎城下町を治め、この時期に当寺も恩恵を受けているが元禄時代には寺領は六十一石の四院二坊が減少している。明治以後に四院二坊を無量寿院に統合し現在に至っている。

現本堂は「禁門の変」（蛤御門の変）で長州藩士が宿営したため焼失し、明治十一年の再建である。天王山登山は、本堂右の貴重な仏像を納めたエンマ堂前から整備された急坂のハイキングコースを北へと登る。

寺名の由来と言われる打出の小槌と大黒天をまつる境内の小祠の宮は、奈良時代からの伝承もあるが、福神信仰の推移と思われる。

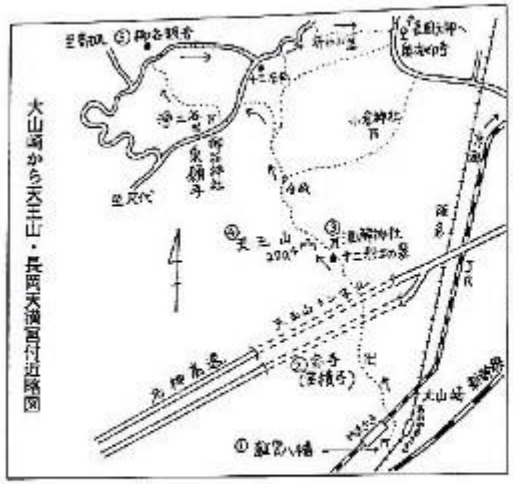
③ 十七烈士の墓・酒解神社（登山道）

宝寺から酒解神社まで1㌔弱なのに坂道の連続で45分、天王山山頂まで1・5㌔は1時間もみておけば登山できる。

登山道はよく踏まれた2㍍幅の赤土道だが、急な坂でよく滑る。東と南がよく見晴らせる展望台でひと休みして少し登ると、左手に十七烈士の五輪塔が並んでいる。

禁門の変で敗走し、天王山で自刃した勤王の志士を後世の人が弔った墓で、筑後の水天宮側官・真木和泉守保臣や土佐藩菊次郎、吉原茅僅ら十七名の氏名が残る。

酒解神社は秦氏の祖先という酒解大神と大山祇命など十柱をまつる本殿と拝殿、重文指定の14㌢の板を組んだ鎌倉時代建立のミコシ庫と摂社の大己貴社がある。



山崎の合戦記念碑

明治初年に天神八王子社は酒解神社と改称し、明治十年には式内の名神大社、自主手祭、米酒解神社に比定して郷社となる。もとは天王山山麓にあった社で、崇峻天皇の蘇林皇后（桃原墓古墳）を母とする仁明天皇の信仰厚く社格も従五位となる。

宝寺から浄土谷まで、30人程度の雨宿りができるのは当社の休憩所だけで、天王山山頂の公園にはお手洗はない。

④ 天王山（大山崎）

酒解神社から500㍍近く登ると左手が天王山山頂である。標高270・4㍍の標識はあるが、三角点は山頂付近では見当たらない。平安期は山崎山で鎌倉時代に山頂に天神八王子社（スサノオノ命）がまつられ、『吾妻鏡』に初めて天王山の名が見える。

現在の山頂は二段の平地になっているが秀吉が天王山城を構築した跡ともいう。

山崎の合戦での天王山争奪戦は、近代の作家の創作した『太閤記』以外に記録はない。

浅野家文書の「羽柴秀吉書状」から推測すると、秀吉軍四万、高山右近・中川清秀を先発させ本隊は西国街道、山の手は羽柴秀長と黒田孝である。迎え撃つ明智光秀軍

は一万八千、筒井・細川の援軍も来ず陥落寺城まで退いて緒戦で敗北した。

山崎城は天王山にあったと推定される南北朝時代の山城で、男山八幡に籠城する北畠顕信を支援する摂津の南朝軍を防御するため、足利方が天王山に布陣し、赤松軍に属する秋篠弘が八王子山に馳せ参じ取島尼城（天王山尾根の城）を築固したという。

応仁の乱でもいくたびか取島尼城の争奪戦が展開された記録が残っている。山崎の合戦後に秀吉が修復し天下統一の基盤にしていたが、大坂へ根拠を移してからは廃城となりとり壊されたという。

天王山から長岡京市浄土谷への3㌔はほとんどが尼飛道のゆるいくだりで、山頂からも一㌔もくだると式内大社比定の旧郷社小倉神社への急坂が分岐する。あとはたんたんと大谷の続く地道で足裏への感触もよく、東方への展望も楽しめる歩きやすい道である。

浄土谷の乗願寺

3㌔に近く歩いて急坂をくだり、府道伏見柳谷線線を左折して、数分も歩くと戸数十数戸の浄土谷に入る。天皇尾根命を祭祀する村社の御谷神社と、阿弥陀如来を本尊とする西山浄土宗の乗願寺がある。

⑤ 柳谷観音（長岡京市～柳谷）

楊谷寺・柳谷観音

地図にはないが御谷神社の裏手から柳谷へ1㌔福の山道をつけたので、20分もあれば柳谷奥の院の手前へ抜けられる。

柳谷は立願山楊谷寺・柳谷観音の立派な建物と、振っていた近世の旅籠が転業した飲食兼土産物屋があるだけの集落である。楊谷寺は十一面千手千眼観音を本尊とする西山浄土宗で、京都清水寺の開祖、延鎮が生身の十一面観音を拝むため夢のお告げによってこの地に分け入り、観音を感得して堂宇を建立したという。空海も当寺に参籠して修行したということから当寺二世は空海とする。

荘厳な本堂と阿弥陀堂は元禄年間の再興で、全国的な組織の観音講と、眼病にきく霊水信仰で十七日の縁日は今なお賑う。

昭和初期角建の奥の院は中御門天皇の念持仏という十一面観音を安置してある。

ここから阪急長岡天神駅またはJR長岡京駅へは参詣道を拡張した府道を歩いて約2時間。浄土谷と柳谷への分岐路付近にはミロク谷十三仏という石仏が残されている。

⑥ 奥海印寺～長岡天満宮（長岡京市）

柳谷から歩いて奥海印寺の最初の家の前から竹やぶの中の小道を抜けると、1時間程で奥海印寺バス停へつく。グループの大多数は余力があったのでバス利用をさけ、長岡天満宮へ参詣し、阪急長岡天神駅またはJR長岡京駅へ向かった。

新ハイキング選書 第18巻

最新刊

一等三角点の名山と秘境

日本全国一等三角点配置図
日本全国一等三角点　総覧

安藤 正義　冨田 弘平
多摩 雪雄　松本　浩 共著

A5判 340頁　定価1800円（税込）
掲載の山　100山

今回発行の一等三角点の名山と秘境と既刊の一等三角点の名山100と次回発行予定の一等三角点の山の本（題未定）の一等三角点の山シリーズでは、山は一つも重複しません。この3冊で、一等三角点の山は、ほぼ網羅されます。

今回の本は、その中にあって、全国一等三角点の県別の地図と所在地を最新の資料により掲載しました。一等三角点マニア待望の本です。一等三角点はこの本で、すべて。

●雑誌の振替でのご注文は送料当社負担

発行所 新ハイキング社
東京都北区滝野川7-6-13
振00130-9-146915
☎(03) 3915-8110

文学歴史探訪ハイク ㉛

上町台地・夕陽丘を訪ねて

松永惠一

秋の暮

此道を行く人なしに秋の暮　はせを

一筋の道がずっと続いている。秋の夕日がまさに落ちようとして、鮮い光があたりの木々の梢を染めている。宵闇がただよい、道行くひとは一人もなく、あたりは寂としている。

元禄七年（1694）9月26日、浮瀬の泥足の会で「新思」と題して披露された。

小宮豊隆は、『芭蕉俳句研究』に記した。「晩は寂寞といふよりシムボルだね。描かれた景色を思ひ浮かべると同時に問髪を入れずに芭蕉の心境が我々の胸を打つのだから」。

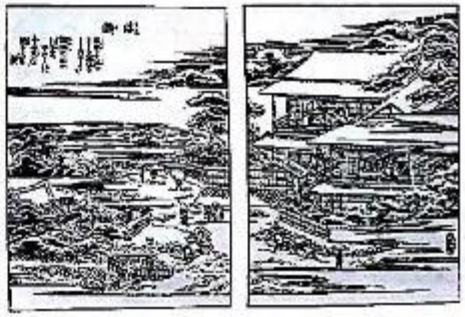
芸術家の道は孤独である。その作家がすぐれていればいるほど孤独は死と隣絶したものであるに相違ない。

秋深き隣は何をする人ぞ

秋がいっそう深まってきた今日この頃、療する病身をいたわって静かに引きこもっていると、秋の静寂の中で隣家もまた物音一つせず、ひっそりと暮らしている様子である。顔も見たことがない、名も知らない人同士が、こうして隣り合っているわけだが、隣はどんな人で、どんな生活を営んでいるのだろう。寂しい晩秋だ。

9月27日園女の家での句会に出席。28日は畦止亭での句会を愉しんだ。翌日は芝柏亭の俳筵に招かれていたが、健康がすぐれず、出席できなかった。連日の句会に疲れていたが、出席できなければせめて句だけでも届けようとして前日のうちに送ったのが、この句である。

浮瀬雪景色『摂津名所図会』



「隣は何をする人ぞ」の句は、どこか暖かい、人を懐かしがっているような気がする。人生は寂しく、また懐かしく、暖かいものである。複雑な人生を複雑なままに詠むのが詩であり、俳諧であろう。

29日の夜からはげしい下痢に苦しみ病の床につく。その後、日を追って容態は悪化した。さらに病状の悪化した芭蕉は10月5日、南御堂前の花屋仁右衛門貸座敷に移り、ここで臨終を迎える。

浮瀬

浮瀬は、月光寺西の「西照庵」、一心寺北の「福屋」と共に、江戸時代の大坂を代表する料亭であった。『摂津名所図会』や『浪華の賑ひ』に、松林に囲まれた二階建の大きな建物の全景が挿画入りで紹介されている。大阪湾を行き交う白帆から、淡路島まで見渡せたすばらしい眺望と「浮瀬」と名付けられた大きな鯉の大杯とで、多くの文人墨客をひきつけた。鮑の貝の穴を塞ぎ、七合五勺入りの杯とし、長崎我部元親の献上品で作ったという袋に入れられていた。満酌して飲む人を名誉とし、その名を署した。大坂談林派の俳人小西来山は、難波の名林として『歌の記』で紹介した。

元禄七年（1694）9月26日、芭蕉が泥足の主催する浮瀬句会に参会した。

尼崎藩士朝日文左衛門（神坂次郎著『元禄御畳奉行の日記』の主人公）は、正徳二年（1712）4月15日浮瀬に来遊した。名林「浮瀬」でイッキ飲みした酒宴の様子は、彼の残した『鸚鵡籠中記』に詳しい。

与謝蕪村は浮瀬に来訪して詠んだ。

小春紙買帰も七合五勺かな

うかぶ瀬に杏並べけり春のくれ

宝暦二年（1748）7月24日に竹本座で初演された「双蝶々曲輪日記」の冒頭は「浮瀬の座敷に相図の嶽笛」の段、「飲めや歌えや一寸先は闇の夜の、花を見るのも一趣向と浮瀬が興遊の、梅花の枝に蝶鳥釣り、夜の花見を夜通しに」と、浮瀬を中心に清水坂が舞台になる。

十返舎一九は『東海道中膝栗毛』に浮瀬見林図を載せ、「秋はうかむせの月、冬は解船町の冬げしき」と記した。

堀山人太田南畝は、大坂滞在中に見聞した名所旧跡等を『壺の若葉』に記している。享和元年（1787）3月26日の条、

「坂のむかふに浮瀬という酒楼あり。人々の酒くみかはすさま、はるかにみゆ。かの長鯨の百川を吸ふごとき飲中の仙なるべし」。

曲亭滝沢馬琴は『壬戌紀行』に、

「料理店数件あれど江戸人の口にあはず。うかむ瀬も堀梅名ほど高からず」と書き留めた。

オランダ商館の医官として着任し、日本の動植物・風俗・歴史などを研究したシーボルトは「一八二六年の江戸参府紀行」の6月14日の条に記す。住吉大社から天王寺に来て五重塔に登り、「近くにあったたいそうきれいな茶屋で昼食をとり」と。このきれいな茶屋は浮瀬であった可能性が高い。

夕陽丘の由来

『新古今和歌集』の選者の一人として知られる鎌倉時代初期の歌人である。藤原定家と並び称せられる藤原家隆は、京の住まいを引き払ってただちに天王寺に移り住んだ。夕陽庵という小庵を設け、「すぐに本物の仏がお迎えに来られようというのだから、作り物の本尊は無用だ」と言って、本尊も安置せず、ひたすら夕陽を拝み、一心に念仏を唱えた。翌三年4月8日、和歌に対する宿願の執着心から七首の和歌を詠んだ。

契りあれば難波の里にやどりきて

浪の入り日をながめつる哉

前世からの定めがあったので、難波の里に宿をとって、西方はるかの波に沈む夕日を拝むことだ。

翌9日、西の刻（午後6時）座ったままで合掌して、八十歳の生涯を閉じた。

小倉百人一首の藤原家隆

コース概観

今回のコースは、大阪市天王寺区の歴史の散歩道（上町台地北コースの南部分）を訪ねる。歴史の散歩道のシンボルマークの入ったサイン柱があり、案内板が取り付けられ、史跡等の方向、距離が示されている。また路面表示「つたい石」が敷かれ、目的地へ誘導するようになっていて、わかりやすく史蹟巡礼ができるようになっている。

大阪市の中央を南北に背骨のように突き出た上町台地は、日本の歴史や文化の足跡を残す町。落陽の佳景で知られる夕陽丘には多くの寺々が、それぞれに歴史を秘めて、木々の緑にかこまれて点在する。日本史の移り香を楽しみながら、生国魂神社から逢坂へと夕陽丘の地を巡る。

近鉄上本町駅、地下鉄谷町九丁目駅で下車。生国魂神社へは、上本町駅からは西へ少し歩き、谷町筋を歩道橋で渡る。谷町九丁目駅からは南に出て歩道橋を右に折れる。上本町駅から生国魂神社へと通じる道の左側上汐四丁目界隈が、昭和十五年『夫婦善哉』で文壇に躍り出た織田作之助の生まれ育った町。「路地の多い――というのはつまり貧乏人の多い町であった。」と、作之助は『木の都』に記した。

生国魂神社は「生玉さん」の名で親しまれる。神武天皇が東征の際、石山砦に生島・足島神を祀られたのがルーツ。秀吉の大坂城築城により現在の位置に移された。井原西鶴が延宝八年（1680）矢数俳諧を興行し、一日一夜四千句の独吟を成し遂げた舞台、南坊のあった所。境内に銀杏がある。「知っての通り下寺町の東側のうしろには生国魂神社のある高台が聳えているので今いうような路地は寺の境内からその真台へつづく斜面なのであるが、そこは大阪にはちょっと珍しい樹木の繁った場所であって琴女の墓はその斜面の中腹を平らにしたささやかな空地に建っていた」と、谷崎潤一郎は『春琴抄』に書き記した。

この上町台地の地理を利用して、生玉公園の地下に、前の大戦時、軍の巨大な防空壕が掘られていた。

寺町の本々の間にとけこんだ風情のある坂道がいくつも残されていて、それぞれに古い名が残っている。北から愛染坂・源聖寺坂・口縄坂・愛染坂・清水坂・天神坂・逢坂。まとめて「天王寺七坂」と言う。

源聖寺坂は生国魂神社のすぐ南にある狭い石畳の坂道。古い寺町の名残がある。おりたところ茶屋町筋に面して源聖寺がある。

生国魂神社の南はお寺がズラリと並ぶ。大坂城築城後の復興に大いに貢献した茶屋出身が、元和の初年に寺院の移転統廃合を行った。銀山寺には近松門左衛門の名作「心中宵庚申」の主人公、お千代と半兵衛が眠る。『曽根崎心中』『冥途の飛脚』『女殺油地獄』『傾城反魂香』『国性爺合戦』『曽根崎心中』『冥途の飛脚』など幾多の名作を残した浄瑠璃作家の巨匠・竹田出雲の墓所は青蓮寺にある。谷町筋を隔てた臨林寺には西鶴に先んじて『好色一代男』を出版した井原西鶴の墓がある。太平寺は数え年十三歳になった男女が4月13日に、康空隠遁庵に参詣して知恵や学力を授けてもらうならわしで、知恵詣りともいわれる「十三詣り」で知られる。春陽軒は百人一首の研究では右に出

る者はないと言われた国学者尼崎利雄の墓所。浄春寺は藤原家隆の夕陽庵の跡を寺に改めたという。西鶴の墓がある。また、天文観測に没頭し、ケプラーの第三法則と同じ法則を独刑し、渋川長近、山片蟠桃ら多くの門人を育てた麻田剛立の墓所でもある。

口縄坂は郷愁に似た古い面影をとどめている。坂上から見下ろした姿が蛇の腹のように見えるところから蛇坂とついたと言う。大阪では蛇は「クチナワ」と言う。

「口縄坂は寂々と木が枯れて、白い風が走っていた。私は右股を降りて行きながら、もうこの坂を登り降りすることも当分あるまいと思った。背巷の回想の甘さは終り、新しい現実が私に向き直って来たように思われた。風は木の梢にはげしく突っ掛っていた」と、織田作之助の『木の都』の一節が書かれた黒御影石に刻まれている。

夕陽丘の地名の謂れとなった家隆塚は美しく整備されている。勝鬘院は愛染さんの名で親しまれる。聖徳太子が四天王寺に造った施薬院の後身という。境内にある多宝塔は文禄三年（1594）に豊臣秀吉が再建したものといわれ、重要文化財に指定されている。7月1日の愛染祭りは、大阪の二大祭り（天神祭り・生玉夏祭り）の先駆け。背巷衆の乗った宝西船が出て賑わう。境内には、縁結びの楽木として知られる愛染かつらがある。今中楽院の作詞で東海林太郎が歌った「愛染まつり」の歌。

浪速祭りのさきがけよ
意気なはやしに人の花
ともに揃かろ愛の矢を
御籠は色かごホイサッサ

大江神社は、四天王寺の鎮守として聖徳太子が創祀した七宮（上之宮・小橋・二軒・河堀・久保・新堀）の一つと伝える。絵馬堂からは、難波から戎町あたりが眼下に見渡される。このあたりが俗人町は天王寺境内の俗人（平人）たちが居住した地。「君が代」を作曲した林広守、「海ゆかば」の東儀季芳も天王寺俗人町の出である。

浮瀬の跡は星光学院のテニスコートの西。「蓮華岡」として整備されている。

新清水寺は、寛永十七年（1640）、京都音羽山清水寺にあった聖徳太子作という十一面千手観音を移して本尊とした。また、清水寺に倣って舞台も作られ、音羽の滝を模して、四天王寺の金堂の下の泉から水を引いたという玉出の滝も作られた。

身近にありながら、普段歩くこともない町歩き。茅の海（大阪湾）に巨大な夕陽が沈んで一日は終わった。

《コース》

近鉄上本町駅・地下鉄谷町九丁目駅―生国魂神社―源聖寺坂―銀山寺―青蓮寺―臨林寺―太平寺―春陽軒―浄春寺―口縄坂―家隆塚―勝鬘院―大江神社―浮瀬旧跡―新清水寺―地下鉄四天王寺前夕陽丘駅

特選コースガイド 11

丹波

秋色濃い雑木の山

中津灰山

中級コース（★★）

慶佐次　盛一

今回紹介する中津灰山は、地形図に山名の記載はない。故今西錦司先生をはじめ一部の人たちは「中津合山」と呼んでおられたようだが、内田嘉弥氏（テカニシャ出版発刊『京都丹波の山』の筆者）から「中津灰山」が正しいと教えていただいた。

丹波の山ではっきりした登路は期待しがたいところだが、地形図の破線路（峠道）がほぼ残っており、この道を利用すればやぶこぎもたいしたことはない。

丹波といえば松茸。この季節になると入山禁止の山が多いが、ここは登路を外さないかぎり大丈夫だ。ただし、標識のたくさんはいっさい無いし、残道テープも期待できない。綾部市と和知町の境界あたりは境界も和かず地形がゆるんでいるので読図力が試される。私たちは予定通りのコースをたどれなかった。

交通アクセスはJR和知駅から長老ヶ岳登山口への和知町営バスがある。日曜祝日は運休する場合があるので、前もって和知町役場で確認したほうがよい。私たちはこの山に続いて他の山に登る計画もあったので、大阪を車で発った。

和知町に入り、由良川支流の上和知川に沿った車道を北上する。下乙見、下粟野と過ぎて行く。川沿いに拓かれた畑地は両岸に山が迫っているだけに狭い。下粟野を過ぎると上和知川は本谷川と名前を変える。

「和知黒」と雲かれた看板が目立つ。和知黒とは和知で栽培されている丹波黒大豆のブランド名で、和知の土壌と気候に培われた名産品である。11月はちょうど和知黒の収穫期で、町営の販売所もある。ちなみに和知には銘酒「長老」もある。

上粟野の「和知山の家」を過ぎると間もなく仏主で、長老ヶ岳登山口のバス停がある。ここから左に分岐する林道の林道へ車を入れる。500㍍くらい走った所で車の底が地面にすれだしたので、材木の切り出し場を見つけて駐車した。大阪を発って約3時間だった。

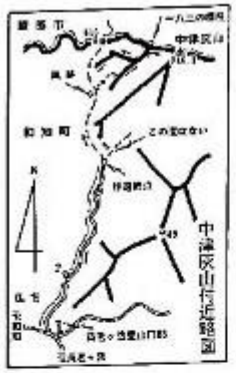
中津灰山の3等三角点

身仕度を整え林道を北へ進む。周囲は植林帯だが左に清冷な谷川が流れ、林道脇にはけっこう雑木も多い。落葉樹は早くも秋の彩りになり、足元にはサワグルミの実も落ちていた。

林道終点は地形図の破線路が二股になった地点で、ちょっとした広場になっている。地形図では左俣の破線路は谷の左岸沿いの途中で切れているが、実際には左俣の道と共に仮橋を渡って右岸についており、先のほうに小さな堰堤が見えたので、おそらくそのあたりで途切れているものと思われる。

私たちは左俣の道に入る。谷に沿って北上する、綾部市と和知町の境界稜線を越える昔の峠道である。残っているかどうか懸念されたが、その峠から綾部市と和知町の市町界稜線をたどって中津灰山に登る計画だった。

道は山肌沿いに左の谷へ向かう。少々やぶっぽいが道幅は広い。成長した植林帯に入ると、広い道は西のほうへ高度を上げて行く。これは本来の峠道ではなく、植林のきいのブル道らしい。峠道のほうはちょっと分かりにくいが、谷の右岸に細々と続いている。消えかけている所や、崩れている所もある。峠道は車社会では消えゆく運命を背負っているのだろう。



左に炭焼きの窯跡を見るころ、地形は一気にゆるみ始める。右の丸太の仮橋を渡り谷沿いの踏み跡をたどる。やがて踏み跡は消え、左右に山が迫ってきた。しまった！仮橋を渡らずにそのまま進むのが峠道だったと気づいたが、巨石の方向がいいので右の尾根へ登り、山頂のイガの転がる尾根を登った。

やがて踏み跡が残る稜線に出る。これが市町界稜線だろうとその時は思った。ほぼ東へたどった高みに、黄色いペンキで頭を塗られた方柱に一八三の番号が刻まれていた。ここからいったんくだり、ゆるく登り返した山頂に中津灰山（746・1㍍）の3等三角点があった。刻印は北向きで、三角点の頭も黄色いペンキで塗られていた。図根には巻まれないが、秋色濃い雑木の枝を通して岩尾山の稜線が望める静かな頂上だ。

くだりは番号が刻まれた石柱まで戻り、市町境界と思いこんでいた尾根をくだった。くだる途中で本物の市町界稜線が北側に見えるのを確認してやっと勘違いに気づいたのだが、視界のない低山を正確に歩くのは難しいものだ。そこが低山歩きの楽しさだと、お互いに慰め合いつつ峠道をくだり、駐車地点まで戻った。

コースタイム

駐車地点（20分）林道終点（1時間20分）中津灰山（1時間20分）駐車地点

地形図 2万5千＝丹波大町・和知

アドバイス

長老ヶ岳登山道の近くに七色の木がある。カツラの大木に、スギ・ケヤキ・モミジ・フジ・カヤ・カエデの木が宿っているそうだ。時間があればお立ち寄りください。

問い合わせ先

和知町役場　0771（84）0200

近畿の山 ――七賢出版――

東海自然歩道30選【関西版】
大阪府社会体育研究所 1,400円
京阪神さわやかハイキング
大阪府社会体育研究所 1,400円
京阪神ベストハイク 渓谷を訪ねて
岩本義次 1,500円
京阪神 花の山旅
大阪府社会体育研究所 1,500円
京阪神ベストハイク＆キャンプ30
友岡邦雄 1,500円
京阪神 ベストハイク 六甲の山
小岡敏一郎 1,500円
近畿の山グレード別ベスト30
西村弘美 1,500円

〒530 大阪市北区西天満4-15-10 フェニックスタワービル12F
TEL06-345-5333 FAX06-345-1772

特選コースガイド㉒

鈴鹿

腰越峠から ハライド・国見岳

中級コース（★★）

若林 英郎

「国見」という山名は全国各地に見られ、三省堂の『コンサイス日本山名辞典』には国見岳13山・国見山24山が記載されているが、残念ながら鈴鹿山脈の国見岳はない。この国見岳は1000㍍余の山だが、御在所岳の北隣に位置するためか、いまひとつ人気がなく訪れる人も少ないようだ。しかし、国見尾根は景色もすばらしく、以下に紹介する腰越峠やハライドとともに、まさに「知る人ぞ知る」所と思える。

朝明ヒュッテのバス停前から朝明川に架かる見返り橋を渡ってすぐに左へ折れ、沢（腰越谷）を渡る。すぐに右（朝明ヒュッテ）への簡易舗装された道をしばらく行くと山道となり、「家族遊歩道」と書かれた標識の所に着く。「家族遊歩道Aコース」に従って砂防堰堤を二つほど越すと、いよいよ腰越峠への道の分岐である。遊歩道はそのままっすぐ続くが、腰越峠への道は左に折れ、狭いブッシュにおおわれた道をテープと踏み跡を頼りに沢沿いに進む。所々に古い標識（「四中工」と書かれたものなど）が残っているが、道はよくない。

最後の大きな堰堤は左岸（右側）を大きく高巻きし、おり左所から腰越谷を登る。テープや岩に書かれた薄いペンキ印を確認しながらほぼ真南に向かって登る。谷を登ること約1時間、前方に鞍部らしい地形が見えてくる。このあたり、右が大きくガレている。最後は左手にある踏み跡道を登ると、腰越峠に出る。

峠のすぐ東側に風もよく通り、休憩地によい。峠位置近に二か所レリーフがある。峠から10数分で標高908㍍のハライドに登頂できるが、道がザレている。この「ハライド」という山名は、地形図や市販のガイドブックには記載されていないが、西尾寿一氏の『鈴鹿の山と谷4』（ナカニシヤ出版）に紹介されている。山頂はかなり広く、ここからの眺めは西尾氏も指摘していることく大変すばらしく、南側は御在所岳と藤内壁、その前に国見尾根、北側には釈迦ヶ岳や鈴鹿北部の山々が見渡せる。

腰越峠から道は少しくだり気味になり、数分行くと迂回路となる。これは谷の上部が崩壊しているためである。登山道は二度大きくくだり、登る。このアルバイトは思った以上につらく、特に暑い季節にはこたえるだろう。やがて国見岳の尾根からのびる支尾根をくだるが道標はほとんどなく、テープを確認しながらいくことになる。鳥尾道谷への道と藤内小屋への分岐に標識があり、ここから左下（南側）へ階段の道をくだる。数分で沢（北谷の上流、即ち不動谷）に出る。

ハライド

この沢に出る手前は杉林が茂るやや平らな場所で、『温泉町史』によればここが伝教大師創建説の三岳寺跡ということだが、昔の面影はない。わずかに杉林の中に「手洗石」がぽつんと残り、沢を渡った対岸（右岸側）に五輪塔らしきものが数基その跡

をとどめている程度で詳細はわからない。

藤内小屋から来る道との分岐から、立派な標識「国見尾根」に従い沢沿いに登る。十数分後、左側に数条の流が見えてくる。この流は左岸（右側）を巻くが、これを上がるとすぐに「不動岡」（不動明王を祀った岡）がある。この不動岡の左側に高さ約10㍍の不動滝が見えてくる。この流も左岸を高巻く。トラロープが張られた足場の悪い急坂を上がる。上がりきった所からそのままスを進まず、ルートは大きく左、すなわち流の上部をトラバースすることになる（道標あり）。その後は廻れ沢となり、今にも崩れそうな石や岩が転がるガレ場に出る。

上部からの落石には十分注意しよう。少しルートが見つけにくいが、前方を注意深く見て登っていけば、やがて国見尾根の末端部に出る。不動岡から約30分程である。この末端からの眺めも良く、腰越峠やハライド、その背後には釈迦ヶ岳が、また南側には御在所岳の藤内壁が目前に見える。ここから立梁道へおりるルートが標示されているが、現在はほとんど利用されていない。

いよいよ国見尾根を登る。ルートのほとんどは樹林の中で、途中二か所に大きな岩が露出している場所がある。「天狗岩」と「ゆるぎ岩」と言われ、コース中もっとも景色の良い所で、「ゆるぎ石」は僅かに大人の力で揺れるのがわかる。一度試してみるのもよいが、絶対に石の上には乗らないように。「天狗岩」は上へ登れるが、高所恐怖症の人はやめたほうがよい。

国見岳の天狗岩

「天狗岩」「ゆるぎ石」を過ぎ、もう一か所岩場を通過するとやがて笹の道となって、国見峠からの道に出合う。国見岳の頂上はこれより右（北）に道をとるとすぐである。標高1056・9㍍の標識（地形図では1170㍍）が立っている。近くの石の上に立つと、北鈴鹿の御池岳や霊仙山、天気が良ければ琵琶湖が、西は国乙岳や平らな山頂のイブネ・クラシが美しく見渡せる。ただ、場所が狭いため大人数の休憩場所には不向きだ。休憩するには来た道を戻り、国見峠手前の岩場をおすすめする。

下山は国見峠へくだり、裏道コースの藤内小屋～鈴鹿スカイライン～湯の山温泉のコースがもっとも一般的で、安全である。

◇コースタイム◇

朝明バス停（1時間）腰越峠（往復30分・ハライド）（40分）三岳寺跡（1時間30分）国見岳（2時間）湯の山温泉

〈地形図〉 昭文社＝「45御在所・鎌ヶ岳」

特選コースガイド図　奈良中部

鳥見山中霊時と中世の山城跡

鳥見山と外鎌山

初級コース（★　）

柴田　昭彦

奈良県桜井市外山の西方に横たわる鳥見山と、同市忍坂の東方にそびえる稚郷・外鎌山は、『万葉集』に詠まれた「跡見山」と「忍坂の山」と考えられている。そして、鳥見山の西麓の等弥神社付近は、『日本書紀』に記された、神武天皇が天神をまつったという「鳥見山中霊時」の有力な候補地となっている。一方、南北朝の動乱期において南朝の出臣、四条隆俊はそれぞれの山頂に鳥見山城（稚郷）と外鎌城を築いている。

鳥見山と外鎌山は標高300㍍に満たない低山であり、それぞれを単独で登るとものの足りないためか、あまり紹介されていないようである。今回、等弥神社から鳥見山へ登り朝倉同地から外鎌山へ登ったあと、史跡公園を見て帰るという手頃なハイキングコースを案内してみたい。

近鉄・JR桜井駅から南側へ出て、駅前通りの歩道を進むと左右に商店街の入り口がある。この東西の通りは古代横大路の延長部分で、近世の初瀬街道（伊勢街道）である。横大路を東へ延長した線上に外鎌山があり、神奈備山であることが指摘されている（文献(1)参照）。南へ進み橋を渡り、国道を横断する。次の辻には地蔵堂があり、ここで左へ入る。右に流れを見て歩くと道は右へカーブし、ミラーが立つ地点で右へ折れる。すぐ右側の坂をとりがれば、石根山薬師寺（東光寺跡）に着く。坂の途中から鳥見山と音羽山の展望がすばらしい。このあたりは桜井公園（上舞台）付近を含めて、『万葉集』に詠まれた「磐余の山」として知られている。

大師堂の右手から山上へ出ると不動明王像をまつる小堂があり、左手には磐座来風先生之碑がある。寺を辞して坂の下で右へ進み、2㍍幅の道を南へ向かう。次の辻で右へ出てすぐ左の道へ入ると、右段の上の丘に磐座と金比羅碑がある。もとの辻へ戻りそのまま東へ向かう。橋を渡って少し歩くと、右手に昭和二年銘の「鳥見山霊時参道記念碑」が立っている。

鳥見山東峰の霊時碑

直進して直道を横断し、右へ進むとすぐ等弥神社の入り口である。そのまま進んで青モータープールの先の細道に入ると、昭和十五年銘の「鳥見山中霊時顕彰碑」がある。

神社へ戻ると入り口の左側に、地元出身の評論家・保田与重郎揮毫「甲大学」が刻まれた石碑がある。昭和二年銘の「鳥見山霊時遥拝所」の碑が立つ。右側には、佐藤春夫や畑口大学の文学碑。①～⑤（＊印参照）が並ぶ。境内の案内板があり、山頂への道も示してある。

参道を進むと、右手に下ツ屋社がある。鳥居は享保十五年（1730）のもので、明治八年の遷宮以前は下ツ屋社が神社の中心であったという。百度石の立つ分岐で左へ進むと左手に句碑＊⑥がある。右手に上ツ屋社があり、現在の本殿である。向かって左手前に猪狩神社の朱鳥居があり、大正十年銘の「鳥見山霊時」の顕彰会の石柱が立っていて、「霊時祭場」とある。ここから東側一帯を霊時と考えているようである。この前の広場には、三つの歌碑＊⑦～⑨が立っている。

朱鳥居をくぐり左へ上がると猪狩神社がある。少し戻って山道を登るとすぐ左手に黒龍社があり、石段を上がること100㍍余りで霊時拝所に着く。拝所裏石は大正十四年頃に設置されたが、その際に高坏形の土面器が多く出土したという。昭和五十年には、伊勢神宮大宮司・徳川宗敬氏を迎えて、霊時大祭と万葉歌碑＊⑩の除幕式が行われている。

上ツ屋社の背後にあたる「霊場山」には社殿があったと伝えられ、天永三年（1112）3月の雨水害による山崩れで埋まり、9月に山麓の現在地に移築されたというが、気象史料には5月の霖雨の記録がなく、真偽のほどは定かでない（文献(3)参照）。

等弥神社旧地とされる大鼎塚山の位置は、神社から二、三町登った所（文献(1)(6)参照）であり、霊時拝所付近を指すものと考えられる。鳥見山中霊時は一般に鳥見山頂とされているが、むしろ霊場山を中心とした等弥神社境内を指すと考えるほうが妥当かもしれない（文献(6)参照）。境内一帯は、弥生時代末期の遺跡となっている。

霊時拝所跡の背後に続く落ち葉の道を進むと杉林に入り、左手からの道と合流する。次の分岐はどちらをとってもすぐに合流し、小さいコブを通り急な登りになったところで、右手の踏み跡をたどると、円丘の広場に出る。霊時拝所からここまで15分ほどである。高さ2㍍ぐらいの歌碑＊⑪が立っている。文献(2)(5)(7)(8)に碑文の紹介があるが、この歌碑は紹介されていない。等弥神社の案内板には、この地点に「霊場山」「句碑」とあるが、文献(3)(4)などを調べてみると、「庭殿」と呼ばれる所であり、祭祀の斎宴場の跡と伝えられている。神社所蔵の元治元年（1864）の社市三郎日記によれば、庭殿に磐余之松があって、毎年正月十五日に綱掛神事が行われていたが、百年前に松が枯れて、注連縄掛けも途絶えたという。歴史は「庭殿」の西側に少しあるが、他は、ほとんど樹木に遮られている。

句碑ならぬ歌碑の背後へくだってみると、元の道に出て小さいコブに着く。ここは神社の案内板に示された「座殿」らしいが、祭祀の場所らしくない立地に思われる。少

し進むと、宗像神社へ通じる左への分岐があるが、見送って急坂を登りきると「白庭」と刻んだ石碑の立つ平坦地に出る。ここは鳥見山頂の双峰の一つ「西峰」であり、白山、城山、白屋山とも呼ばれる。「白庭」では時に注連縄を張って祭の庭としたという。

北へ進み、すぐ東へ坂をくだり、平らな道を行くと左手に小高い丘がある。分岐があり、右が下山道で左手の丘の上が「霊畤」である。山頂の広場（といっても狭いが）には「霊畤」と刻んだ石碑が立ち、「祭場」と伝えられている。極木の間から西を望く三方の展望が開けている。北方に三輪山が見える。東西両峰一帯は、明確な段をなしていて、両朝の出臣・西阿公が築いた鳥見山城の跡を観察することができる。この城は暦応四年（1341）に落城している。文献(9)に、その城址図がある。

分岐へ戻り、東への尾根道をたどって下山しよう。右側に急崖が現れ、左側をへつり、檜林と雑木林の中の道をくだる。檜林の中の急坂をぬけると田んぼ道に出る。右手の尾根が西阿公の築いた赤尾城の跡のようである。次の辻で右へ入れば、忍坂山口坐神社に着く。樹齢六百年の楠の巨木があり、土古伝説の式内社である。神社から北方へ進んで、国道を横断し朝倉団地の中の広い歩道を歩く。ミラーの立つ橋断歩道を渡ってから、右側の石段を上がる。

桜井ガスのタンクの先にある給水塔への道へ入ってすぐ左側の、ブロック塀の右端から細い道をたどる。途中で分岐があるが左をとり、ジグザグの道を登りきると外鎌山（別墓墓王）の頂上に飛び出す。昭和三十二年に立てられた西阿公之墓碑が東側にある。頂上一帯は、西阿公の築いた外鎌城の跡地である。三輪山と巻向山が眼前に広がっている。

帰りは南側にある磨み跡をたどり、西方へとくだっていく。目印のテープを見のがさないようにしてくだれば、畑作地に出る。その右側をまっすぐに進むと、民家の右側を左い歴史街道への案内板の立つ地点に出る。そのまま国道のほうへ進み、手前で右の脇道へ入る。再び広い道へ出たら信号を渡って右へ進み、次の左への広い道をたどれば、途中、左側に中跡公園への道がある。硯倉台の遺跡に伴い移設された6～7世紀墳の古墳が見学できる。元の道へ戻り、コートの左横から階段をくだれば近鉄大和朝倉駅に着く。

なお、紹介したコースだけでは歩き足りないと思われる向きには、文献(7)(10)などを参考にして、桜井公園（茶臼山城址、土舞台）、忍坂（石切場、秋ノ宮居＝舒明天皇陵）など、周辺の史跡探訪コースを加えるとよいだろう。また鳥見山付近には古墳が多いが、その中から比較的見つけやすいものを二つ地図に示しておいたので、小規模の古墳ではあるが、興味のある向きにはサブコースとして訪れてみるのも一興であろう。

（平成8年4月13日歩く）

◇コースタイム◇

近鉄桜井駅・JR桜井駅（30分）等弥神社（30分）鳥見山霊畤（30分）忍坂山口坐神社（30分）外鎌山（30分）近鉄大和朝倉駅

◇地形図▽2万5千＝桜井・初瀬

参考

等弥神社付近の句碑と歌碑

①佐藤春夫の句碑（昭和38年）

「大和には　みささき多し　神もまた」

②忍坂山口坐神社（昭和43年）

「さきに来て　等弥のおん神　をろがみし　友につゞきて　われもをろがむ」

③城山大学の句碑（春夫句碑顕彰碑）

「草もみぢ　友の面かと　虫をきく」

④横山青風子の句碑（昭和50年）

「とみの里　流れのいまも　蓼の花」

⑤万葉歌碑（巻八―一五六〇）（鳥見山太部霊王）（昭和57年）

「味が目を　跡見の崎の　秋はぎハ　比月ごろは　散りこすなゆめ」

（大伴郎女）

⑥万葉歌碑（巻八―一五四九）

（伊勢神宮大宮司、二條弼基書）（昭和52年）

「朝日立つ　跡見の岳辺の　なでしこの花　総手折り　われは行きなむ　奈良人のため」

（紀男人）

⑦酒匂雅社元宮司、賀茂百樹翁の歌碑（昭和10年頃に建立）

「こゝをしも　鳥見の沙庭と　きくからに　伏しこそをがめ　天津る神を」

⑧万葉歌碑（巻十一―三四六〇）

（伊勢神宮大宮司、柳川宗敬書）（昭和60年）

「寝良石　跡見山コ之　灼然　恋者妹名　人待知可聞」

（作者不詳）

⑨庭殿に建てられた歌碑

「見わたせば　大和国原　ひとめにて　鳥見のゆ庭の　あとぞしづける」

鳥見山中霊時の伝承地の諸説

(1)桜井市外山および桜井（鳥見山）

(2)鳥見山の西麓の等弥神社境内

(3)鳥見山の山頂（双峰）の祭場

(4)字陀郡榛原町萩原（字陀鳥見山）

（鳥見山公園の「とうべの丘」）

(5)山野郡東吉野村木津川字上貴敷（丹生川上鳥見山、小和神社、モンガウラ）

(6)生駒市小平尾町（小平尾山の山頂の西隅にある祭壇）

(7)奈良市二条大六丁目（三輪寺境内の鎮神社跡）

(8)奈良市中町（現地）

(9)奈良市石木町（笠山、山手西峰、巻向山）

(10)奈良市中町（笠置神社背後の丘陵）

(11)天理市滝本町（梅尾の滝の北の梅尾山の山頂の石碑）（とうびーとび）

(12)橿原市一町　秋之宮

（注）神武天皇ゆかりの伝承地については、文献(6)に詳しい。赤村清二『神武天皇』（中公文庫）に簡単な紹介がある。(3)については本誌19号の慶光氏の記事、(4)については本誌20号の拙稿「正兵衛道」を参考にされたい。(3)は森口説（文献03参照）。(5)～(8)は榛原村で提唱されたものである（文献03参照）。(9)は『山辺郡誌』による。(10)は(11)は『和州旧跡聞考』の説である。

参考文献

(1)上山春平編『シンポジウム　伊勢神宮』（人文書院、平5）

(2)式内社研究会編『式内社調査報告』第三巻（大和国中）（皇学館大学出版部、昭57）

(3)『奈良県磯城郡誌』（大4）

(4)石川銀次郎『雄国の史蹟』（昭15）

(5)『桜井町史』（昭29）

(6)文部省『神武天皇聖蹟調査報告』（昭17）

(7)金本朝一『磯余・多武峯の道』（鉄文館、昭52）

(8)大善孝監修『山の辺の歌碑をたずねて（改訂版）』（タイムス、平7）

(9)『日本城郭体系』第10巻（昭55）

(10)『国野聖史『万葉の道』巻の二『山辺編』（昭57）

(11)伊達宗泰『大和・飛鳥考古学散歩』（学生社、平8）

(12)森口奈良吉『丹生川上と鳥見霊畤・吉野離宮』（元生川上神社社務所）（昭4）

(13)『鳥見山霊畤考』（榛原村）（昭14）

台湾の山々・五岳三尖へ（第3回）

連載

秀姑巒山

山形歳之

秀姑坪から秀姑巒山

巴奈伊克小屋の朝。前日と同じく午前3時起床。気温11度。例のごとく餅入りラーメンの朝食をとり、前でたレトルトパックの御飯を弁当に出発する。真っ暗な中ライトを手に沢沿いの道を進み、15分程で逢坂尖山の分岐を過ぎる。暗くて周囲の状況が全く分からないが、谷側は深く落ち込んでいるので注意して歩く。やがてライトの中に中央金鉱小屋が現れる。八通関小屋や巴奈伊克小屋のようにプレハブ小屋で、同じように入り口は戸が無く、一枚の布が垂れ下がっている。床も土間のままだ。

水平道はここまでで、小屋の裏から登りが始まる。5時半を過ぎると明るくなりライトを消すことができた。所々ぬかるんだ所もあるが、道はは っきりしていて前方の中央山脈目がけてのびている。まだ主稜は前山にかくれて姿を現さない。やがて中央山脈の稜線の沢に合流すると、白洋金鉱小屋に到着する。

小屋といっても石垣に差しかけられた片屋根があるだけで、三方は開き、強い風が吹き抜けている。傾いた屋根も板を並べた上に石が重しに置かれているだけで、雨漏りさえ防げないだろう。全く小屋といえる代物ではなく、わずかに日除けになるくらいで、泊まるにはテントが必要だ。もちろん床も無い。ただそばの沢から水は十分に得られる。名の通り金鉱山の跡らしく、すぐそばの沢近くにも大きな洞窟が見えていた。

ここは谷筋で風が強く、休みをとらず早々に通り過ぎた。さらに登ると中央山脈のおだやかな高原台地の秀姑坪に登り着く。坪とは平らという意味で高原の台地を表している。ここで中央山脈縦走路に合流したことになる。快適な所だがきょうは吹き抜ける風が肌寒い。

白洋金鉱小屋

要所要所には案内板が立ち、500㍍毎に八通関と秀姑巒山の距離を示す道標が設置されている。しかし示されている距離はでたらめで、秀姑巒山5㌔を過ぎて次は4㌔かと思ったら6㌔になっていたりする。またやっと0㍍に到着しても、最後の登りが800㍍もあるとはガイドの話である。

秀姑巒山山頂

秀姑坪を過ぎると道は岩壁をトラバースするようになる。足場や手掛かりはしっかりしていて危険は感じないが、それでも踏み外せば何十㍍も転落するので気が抜けない。

この岩壁を回り込むとやっと秀姑巒山の最後の登り口になる。ガイドが話していた通り標示の距離は0㍍になっていた。展望ではここが秀姑巒山になってしまう。

ふり返って見ると、今通ってきた岩壁は凄い断崖になっていて、よくもあんな所が通過できたものだと思われた。

霧がたち込めて山頂が定かでないガレの登りが続く。最後のがんばりでおどり出た秀姑巒山の山頂は岩が積み重なっていた。霧が深く同行の人たちの姿もかすみ、展望は全く得られない。その上強い風が吹き抜け霧が舞っていく。

足元まで露出した2等三角点の標石と、「民国76年10月、森林三角點」と刻まれた石が岩に挟まれて設置されていた。

強い風と寒さのために腰も下ろさず、写真を撮っただけで早々に山頂を後にした。標示板0㍍の所までくだってひと息いれる。この先も岩壁を通過するまでは緊張を解くことができない。

秀姑坪にたどり着いてやっと気がゆるんだ。秀姑坪も風が強い。風を避け、ガイドが作ってくれた温かい味噌汁とパックの御飯で元気を取り戻した。

何といっても下山は楽だ。もう危険な所もないので気楽である。こんな山中でも測量が行われているらしく、白洋金鉱小屋の上に大きな対空標式が設置されていた。

白洋金鉱小屋でも休まずに一気に中央金鉱小屋まで下山した。ここまで来れば後は水平道なのでゆっくりと休むことにする。時間はまだ午後1時前。小屋の前の流れで汗を流し、コーヒータイムをとる。登頂を果たした後の気分は最高である。その後ぶらぶらと巴奈伊克小屋に戻った。

△コースタイム▽

巴奈伊克小屋（45分）中央金鉱小屋（2時間10分）白洋金鉱小屋（20分）秀姑坪（1時間）秀姑巒山取付道標0㍍地点（45分）秀姑巒山（30分）取付点（35分）秀姑坪（1時間45分）中央金鉱小屋（30分）巴奈伊克小屋

巴奈伊克小屋から東埔温泉

玉山・北北尖山・秀姑巒山と、計画の三山の登頂が終わってきょうは下山する日である。

しかし、下山といっても高度差1600㍍のくだりと、21㌔の歩行が待っている。

八通関古道の道標

もう登ることはないだろうがまだまだ先は長い。

午前4時起床。お粥とラーメン。おかしなとり合わせの朝食も、山での残りものでは仕方がない。それでも全員食欲旺盛で、目的の山の登頂を果たし、身も心もそして口も軽い。

午前6時、足元が明るくなりゆっくりと出発する。八通関までは来た道を戻ることになる。

道は八通関では小屋におりず、平原を見下ろす山腹を巻いて行く。天気は良いのだが玉山は頂を見せてくれない。しかし何度見ても八通関は穏やかな草原である。

今回の山行中、玉山の排雲山荘で数人の若者を見たが、後の3日間はただ一人の登山者にも会わなかった。本当に奥深い山地と実感する。

八通関を過ぎると八通関古道は深い谷の山腹をぬって行く。ここでも500㍍毎に距離を示す道標が立っている。次の鞍部までの間は大きく崩れて崖を高巻く。八通関から下の古道でも油断はできない。

もともと標高には裏の谷に林道が通じていて車で入れたのだが、今は通行不能で利用できない。利用できれば今回の山行も大変楽になったはずだ。ここにはヘリポートや昔の日本の警察官舎の跡等がある。ここの道標は東埔温泉まで14・3㌔を示していた。

500㍍毎に距離が減って行く。草も刈られていて道も良くなり歩きやすくなる。しかし相変わらず谷沿いの高巻き道で、十数㌔はまだまだ長い。

乙女の滝で今回の山での最後の昼食をとる。滝の先でガケ崩れがあり100㍍ばかり最後の登りを強いられる。その後はどこまでもどこまでも山腹をぬう道が続く。くだるに従って天気も良くなり温度も上がって暑くなってきた。

雲龍滝はすばらしい。岩壁の中腹を行く歩道の上下に、100㍍くらいもの一筋の滝が一直線に落ちている。このあたりの道は断崖を削って手すりが付けられていて、下を見ると目も眩むばかり。照りつける日差しで気温は35度を超し、疲るもののない道は焼けつくようだ。まだ3月のはずだが台湾は南国である。雲龍滝は東埔温泉から4㌔の地点である。

やがて東埔の家並みがはるか下流の谷間に姿を現した。玉山の登山口に通じる車道が見えてくる。父子断崖の展望台も厳しい崖の上である。もう歩道の終点も近い。

やっと最初の無人小屋にたどりつく。下を見ると、50㍍ばかり下にある小屋の男が手招きをしている。行ってみると差しかけ小屋は茶店で、冷やしたところてんを売っていた。全員どんぶり鉢二杯を喉に流し込む。渇いた喉には甘露であった。

これは寒天から作られたものではなく「愛玉」といって、ある種の果実の皮を絞り出して作ったもので、以前にもどこかで

お目にかかったことがあった。

だらだらとくだって車道に出る。ここが八通関古道の入り口で、行く手に東埔温泉が広がっていた。

重い足を引きずり、肩に食い込むザックをゆすり上げて温泉までの舗装道路を登る。きょうは20㌔以上の山道を歩いたのだから無理もない。こうして4泊5日の山行は終了した。

雲龍の滝と八通関古道

温泉の宿は登山者用らしく、道路沿いの観光ホテルとちがって質素で、私たち以外に客はなかった。数日ぶりでゆっくりと温泉に浸かる。温泉といっても台湾では大浴場や露天風呂等はなく、普通のバスタブで入る。ただカランから出る湯が温泉と言うだけである。浴後のビールは格別に美味しかった。

夕食は町のレストランでとる。耶放もなく登山終了で全員で祝杯を上げる。土・日以外は客はないとのことで長々だけだった。

夜の町もみやげもの店がただ一軒開いていただけで、日本の温泉場とは全くちがい人影もなく静かであった。

翌日台北に走る。台湾の旅館は食事を出さないので、途中の水里の町で朝食をとる。中国の朝食はお粥がおいしい。そして副食の蒸類の多さにびっくり、中国人の食事に寄せる情熱は凄まじいばかりである。

台北では故宮博物館等お決まりの観光コースを回りホテルに入った。

今回の山行は台湾の名山を連続して三山登った。少しハードだったが、山の所在地の関係で、一山ずつでは又同じコースを歩くことになり、ガイドの提案もあって一気に三山ということになった。

私たち外国人は、規則の上からもガイドを必要とする。そのかわり主食・副食・鍋・コンロ・燃料等は全部ガイドが準備し、炊事もしてくれる。私たちは個人装備とマット・シュラフ・食器のみを持参した。

私としては道案内もあり、日本の山より楽であった。ただ外国のことなので事前の計画に日時がかかり、思い立った時にすぐという訳にはいかない。

※コースタイム※

巴奈伊克小屋（1時間20分）八通関小屋上（40分）鞍高平（3時間40分）乙女の滝（50分）雲龍の滝（1時間10分）東埔温泉

観光バスなら 確実第一の
太陽観光開発㈱へ!!

・小型（20人・24人）
・中型（28人乗り）
・中2階（45人乗り）
・大型（55人・60人）
いずれもサロンカーからデラックスまで
スキーバスもあります
〒578 東大阪市瓢箪山本町1−20 オカダビル4F
電話06(745)3911・FAX06(745)3983
(夜間・電話06(946)0816・FAX06(946)9044)

沿線ハイキングガイド

近鉄　京阪　阪急　南海　神鉄　山陽電鉄　叡電　京福
公開ハイク　歩け歩け大会　文学散歩　歴史散歩　その他

近鉄

▽読売ファミリーハイキング・奈良大和路の峠を歩く・第5回「鳴川峠・十三峠」　11月3日(雨天中止)集合生駒線東山駅前10時（コース）東山駅―鳴川峠―博覧・生駒縦走コース―十三峠―高安山レーダー―高安山駅（約12㌔）会費無料、参加自由、上本町事業06（775）3566

▽紅葉の吉野山キャンペーン「タイムトリップラリー―N吉野山」　11月3日(雨天中止)集合吉野線吉野駅前10時～12時（コース）受付で配布するラリー用紙と地図を頼りに吉野山を散策。チェックポイントで規定のスタンプを集めればゴール（桜木茶屋）にてステキなプレゼントを差し上げます。詳しくは駅に出るポスター、チラシをご覧ください。会費無料、参加自由、天王寺事業06（624）0382～3

▽文学散歩・豊臣家ゆかりの地をたずねて・秀吉の夢シリーズ③「秀吉栄華の夢のあと　その2」　11月4日(雨天中止)集合京都線向島駅前10時（コース）向島駅―向島城跡―巨椋池跡（太閤堤）―淀城跡―伏見御香宮―桃山在住陵駅（約12㌔）会費300円、参加自由、歴史関西大学教授高橋誠一氏、上本町事業06（775）3566

▽万歩ハイキング・南河内十ヵ国めぐり「第2回弘法大師ゆかりの地をたずねて」　11月10日(雨天中止)集合長野線河内長野駅9時30分（コース）汐ノ宮駅―観心寺―楠妙見―観心寺―延命寺―月輪寺―河内長野駅（約13㌔）会費無料、参加自由、天王寺事業06（624）0382～3

▽弁慶セブンマウンテン「駅近ケ岳登山」　11月10日(雨天中決行)、集合早朝出発コース、前夜9日(土)18時30分までに朝明ヒュッテ木館にお集りください。（コース）朝明ヒュッテ本館―陸軍の滝―松尾尾根の頭―釈迦ヶ岳―鎌岳―羽鳥峠―三交朝明ヒュッテバス停（約11㌔）、宿泊費3900円（1泊朝食弁当付）、参加費1000円、定員200名（電話申し込み制）、参加資格中学生以上70歳までの健脚な方、講演「鈴鹿の山の魅力」三重県山岳連盟会長山口政一氏、上本町事業06（775）3566名古屋事業0593（54）7007

▽万歩ハイキング・五畿地めぐりシリーズ「第2回田原街道―円成寺―等覚の道―帰りへの道―（馨多林・忍辱山）」　11月16日(雨天30日)出集合奈良線近鉄奈良駅東改札口9時30分（コース）近鉄奈良駅（バス）田原神社前―太安萬呂の墓―光仁天皇陵―（馨多林・忍辱山）―円成寺―忍辱山（バス）近鉄奈良駅（約10㌔）会費無料（バス代大人1130円こども590円は別途）参加自由、上本町事業06（775）3566

▽スペシャルイベント・雨にも負けず、風にも負けず今年もやります「第3回生駒・信貴パノラマハイク」　11月24日(雨天決行)集合「エキスパートコース」生駒駅前ケーブルのりば前8時～9時（一般向コース）生駒ケーブル線生駒山上駅前9時～10時（コース）ユキスパートコース・生駒駅―宝山寺―生駒山上駅―大阪府民の森「なるかわ割地」―ぼくらの広場―鳴川峠―十三峠―信貴山朝護孫子寺（約29㌔）一般向コース・左駒山上駅―（エキスパートコースと同じ）（約15㌔）、完歩者全員に踏破記念バッチをプレゼント、会費無料、参加自由、上本町事業06（775）3566

▽ウィークデーハイク・歴史街道花の道を行く（紅葉）「正暦寺から白毫寺」　12月5日(雨天中止)集合近鉄奈良駅改札前10時（コース）近鉄奈良駅（バス）八島町―崇道天皇陵―巨照寺―正暦寺―白毫寺―近鉄奈良駅（約14㌔）会費無料、（バス代大人280円こども140円は別途）参加自由、上本町事業06（775）3566

▽万歩ハイキング・五畿地めぐりシリーズ「最終回・峠巡り～滝坂の道」　12月8日(雨天14日)集合近鉄奈良駅改札前9時30分（コース）近鉄奈良駅（バス）忍辱山―円成寺―（大師堂）―首切地蔵―滝坂の道―ならまち―近鉄奈良駅（約12㌔）会費無料、（バス代大人560円こども280円は別途）参加自由、上本町事業06（775）3566

▽万歩ハイキング・南河内十ヵ国めぐり「第3回楠公ゆかりの地をたずねて」　12月15日(雨天中止)集合近鉄奈良駅改札前9時30分（コース）富田林駅（バス）水分―延水分神社―上赤阪城跡―楠十郎誕生地―下赤阪城跡―身方塚・寄手塚―自然休養村（バス）富田林駅（約9㌔）会費無料、（バス代560円は別途）参加自由、藤山千草赤坂村郷土史友の会、天王寺事業06（624）0382～3

▽近鉄ファミリーハイキング・新コース・紅葉の宝生を訪ねる「聖坂神社・宝生ダムコース」　12月16日(雨天中止)集合大阪線榛原駅前10時30分～11時（コース）榛原駅―聖坂神社―宝生ダム周遊―宝生口大野駅（約13㌔）会費無料、参加自由、名古屋事業0593（54）7007

京阪

▽スポニチファミリーハイク・観光沿線シリーズ「江文峠・鷹羽山」　11月24日(雨天中止)集合観山電車鷹羽駅10時（コース）鷹羽駅―滝上坂―滝原―江文峠―麦谷峠―鷹羽山―トドヶ池―観山電車八幡宮駅（約10・5㌔）鮎御所　京阪電鉄事業0806（944）2525

京福電車

▽京福ハイク・カルチャーウォーク「京福沿線の史跡めぐり・その2」　11月16日(雨天23日)集合京福電車四条大宮駅9時（コース）四条大宮駅（電車）―円辰寺―二尊院―清涼寺（豆腐の祖）―永明院（宗比紹大）―文徳天皇陵―五智山蓮華寺参加自由、京福電鉄管理課075（801）5315

阪急

▽第92回健脚とふれあいハイキング・ウォーキングトライ「淀川西北の山里を歩く」　11月3日(雨天中止)集合長岡天満宮駅（阪急長岡天神駅から徒歩3分）（中・上級）は9時30分～10時（初級）は10時～10時30分受付（コース）（初級）長岡天満宮―奥海印寺―浄土谷―長岡スケート場前―民代橋―若山神社（8㌔1時間40分）（中級）長岡天満宮―奥海印寺―立石橋―中ノ谷―峠―大沢―長谷―民代橋―若山神社（13㌔3時間10分）（上級）長岡天満宮―奥海印寺―立石橋―深谷川―八幡―魚住―民代橋―若山神社（18㌔6時間40分）参加自由

＊西阪の「京都西山」の地図を持参ください。阪急電鉄調査部06（373）5326

▽みじゅうしんゆっくり歩こうシリーズ⑥「紅葉美しい湯の町有馬へ」　11月17日(雨天中止)集合六甲ケーブル山上駅10時30分出発（コース）山上駅―ゴルフ場―みよし観音前―紅葉茶屋―紅葉谷―ローブウェイ有馬駅―有馬（7㌔）（一般向）参加自由、阪急創業調査部06（373）5326

▽キャラバンスペシャル「ガイドブック『阪急ハイキング』紹介シリーズ③コース54京都西北地めぐりコース」　12月6日(雨天中止)集合阪急嵐山駅10時30分出発（コース）嵐山駅―大覚寺大沢池―西芳寺―高雄谷池―御所ノ口バス停―白雲橋―沢ノ池―高雄町バス停（10・5㌔一般向）参加自由、阪急創業調査部06（373）5326

▽土曜ハイキングシリーズ「ロックガーデン・金鳳山コース」　12月14日(雨天中止)集合阪急宝塚線川西能勢口駅10時（コース）能勢口駅―高座の滝―ロックガーデン―（能勢谷）―金鳳山―保久良神社―岡本駅（約6㌔中級）参加自由、阪急創業調査部06（373）5326

神戸電鉄

▽東六甲の紅葉を賞でる「仏谷と高尾山紅葉狩りハイク」　11月10日(日)集合山上神社（神鉄六甲駅南西約2000㍍）10時20分（コース）神鉄六甲駅―山上神社―東山橋―逆瀬川駅―仏谷―高尾山―湯槽谷山―鼓が滝公園―有馬温泉駅（約10㌔徒歩同）神鉄観光事業部078（521）0321

▽北神の秘境を歩く「鳴川谷支流と黒甲越ハイク」　11月24日(日)集合JR新神戸駅一階広場10時（コース）JR新神戸駅―八多―鳴川谷支流―黒甲越―天下峠―大池駅（約15㌔徒歩同）神鉄観光事業部078（521）0321

山陽電車

▽山陽ハイキング「書写山・紅葉ハイク」　11月10日(日)集合山陽姫路駅（城北公園）10時30分（コース）神姫バス書写下車（八王子神社）―東坂参道―仁王門―書写山（円教寺）―西坂参道―神姫バス姫路駅（約8㌔家族同）山陽電車ハイキング係078（941）6915～6

▽山陽ハイキング「城山（滝山城跡）・市野山・鍋山ハイク」　11月24日(日)集合JR新神戸駅一階広場10時（コース）JR新神戸駅―滝山城跡―堂徳山―山章山―鉢山―鍋坂山―花隈駅（約10㌔一般同）山陽電車ハイキング係078（941）6915～6

▽山陽ハイキング「仁寿山ハイク」　12月8日(日)集合妻鹿駅（市立公民館前）10時（コース）市立妻鹿公民館―妻鹿城跡―市川左岸―仁寿山―お旅山―妻鹿駅（約10㌔徒歩同）山陽電車ハイキング係078（941）6915～6

▽山陽ハイキング「鹿嶋神社・生石神社ハイク」　12月22日(日)集合山陽曽根駅10時（コース）曽根天満宮―時光寺町―鹿嶋神社―生石神社―伊保駅（約11㌔家族同）山陽電車ハイキング係078（941）6915～6

奈良交通

▽万葉の大和路を歩く会「三笠山」　11月17日(日)集合近鉄大阪線大和高田駅9時30分（コース）竹内街道（聖徳太子廟）―当麻寺西門・犬養孝氏揮毫万葉歌碑―当麻寺―近鉄当麻寺駅（約6㌔。急坂難路同）難波神社医学院高校教諭山内英正氏、参加費は無料ですがテキスト代（400円）のほかバス代と拝観料などが必要＊参加申し込み制7日(月)までにハガキか電話で〒630奈良市大宮町1丁目1の25奈良交通「万葉の大和路を歩く会」宛0742（20）3100

▽万葉の大和路を歩く会。バスツアー「紀ノ川筋から潮満つ和歌の浦へ・歌碑めぐり」　12月15日(日)集合近鉄大阪線大和高田駅9時30分（コース）大和高田駅―まつち山万葉歌碑―橋本中学・大我野万葉歌碑―紀ノ川妹山背山万葉歌碑―和歌の浦妹山背山―玉津島神社万葉歌碑―黒江万葉歌碑―大阪難波へ、会費6800円（会員6100円、高校大学名誉教授犬養孝氏、＊参加申し込み制10日前までに往復ハガキで〒630奈良市大宮町1丁目1の25奈良交通「万葉の大和路を歩く会」宛0742（20）3100

□これ以外にも多数の催しがあります。各社の広報も見て下さい。

○新ハイ関西サービスチェーン

名称・二級登山　小白峰―大白峰―中子・時間への縦走路　1名でも絶対し駅・絶対同（電話予約）　雑大見だと内容

福島・二岐温泉　日観連　大和館
〒960-05
福島県福島市天神二岐温泉
電話　0246-44-2221
F　0246-44-2701

秩父鉄道　東武鉄道　クーポン券も利用できます

秩父　不動の湯
〒368
埼玉県秩父市山田24312
電話　0494-23-1126

富士登山・富士五湖
東海道自然歩道
（石割山・ハリモミ紅林）

三国山の麓　ペンション　コットンテール
〒401-05
山梨県南都留郡山中湖村平野
電話　0555-65-3515

大阪環状線の中板
から徒歩7分
JR中央線中板駅・地下鉄タクシー10分
バス20分巻山口下車徒歩3時間

山小屋　福ちゃん荘
〒649-4　山梨県東山市上野原2332
電話　0553-33-4633
（山小屋）　0530-14-1921-5

せせらぎ

題字・小林玻璃三

七夕豪雨の日、能勢路を歩いた。笹間から五月山―ときわ台―天台山―野間峠―妙見山―妙見口駅へ30㌔である。

ピリ辛に鮮やかな黄色い実を見たり、寺ではお百度を踏む人々に感動したり、40歳の頃九州の英彦山に登り、途中息切れして一人下山した苦い経験を思い出したりした。

5時から14時まで歩き通してヘバリもせず、後遺症もなく、山歩きを始めて一年半でかなりの脚力がついたものである。

この夏暑い熱力浴に努め、11月の六回山縦走（須磨―宝塚）56㌔ハイクに備えたいと思う。

（木村　昇）

盛夏は神崎川で渓流遊びをする。夏の山遊びは、なんちゃうたって沢歩きが一番なのだ。

夏は水流にうたれし冷や奴
緑水

なんだや、その句は。思ったままに詠むとこうなるのです。

7月28日、暑い日ナダレ落ちる水圧を受けて、滝壺から遡源に入り込み滝口に登ることができた。それは天狗ノ滝の底深なのだ、今年もできたョ。

鈴鹿の谷の代表は、神崎川の核心部にある天狗ノ滝だろう。落差は5～6㍍と低いが、狭まった落ち口からの水量は、海水の時でもなかなかの迫力がある。

昔のことを言うとなんだが、落ち口は今より3㍍程下った所にあった。右岸の青い岩壁の緑と同じくらいだと思う。だから言さるもうすこし高かったし、垂直に落下する水圧で滝壺のプールは円形の水深を持っていた。今よりずっと、ずっと深かったのだゾ。

白瀬谷の山合いで早昼を食べながら、メンバーに因果をふくめる。「パンツが濡れるのを覚悟すること。深いところは浮袋につかまって泳ぎきること」。「私できない、回り道があると言ったじゃない」と抗議がでるが、なんのかんの言っても行くしかないのだと脅らせ、胸まで浸かって廊下を渡る、泳ぐのも気持ちのいいことなのだ。

天狗ノ滝の下のS字廊下、一人は左岸をヘツリ二人は右岸を浸かって泳いで渡る。天狗の滝も沙利で埋まってしまったし、落ち口は上流へと浸食されていく。

右岸壁沿いに泳ぎ、頭から水流を受けて岩棚にはいあがるのだが、けっこうな緊張感がいる。滝壺に入るとメチャメチャの蜜岡のようで、息も苦しくなるほど。

昨年は水流がスダレのようになって落ち、裏には空間もあって、「ワチキは涼しいぞェ」と酒落ていたのに、岩の底が抜け落ちてしまった。

尾瀬　平ケ岳縦走とつりの山小屋
縦走三山口（会員定会員）
清四郎小屋
ほんものの手打そばと茶店は
樹海
〒946　新潟県魚沼郡湯之谷村大字蓬平
電　0257-79-2236
または　0257-79-2236
0257-79-2236
2-150226

滝をたっぷり流する温泉と
逆ケ峰牛のシャブシャブ
日本海の新鮮魚と山の幸
ハイカーの宿
ナガサキロッジ
〒949-21　新潟県中頸城郡
妙高高原町池の平温泉
電　0255-86-2261

高山の花、湿原の花
妙高山と火打山
百名山を二つ登れる山小屋
黒沢池ヒュッテ
〒949-21
新潟県中頸城郡妙高高原町
池の平温泉　ナガサキロッジ
電　0255-86-2261

海から昇る朝日と海に沈む夕日を眺め、山と海の両方が楽しめる。大佐渡縦走の起点。星と夜景に酔いながら語らいははずむ
国民宿舎　**大佐渡ロッジ**
1泊2食付き　7200円
〒952　新潟県佐渡市椎
電　0259-27-4570

まったのだろう、そんな余裕もなくなってしまった。

三人の女性淡滅パーティが来た。歓察してから滝上に回り込んでザイルを垂らす。僕に上がれのサインが届く、OK。笑顔に引かれて行った。ザックが水圧を酷く受けて、ザイルでの引き上げは助かった。アンガトさん。かっこいい蜘サマたちだった。

次は七丈滝。大きなプールと二条のナメリ滝を持っている。ナメリ滝を滑ってドボンするうちに、だんだんおうちゃくになって、滑る高さも長くなる、慣れるということは脱線することなのか。

水きわの岩盤はちょうどいいのフリーハンドクライミングの練習場、持ちこたえられなければ落ちても水のクッションが嬉しい。

ヒロ沢の出合いで終わりとする。ここまで4時間の水との戯れ、今回はこれまで。ゆっくりと昼寝してからハト峡谷に戻った。

（笹井　克彦）

7月26日、私たちはTさんの写真を持って鳥海山に登った。

Tさんは昨夏、ご主人と鳥海山登山を計画されたが、直前に体調が悪化。それでは来年に、その時は私たちもご一緒にと約束していた。しかし、11月、突然のくも膜下出血。思いもかけず遠い国へ旅立たれた。

この日、Tさんのご主人と私たち三人は鉾立を早朝に出発した。賽の河原あたりから広い雪渓にガスが出て、何度も立往生。千蛇谷から大物忌神社に着き、背後の大岩を縫うように登りくだりして、ようやく正午前、新山尾上に立つことができた。

白い小さな星を花束にしたようなチョウカイフスマが岩陰にゆれ、視線はんの一瞬、雪を浮かべた遥い鳥海湖が幻のように見えた。

（青木　美津子）

御池岳にある滝は近藤節夫氏と小生とで確認した滝を合わせると23ヶ所になります。ヌタ場のようなものも含めてありますが、ここ数年の探索の結果からその多くの池で淡水性の真蛭が生息しているのが判明してきました。

96年7月現在、草原池・鏡池・風池・山東池・上池・北池を除く17の池で確認できています。

蛭の大きさは2㎝から6㎝で、御池岳の蛭は正確にはマメジミという種類であることは分かっていますが、その種も20種類ほどに分類できるようで、どの種類なのかはまだ分かっておりません。

17の池の蛭の全てが同じ種類かも分かっていませんが、蛭が生息しているということは水がなかなか涸れない証明になります。

これだけ小さい貝なので研究者もほとんどいないらしく、図鑑にも見当たりません。発見したからには小生らでもっと調査し、確認したほうがよいのでしょうか？

御池岳以外にも鈴鹿には多くの池がありますので、それらの池にも蛭が生息している可能性があります。三池岳のお箱池・羽鳥峠湿原の池・さらに雨乞岳の山頂の池、そして最近霊仙山のお虎ヶ池と、5月11日に小生が発見した新池（経塚池）においては蛭の生息をすでに確認しました。

なぜこのような山の中の小さな水溜まりに生息しているのでしょうか？　どこから来たのでしょうか？　推測ですが、山ができる前からの住人であった可能性が高いのではないでしょうか。

謎はますます深まるばかりですが、少しずつ調べていきましょう。

（山田　明男）

8月初め、旧知のY氏（東京在住）と信州で落ち合って霧ヶ峰ハイキングを行う。前日に車で塩尻駅まで迎えに来てもらい、その夜は奥蓼科温泉の渋長野館に宿泊。「信玄の源泉」で疲れを癒した。

翌日、ビーナスラインを走って車山肩に車を駐め、霧ヶ峰最高峰の車山（1925㍍）に登る。そして、いったん急降下してから夫婦岩→蝶々深山→物見岩→八島湿原→霧ヶ峰往復→旧御射山遺跡→沢渡→車山肩と霧ヶ峰を一周する。

ニッコウキスゲがいたるところで満開、秀麗なシャクナゲ（蓼科単士）とよくマッチしていたし、車山湿原でも華麗なシモツケソウの群落が見られた。この後、和田峠までビーナスラインを辿ったので、帰阪後、新田次郎の『霧の子孫たち』や『霧ヶ峰物語』が実感をもって読み返せた。

三日目は、出発で美ヶ原（うしろ）を散策する。まず美ヶ原溶岩台地の最先端王ヶ鼻（2008㍍）にて、ざっくりと松本平に切れ落ちた絶壁を眺め、槍・穂高や北アルプスの景観を楽しんだ後、三ヶ頭→扇くれ場→美しの塔→牛伏山と歩いて美ヶ原温泉美術館へくだり、たくさんの野外展示の彫刻を楽しんだ。

最後の日は蓼科山に挑戦する。七合目登山口から標高差630㍍の、極度に荒れた岩塊のひしめく急坂を、ひたすら登って頂上（2530㍍）に到着した時は、さすがに嬉しかった。直径100㍍程の広さの頂上は、ブロックメール（溶岩の海）で歩きにくく、疲れきった身体では舞台での演劇役者のように、よろめき歩く以外になかった。しかし、真の三角点で記八ヶ岳（縞岳）に感動し、記念写真を撮り、中央の蓼科神社奥宮では長寿を願をあげ、西の展望盤では白樺湖や女ノ神湖を眺望することが、かろうじてできた。

深田久弥氏は、『日本百名山』に美ヶ原・霧ヶ峰・蓼科山を取り上げている。帰宅後はそれらを読み返したり、NHKの百名山ビデオを見たりして、信州ハイキングの余韻を楽しんだ。

（東谷　宏）

8月3日～6日、北ア・後立山連峰縦走の例会に参加。

青い空。清々しい大気。険しい岩稜歩き。心を和ませてくれる花たち。チシマギキョウ・トウヤクリンドの等々。

正面に立山・剱。やや左奥に槍の穂先、遠くに南アルプス・八ヶ岳・富士山。お天気よし。お仲間の笑顔。すばらしかった。人と自然の恵みに感謝。

「早くもせかるる次の山」

（山科　邦彦）

平成8年8月8日8時8分に888㍍の山に登りたいと、妙なことを思いつき、地図とのにらめっこが始まった。見つけた時には、探せばあるものだと喜んだが、3万5千分の1地形図を買って調べると、20㍍足りない。このほかに該当する山は見あたらないし、諦めきれず考えたことが、恐らくと言おうかばからしいと言おうか、20㍍の台を持参してむりやり888㍍にしてしまおう、それしかないと勝手に納得。

休館夏食入浴も歓迎
10名以上マイクロバスで送迎
箱根仙石原温泉
福島館
〒250-06 神奈川県足柄下郡箱根町仙石原1-13
電 0460-4-5041

四季織りなす渓谷・高原のハイク
上高地・乗鞍岳へ　冬はスキー
けやき澤りと味の宿・日帰温
温泉旅館　けやき山荘
〒390-15
長野県西安曇郡安曇村奥穂高岳
電 0263-93-2555

さわやか信州
霧ヶ風呂　山歌の湯
湯田中温泉（渋温）
日野屋旅館
〒381-04 長野県下高井郡山ノ内町湯田中温泉郷渋
電 02269-33-3578

標高2000m岳上の温泉
湯の丸高峰自然休養林
ハイキングにXCスキー
高峰温泉
〒384
長野県小諸市高峰高原
電 02267-25-2000

日本最高位の温泉（2400㍍）
立山・室堂平
みくりが池温泉
連絡先 〒930-14
富山県上新川郡大山町芦峅寺83-47
電 0764-82-1831
4/9-11/25は現地へ
電 0764-55-4595

ハイキングに！　スキーに！
志賀高原　石の湯ロッジ
バス　熊の湯経由平穏下車
宿 0269-34-2321
東京本社・東京都新宿区新宿3-30-5（新宿第2ビル）
（㈱スポーツサービス）
電 03-3341-0211

塩の道　千国街道
百八十七休「観音原」
ホテル
白馬ブランシェ
〒399-83
長野県北安曇郡白馬村いわたけ
電 0261-72-4452

館内より日本アルプス眺望
以上七、北アの雪解風、北アの全体の大眺望の湯、春は山菜等
民宿蓼科・蕎麦懐石
あるぷすいん　満山荘
〒382　長野県上高井郡
長野市村山田牧場・栗山田温泉
電 0262-42-2527

こんなにしてまでして登ったのは香住町の三川山。ベテランS氏と登る。

登山口は日本三大桂坂の一つ三川峠我社の奥で、しばらくは夏草の茂る中を歩くが、すぐに登山道らしくなってくる。と同時に急坂が続き、無風のせいもあり全身から汗が吹きだす。これでもかこれでもかと長い急坂に、シャクナゲやブナの樹木をゆっくり見る余裕すらない。おまけに100㍍毎にある「後何㍍」の標識が恨めしい。時間までに着けるだろうか、S氏におくれないだろうかと心配になってくる。なんとか予定時間で三角点に到着した時は、本当にホッとした。さっそく20㍍の上げ底踏み台をセットし、記念写真を撮ってビールで乾杯！

十分に休憩後、奥の院へ下山にかかるが、くだりも急坂で木につかまりながらひたすらくだる。またも汗ダクだ。両側のシャクナゲの木の見事なこと。花の時期にぜひもう一度登りたいと思った。やっと佐津川におり着いて、冷たい水で顔を洗い汗を拭いて、至福の時を満喫する。ふと前方の岩壁に目をやると、ピンクの可愛い花が目に止まった。ちょうど花期を迎えたイワタバコ、疲れも吹っとんで、さっそくカメラに収めた。足取りも軽く？　出発点に帰り着き、楽しい記念山行を終えた。

さて来年、3年9月9日はどうするかな？　しょうこりもなくバカなことを考えている。

（熊田　千夜子）

6月山行報告

2日　Ⅲ会鉢山Ⅱ（2万5千「御所」）再訪。概ね晴れ。

3～4日　『やまと地形図の会』例会。和佐又山ヒュッテ泊にて、笙の滝を経、鉄梯子を登り、Ⅲ会鷲嶽（同「弥山」）へ。参加31名。

5日　『大和漫歩会』例会。東大台（牛石ヶ原～正木ヶ原～Ⅰ会大台ヶ原山（同「大台ヶ原山」））散策。小雨にて大蛇嵩割愛。25名。

18日　『点のつどい』例会。Ⅱ会赤滝（同「宿川」）。旧小南峠をくだる。漏川温泉で汗を流す。27名。

24日　『関西地図の会』例会。西大台案内。経ヶ峰西～ワサビ谷～展望台（ガス晴れて大蛇嵩よく見える）～国栖～大台教会～駐車場。参加36名。

（上田　伸弘）

秋の味覚と言えば松茸が一番であろう。最近、これを口にすることがとんと少なくなり、口にしても外国産とかで――。

近畿以西では、里山近くの松林で多く採していたのが、最近ピというわけかめっきり頭を出してくれず、豊家では残念がっている。

ここ10年程の市場への入荷量を調べてみると、天候人為等を考慮しても激減している。ちなみに一昨年のかんぱつでは、前年の10分の1に減っている。また単価も10年前の二倍近く、1キログラム当り平均五万円にもなり、ますます我々の口から遠のくのである。

私にはどうしても松茸と言う御仁に、「救世主」として登場願ったのが外国産で、当初、味が悪い、香りが無い、と文句たらたら言っていたのが、いつのころからか、香りもそこそこだし、味も悪くない（1キログラム当り平均一万円前後）と変わったのは、これひとえに価格が手頃なせいかと考えている。

こんなケチなことを考えながら口にする松茸は、どんな味がするのだろう。

（須磨岡　誠）

春・秋　小グループ
白馬の自然案内します
白馬ファミリーペンション
和　田　森
〒399-93　長野県北安曇郡白馬村八方和田野
電　0261-72-5355

春山歴20年のオーナーが雪倉～朴の木岳、雨飾山～火打山などへご案内します。
テントキーパー
1泊2食付き　6500円から
〒399-93
長野県北安曇郡白馬村おちくら
電　0261-72-2451

八ヶ岳南北縦走の中心地
59年秋新増築完成全館個室
木の香もう新谷空撃生木豊富
オーレン小屋
1泊2食付き　6000円
4月末～11月末開設
〒635-02　長野市豊野町
電　02266-72-2220　小平勇夫
北八ヶ岳の登山基地、冬はスキー
JR茅野駅・北八ッ岳登山口まで送迎します
茅野市西原
プチホテル　カナール
〒391-03
茅野市北山蓼科高原笹丸平55
13の1
電　0266-67-2258

会社での話題が非常勤朝に変わって山に行く時間が増えた。今年の夏は「八甲田山～岩木山」「北岳～塩見岳」「朝日連峰縦走」「奥穂高岳」「大菩薩峠～小金沢連嶺」と歩き回ったため、さすがに物分かりのいいカミさんもあまり機嫌がよくない。ところで山小屋泊まりで気になるのがビールの値段。レギュラー缶で比較すると、軽井沢で550円が白馬のコルで580円と値段が違う。600㍍の高度差が生みだす販買効用価値の差という訳か。南アルプスでは500円から700円とマチマチ。明日連峰では何と800円という値段を見た（さすがにバカバカしくなって手が出なかった）。ザックの中身で最も重いものは液体。缶ビールを持って夏の暑さの中の急坂を登ることを考えれば、多少高くとも山小屋にビールがあることはありがたい。値段の違いは“談合”から“多様化”の時代を迎えたということだろうか。

（塚元　一彦）

京都北山の雲取山へは種々のポピュラールートがあるが、今回は国体コースを登り、竹次谷を下降する静かなコースをたどってみた。

周山から京北町営バス（日・祝運休）で茂屋口下車。橋を渡った地図上の「上黒田」集落から小沢沿いに登り始め、608㍍峠のやや北西の尾根上へ登り着く。尾根筋はテープの印等があり、歩きやすい道である。829㍍峠を過ぎ900㍍圏へ急登すると徒やぶが出てくる。

地図と足許感覚とビニール紐で確認しながら慎重に進む。雲取峠手前でちょっとした展望があってからの数分が気分的に長く感じられた。徒のやぶ等約1時間でポッと明るい雲取峠の広場へ飛び出し、ホッと一安心。（茂屋口から雲取峠までは休憩を含む3時間30分。逆コースは30号の山行報告参照）。

下山はケ次谷をくだる。京都府立大の小屋の横を過ぎて沢か道か区別のつかない流れに沿った道を進む。このルートは廃道寸前で踏み跡が部分的に残るだけ。歩きやすい所を選んでくだる。峠から1時間で650㍍付近の林道のヘアピンカーブ部分に出る。あとはたんたんとした林道歩きで茂屋口バス停へ戻る。このコースの逆コースは、入り口が判りにくく難しいと思われる。

雲取山はこの他にも北に派生して大布施に至る尾根（13ページ参照）も歩け（上部は荒やぶ、なかなかたのしめる山である。

（篠原　英朗）

9月号の「せせらぎ」欄で懐かしい名前が出てきました。森本次男先生です。私が山を始めた頃、先生の著書『京都北山と丹波高原』を参考にしてよく歩きました。

のちに先生には、その頃仲間でつくった山の会の顧問になっていただき、一緒に京都北山を歩いたり、会報『緑山』の右に親しんだりしたこと。また、「この歳になると女の子とのんびり歩くほうがいいよ」とおっしゃったことも覚えており、それを実行されておられました。

その当時の関西の山岳雑誌「登山」に「木曽路の峠」、他にも「山のいで湯巡り」が記載されていたことを思い出しました。

（内田　嘉弘）

日本一の女人禁制の山「大峯山」（百名山）の登山口
稲村ヶ岳女人コースもあり
温泉・名水の宝
旅館　紀の国屋荘八
1泊2食付　7,000円から
〒638-04
奈良県吉野郡大淀村宿川
電　07476-4-0309

九州の最高峰・日本百名山
宮之浦岳に一番近い宿
屋久島宮之浦登山口
屋久島グリーンホテル
〒891-43
鹿児島県熊毛郡屋久町安房
電　09974-6-3021

ハイキング・キャンプに！
鈴鹿国定公園
明明渓谷　あさけ茶屋
〒510-112
三重県三重郡菰野町千草
電　0593-93-1789

○「せせらぎ」欄は自由投稿です。最新の情報をお寄せください。山行の思い出や感想など。一行15字詰め・20行程度にお書きください。

新ハイキング関西編集室

山行計画

（11・12月）

新ハイキングクラブ関西

このページの山行計画には、「会員に限る」と特記してあるほかは会員外の方でも参加できます。一人ずつ往復ハガキに記入例によって出発の7日前までに到着するように係あて申し込んでください。「費用」のほかに参加者代その他の資料代実費を頂くことがあります。

山行申し込み後参加できなくなった場合は急いで係に連絡してください。体調の悪い方、幼児と飛び入りはお断わりします。

例会の参加者全員に傷害保険がかけられています。出発点呼の際、係に保険料（日額50円、夜行日帰りの場合は2日になり100円）を支出して頂きます。（スキー山保険会社と契約）

傷害保険特約内容は次の通りです。

死亡・後遺障害保険金額　1000万円

入院保険金　日額　5000円

通院保険金　日額　2500円

保険の対象は集合時から解散時まで。事故があった場合は解散までに係に申し出て下さい。この保険に該当しないものは次の通りです。①ニッケル・6本爪以上のアイゼン・ザイル・ハンマー・ワカンを持参することを明記した山行　②スキー使用の山行　③沢・谷・氷雪登はんを目的とした山行　④宿泊場所内の事故（詳細は係まで）

（記入例）

（往復ハガキを使用）

山行申込み書

山行名

期日

住所 〒

電話番号

氏名

会員番号

（会員でない方は会員外と記入）

生年月日

緊急時の連絡先

返信ハガキの宛て名欄にご自分の住所氏名を記入してください。

木曽・南木曽岳（一般向き）

期　日　11月3日(日)　日帰り

集　合　JR中央線南木曽駅前8時50分

コース　南木曽駅（タクシー）登山口—かぶとね—山頂—分岐—見晴台—登山口（タクシー）南木曽駅

費　用　約1000円（タクシー代・保険代）

地　図　2万5千＝南木曽岳・兀岳

係　◎菅原孝康

申込み　〒504岐阜県各務原市蘇原柱南町1の19の5　菅原孝康まで

御岳・木曽駒ヶ岳とともに木曽三岳の一つとして古来の信仰になった山。コシヤマキの原生林と御岳・木曽駒ヶ岳の眺望がすばらしい。小雨決行

平日木曽ハイク27

江若国境・百里ヶ岳（中級向き）

期　日　11月7日(水)　日帰り

集　合　JR京都駅7時37分発湖西線堅田駅で下車

コース　安曇川駅（バス）小入谷越—百里駐新道—シチクレ峠—百里ヶ岳（木地山峠往復）—根来坂—焼畑地域—小入谷越（バス）安曇川駅（解散18時頃）

費　用　約3000円（バス代・保険代）

地　図　2万5千＝古屋

係　◎岡中　敏

申込み　〒610—01城陽市寺田大岸10の10　新ハイキング関西まで

百里ヶ岳は近江・若狭双方から名山と仰がれている。朝山道要衝の根来坂は、信長や家康が突破した武士たちの夢の跡。華麗な黄葉に間に合うでしょうか。小雨決行

大峰・白屋岳（一般向き）

期　日　11月10日(日)　日帰り

集　合　近鉄吉野線大和上市駅9時20分

コース　大和上市駅（タクシー）高原土場—白屋—白屋辻—白屋岳—弥ノ郷林道出合—武木集落—武木バス停（バス）大和上市駅

費　用　約3000円（交通費）

地　図　2万5千＝河川・新宇

係　◎福本勇作

申込み　〒545大阪市阿倍野区西田辺町1の1の7　福本まで

定員20名（会員に限る）

標高1177mの鋸峰、山頂からは木の間越しに高山脈と大峰の北部の山々が望まれます。雨天中止

鈴鹿を歩く17

奥ノ畑谷から雨乞岳（健脚向き）

期　日　11月10日(日)　日帰り

集　合　フジキリ谷の山林道入口5時30分

コース　フジキリ谷林道—千草越—奥ノ畑谷—座禅乞岳—雨乞岳—西尾根—奥ノ畑谷—フジキリ谷林道

費　用　保険代50円（交通費各自）

地　図　昭文社＝「45御在所・鎌ヶ岳」

係　◎岩野　明　○山本久雄

申込み　〒610—01城陽市寺田大岸10の10　新ハイキング関西まで

＊マイカー山行に限る

奥ノ畑谷の紅葉から雨乞岳・雨乞岳と登り、西尾根をくだる。ササやぶあり（22号・46・48ページ参照）。雨天中止

北摂・妙見山（初級向き）

（関西地図の会会員）

期　日　11月10日(日)　日帰り

集　合　能勢電鉄妙見線妙見口駅10時30分

コース　妙見口駅—初谷—塚原—林道出合—妙見山—上杉尾根—妙見口駅（解散16時頃）

費　用　約2000円（大阪から）

地　図　2万5千＝妙見山・広根

係　◎村田智彦

申込み　〒610—01城陽市寺田大岸10の10　村田まで

自然林に囲まれた信仰の妙見山を歩きます。歩きやすいコースです。雨天中止

地図読み山行18

醍醐・牛尾観音から千頭岳（一般向き）

期　日　11月17日(日)　日帰り

集　合　京阪（京津線）四宮駅前8時40分

コース　四宮駅—小山—牛尾観音—東海自然歩道分岐—東千頭岳—西千頭岳—高塚山—三宝院

費　用　約1300円（大阪から）

地　図　2万5千＝京都東南部

係　◎塚元一彦　○中村　登

申込み　〒536大阪市城東区関目4の14の9の901　塚元まで

定員30名

＊11月10日までに

京都東山の紅葉を訪ねながら歩く。西千頭岳からの展望は抜群。地形図の勉強に役立つ山です。シルバ社製コンパスと指定の地形図持参のこと。雨天中止

丹生山系・鳴川谷（一般向き）

期　日　11月17日(日)　日帰り

集　合　JR福知山線三田駅バスのりば9時30分（神戸市鉄利用の人は神鉄新開地駅改札前8時40分）

コース　JR三田駅（バス）屏風辻バス停—鳴川谷第1—志々連出合—村田—船尾合流—山口—神鉄貴谷駅（解散）（バス）三田駅

費　用　約2500円（大阪から）

地　図　2万5千＝有馬

係　◎今津省司　○井上　保

申込み　〒610—01城陽市寺

山行計画の実施について

当会の山行計画は保険を掛けたり、登山届けを提出しますので、実施日の7日前までに規定通り、往復ハガキで申し込んで下さい。人数により前もって、バスなどをチャーターする必要もあります。また山ではいかなる事態が発生するかも。緊急連絡先など、山行申込みハガキに記載すべき事項は必ず全てご記入下さい。

申し込みの返信は案内の細目が決まり次第、遅くとも10日前までにはします。早くから申し込まれた方はしばらくお待ち下さい。

定員のある計画は先着順（推薦の場合もあり）で受付けています。

山行計画欄に記載してあるグレードは、常日頃山歩きに親しんでおられることを前提にしています。

（初級向）どなたでも歩けます

（一般向）ハイキングの標準コース

（中級向）かなり経験のいるコース

（やや健脚向）（健脚向）は、危険な所があり、キツイ登りや、下りが長く続くコースと、ご理解下さい。

田大畔10の10　新ハイキング関西まで

晩秋の帝川谷を歩きます。神戸では最後の秘境といわれているコースです。小雨決行

若狭・雲谷山　（一般向き）

期　日　11月23日(祝)　日帰り

集　合　JR東海道線大阪駅発6時32分・京都駅発7時12分の長浜行きに乗車

コース　敦賀駅（電車）長浜駅（電車）三方駅－三方石観音－第一展望台－第二展望台－雲谷山（往復コース）三方駅（電車）敦賀駅（電車）長浜駅（電車）京都駅18時44分着・大阪駅19時14分着

費　用　約5000円（交通費）

地　図　2万5千＝三方

係　◎村田智俊　○真氏裕美　○山高義治

申込み　〒610－01城陽市寺田大畔10の10　村田まで

各展望台から日本海や三方五湖を眼下に見ながら登ります。小雨決行

一足早い忘年会山行
雄鹿山塊と日生鹿久居島

（一般向き）

期　日　11月23日(祝)～24日(日)　1泊2日

集　合　JR姫路駅の番ホーム10時（10時06分発赤穂回り岡山行きに乗車）

コース　（23日）姫路駅（電車）坂越駅－雄鹿台－赤穂－JR赤穂駅（電車）日生駅－日生漁港（船）頭島（泊）

（24日）頭島（船）鹿久居島－最高峰－乗船場（船）日生港－日生駅（電車）姫路駅（解散17時頃）

費　用　約11000円（船代・宿泊代）日生までの費用は各自で

地　図　5万＝播州赤穂

宿　泊　民宿「鶴丸」

係　◎須藤隆　組○井上　保

申込み　〒610－01城陽市寺田大畔10の10　新ハイキング関西まで

定員25名

瀬戸内の秋、島の秋、海の幸を満喫しましょう。雨天決行

鈴鹿を歩く18
太尾の稜線を歩く

（一般向き）

期　日　11月24日(日)　日帰り

集　合　茶屋川林道・近戸トンネル手前廃野のヘリポート9時

コース　太尾西四等三角点－太尾長池－P770m－白谷峠－白谷廃屋－茶屋川林道－ヘリポート

費　用　保険代500円（交通費各自）

地　図　昭文社「44亀山・伊吹・鈴鹿」

係　◎岩野　明　○山本久雄

申込み　〒610－01城陽市寺田大畔10の10　新ハイキング関西まで

＊マイカー山行に限る

鈴鹿を代表するすばらしい樹林が続く太尾と又川谷を歩く。雨天中止

播州・西光寺山と清水寺

（一般向き）

期　日　12月1日(日)　日帰り

集　合　JR新大阪駅正面口観光バスのりば8時

コース　新大阪駅（バス）西光寺登山口－御寺塔－山頂－秋道終点－本荘（バス）清水寺登山口－清水寺－登山口（バス）新大阪

費　用　約4200円（交通費）

地　図　2万5千＝谷川

◎井上　保

係

申込み　〒674明石市大久保町西島3の1・20の104　井上まで

定員24名

信仰の山ゆえにゴミ一つ落ちていない清らかな山です。バスの便が悪く観光バスを使用します。雨天決行

南勢・南赤山

（一般向き）

期　日　12月1日(日)　日帰り

集　合　国道42号線・端原神宮駐車場9時

コース　伊勢自動車道・勢和多気インター－滝原神宮駐車場－大内山村－森林パーク公園－東屋－南赤山－森林パーク公園

費　用　100円（含・保険代）

地　図　5万＝長島

係　◎尾崎英五　○稲垣逸夫

申込み　〒519－03鈴鹿市大久保町2065稲垣まで

＊マイカー山行に限る

もしかしたら帰りに、半乳風呂に入るかも。雨天決行

平日木曜ハイク23
焼杉山から金毘羅山

（一般向き）

期　日　12月5日(木)　日帰り

集　合　京都地下鉄北大路駅②出入口東（郵便局の前）京都バスのりば8時40分

コース　北大路駅（バス）古知谷－焼杉山－天ヶ岳分岐－翠嶺山－金毘羅山－江文峠－江文神社－戸寺（解散15時頃）

費　用　約2000円（バス代・保険代）

地　図　昭文社－「42京都北山」

係　◎前中　敏

申込み　〒610－01城陽市寺田大畔10の10　新ハイキング関西まで

初冬の大原西尾根を訪ね、三角点峰二座を踏破する。雨天中止

平日水曜ハイク6
中山連山縦走

（初級向き）

期　日　12月11日(水)　日帰り

集　合　阪急嵐山線山本駅9時30分

コース　山本駅－最明寺滝－満願寺山－中山墓地峰－阪急西京極駅－中山寺奥の院－夫婦岩公園－中山寺－阪急中山寺駅（解散）

費　用　保険代50円（交通費各自）

地　図　昭文社－「50北摂の山々」

係　◎湯浅次男　○前田　昇

申込み　〒610－01城陽市寺田大畔10の10　新ハイキング関西まで

登りはじめの岩場は少し急です。頂上もあります。尾根筋からは展望の良い縦走が楽しめます。下山後忘年会を企画しております（会費約3000円）参加は自由です。はがきに忘年会参加と記入してください。小雨決行

播磨・菅ヶ丘

（初級向き）

期　日　12月15日(日)　日帰り

集　合　JR石山駅前帝産湖南交通バスのりば8時

コース　石山駅（バス）信楽駅－南新田－東登山道－菅ヶ岳－西登山道－南新田－信楽駅（バス）石山駅

費　用　約3000円（バス代）

地　図　5万＝水口

係　◎村田智俊　○上村　操

申込み　〒610－01城陽市寺田大畔10の10　村田まで

陶器のふるさと信楽の山へ登ります。多少の急登ありますが、往復3時間のコースです。小雨決行

文学歴史散歩33
上町台地・夕陽丘を訪ねて

（一般向き）

期　日　12月15日(日)　日帰り

集　合　JR環状線森ノ宮駅改札口前9時

コース　森ノ宮駅－難波宮跡－円珠庵－井原西鶴墓－生国魂神社－源聖寺坂－銀山寺－寺田屋敷－鳳林寺－太平寺－寄稿軒－浄春寺－口縄坂－家隆塚－勝鬘院－大江神社－浮瀬月跡－新清水寺－四天王寺－夷

申込み－JR天王寺駅

費　用　保険代50円（交通費各自）

地　図　1万＝大阪城・天王寺

係　◎松永憲一

申込み　〒580松原市阿保2の2の22　松永まで

近代建築の一隅にひっそりとたたずみ、あるいは思いがけない静かな街角に残るなど、新しい発見に興味をそそられます（会誌56ページ参照）。雨天中止

飛騨・下呂御前山

（初級向き）

期　日　12月15日(日)　日帰り

集　合　JR高山線下呂駅前9時

コース　下呂駅（タクシー）登山口－お助け水－8合目－山頂－8合目－お助け水－登山口（タクシー）下呂駅

費　用　約1600円（タクシー・保険代）

地　図　2万5千＝宮地・湯屋

係　◎雪見学園

申込み　〒504岐阜県各務原市蘇原村前町1の19の5　雪見まで

「下呂温泉の北東約4・5kmに位置する山。山頂からの眺望は見事で御岳、乗鞍、穂高連峰、白山などが見える。小雨決行

鈴鹿を歩く19
綿向山南尾根から
P992とのブナ林

（やや健脚向き）

期　日　12月22日(日)　日帰り

集　合　477号線・白倉谷林道分岐8時30分

コース　白倉谷林道（車）大菊ヶ谷林道－綿向山南尾根－P815m－P992

ドブナの木平－南尾根－大菊ヶ谷林道
費　用　保険代50円（交通費自己）
地　図　昭文社＝「45御在所・鎌ヶ岳」
係　◎吉野　明　○山本久雄
申込み　〒610－01城陽市寺田大峰10の10　新ハイキング関西まで
＊マイカー山行に限る
秘境の綾岡山南尾根を登り、ブナの木平でゆっくりと昼食忘年会をします（27号・51ページ参照）。雨天中止

金剛・葛城岳からダンボ山（一般向き）
期　日　12月22日(日)　日帰り
集　合　南海高野線千早口駅前8時40分（鶴橋発8時00分）
コース　千早口駅－葛尾岳－葛城山三差路－十字峠－ダンボ山－杉尾峠－不動山の巨石－小峰台バス停－南海林間田園都市駅（解散16時30分頃）
費　用　約1600円（交通費）
地　図　昭文社＝「53金剛山・岩湧山」
係　◎奥村誠治

申込み　〒648堺本市城山台2の39の7　奥村まで
定員25名
金剛の峠越えの道を歩きます。「百低景－00選」に選ばれた杉尾・不動山の巨石で一年を締めくくります。小雨決行

京都北山歩き47
ホサビ山から平屋峠（中級向き）
期　日　12月23日(祝)　日帰り
集　合　京都駅八条口近鉄改札口付近8時
コース　京都駅（バス）安曇－野添谷林道－鉄塔－ホサビ山－平屋峠－屋根道－安曇（バス）京都駅（解散18時頃）
費　用　約3000円（交通費）
地　図　昭文社＝「48京都北山2」
係　◎中西信行　○村田智俊
申込み　〒610－01城陽市寺田大峰10の10　村田まで
初冬の北山を落ち葉を踏みしめて歩きましょう。多少登りがやや厳しくあります。小雨決行

山行報告
（7・8月）
新ハイキングクラブ関西

水木林道からイハイガ岳・向山（鈴鹿を歩く9）
7月7日(日)　霧雨から曇り
奥の平9・05－竜王尾根9・30－トラバース分岐10・00－草原尾根10・35－イハイガ岳11・05－登り谷ガレ場11・30（昼食）12・15－向山ヌタ場12・35－イハイガ岳13・30－竜王尾根14・55－奥の平15・45（解散）
霧雨のガスの中、樹林は薄暗く幻想的な世界だった。けもの道をたどり広い道に出ると強風でカヤ原は波打っていた。昼すぎには展望が開け、登り谷の大ガレと周囲の山々が望めた。滑ったり転んだりの楽しんだこの山歩きを楽しんだ。
（参加者）奥田貞雄　谷　久雄　大石捷夫　池田繁美　池田繁美　飯田　昇　高木忠夫　本蔦孟夫　吉原　務　三木民子　鈴木　雨　高橋　寛　則定修夫　◎吉野　明（計14名）

大峰・五色峰から天川温泉
7月11日(水)　晴れ
近鉄下市口駅9・05（集合）9・15（バス）川合10・20－五色峰登山口10・50－途中12・10（昼食）12・50－五色峰13・00－林道13・40－天川温泉14・00（休憩・入浴）15・30（バス）下市口駅16・50（解散）
数年前に取りついた山道は途中で途切れていた。山頂への直登コースではお互い心臓が飛び出す思い。下山まで3時間足らずであったが眺望は最高だった。温泉で汗を流し、大瓶間でのむビールも格別だった。
（参加者）小林敬男　前田敬雄　今西光男　奥田貞雄　上田五子　西田一夫　永貞剛一　永貞真砂子　松井徳永　高岡信男　砂原市美子　西上利和　三浦弘幸　平川日聖子　中村和子　北川美保子　○岡山真介　◎福本勇作（計18名）

葛城越・井関越（関西山越の古道を歩く3）
7月14日(日)　晴れ
南海学子駅9・20（集合）9・45－高仙寺10・00～05－飯盛山12・00（昼食）13・00－札立山14・10－大峰山15・30～40－井関峠16・00－名水湧き水場15・20～30－JR六十谷駅17・40（解散）
約20キロのアップダウンコースは厳しい中でほんと長く感じた。でも終始木陰の中で気持ちよい井関峠越だった。最後の水場で生き返った。（小きた庶の会名簿）
（参加者）高木　晋　吉川裕子　河井義子　小林博子　田中かね子　小林　桂　岡原定夫　松田好市　松田博子　大鍋雅御　橋本喜久夫　吳北裕美　田中博幸　岩本いすゞ　杉村安代　熊木秀雄　川端恵美子　○村田智俊　◎寺山栄男（計19名）

北アルプス・燕岳
7月19日(金)～21日(日)
2泊3日（車中一泊）
（19日）京都駅八条口22・00（集合）22・30（夜行バス）
（20日）晴れ（バス）中房温泉5・15（朝食）6・10－第一ベンチ6・40～50－第二ベンチ7・20～30－第三ベンチ8・10～40－合流小屋9・40～10・00－燕山荘11・00（昼食）12・00－蛙岩13・30～40－燕山荘14・30（泊）
（21日　晴れ）燕山荘6・10－燕岳6・40～7・10－蒜山荘7・40～8・00－合流小屋8・50～9・00－第二ベンチ10・00～10－中房温泉11・20（入浴）12・00－穂高町（昼食）－京都駅19・50（解散）
登るにつれガスが濃くなったが蛙岩への尾根筋で登り岳から六扁岳方面を望むことができた。中房川は雪解けの増水で徒渉不能で、往復コースにした。時間に余裕がでも、コマクサ・ミネザクラなどの花々や温泉、信州の味覚を十分楽しんだ。
（参加者）森川信之　井林英彦子　中川光郎　大島清子　中山雄男　高木鶴夫　芦村三枝　山崎多恵子　山田利男　脇田利洋　安田文美江　富岡幸子　中西和子　金森節子　安倉正勝　高橋喜治　高橋山紀子　木下信行　山形　明　和田英恵子　山高義治　◎渡部雪子（計22名）

八丁平から峰床山・鎌倉山（京都北山歩き45）
7月21日(日)　曇り時々晴れ
京阪山科駅発都バスターミナル8・00（バス）中村安夜前9・00～15－伊賀谷分岐谷山口9・45～50－八丁平11・00－峰床山11・45（昼食）12・40－オグロ坂峠13・00～10－鎌倉山14・10～30－おな平15・00－鎌倉谷15・30－坊村16・00～40（バス）出町柳駅17・50（解散）
足が痛ってグングン登り、ドンドン歩いた。谷筋の歩きと尾根筋のブナ林の中は涼しくて夏には最高のコースだった。
（参加者）吉延　清　竹田義英　近藤　熱　上田正子　渡辺達郎　長田貞雄　林屋義行　藤森加代子　本間俊次　野口　修　三浦健宏　薄軍静香　加藤元彦　森脇眞義　古川裕子　阪口貴司　中村伸子　田辺理子　船越利明　阿部ゆよ子　筆山信夫　岡　嘉子　中田英子　市橋清美　青山芳子　下村啓子　入江武史　狩野英彦　佐藤義義　鈴木吉和　坂　久子　松田好市　岡田正治　加藤佳彦　川人郁子　大沢義子　戸倉文子　林　弘毅　瀬栄雄子　則定保夫　平川日聖子　今津省司　北川美保子　○吳北裕美　◎村田智俊（計45名）

姥ヶ滝・滝蔵の滝・永禅の滝（鈴鹿を歩く10）
7月21日(日)　晴れ
佐目小谷林道広場9・00－広河原9・30－姥ヶ滝10・45－指合岩11・50（昼食）12・30－佐目小谷林道13・25（車）もみぢ荘下広場13・50－滝蔵の滝14・00－永禅の滝14・25－もみぢ荘15・00（解散）－永禅寺政策－もみぢ荘16・00
佐目小谷ではヤマヒルの歓迎をうけながら深山幽谷の清流を歩いた。三滝とも水量多く滝布が白く輝き、涼風が吹き抜けていた。滝壺で泳いだ人もあってたのしい山行ができました。
（参加者）高杉　博　清水栄代子　氏田房江　中川久子　佐竹良行子　谷　久雄　前田久子　平川世聖子　多賀田一　池田繁雄　池田繁美　多賀久子　江口　宏　江口悦子　小田妙子　○島場広美　◎吉野　明（計17名）

北アルプス
燕岳から西穂高岳
7月21日(日)～22日(月)　1泊2日
（21日　晴れ）上高地バスターミナル5・00（集合・朝食）6・30－焼岳登山口7・10－焼岳小屋9・40－焼岳10・45－焼岳小屋11・50（昼食）12・50－樹林台15・00－西穂山荘16・30（泊）
（22日　晴れのち曇り）西穂山荘

5・00—西穂信号6・00（朝焼）—西穂独標8・10—西穂山荘11・30—千石園地12・40（ロープウェイ）新穂高温泉13・00（解散）

初日は上高地から徒歩を登り、稜線の樹林帯を西穂山荘まで10時間。2日目は西穂稜走路としては第一級の険しくやせた岩稜帯を13のピークを越えて西穂高岳へ。スリルに満ちた稜線に時々ガスが走り、西穂山頂からの山岳景観を満喫して、穂高の夏を心ゆくまで味わった。

〔参加者〕稲本芳雄　三浦弘幸　奥井孝生　今井淑雄　荒井宮子　上坂雄枝　田中徳子　豊田真理子　小林　稔　林　鈴彦　○河部利彦　◎鷲見守康（計12名）

京都北山・雲ヶ山

（立日木曜ハイク23）

7月25日（休）　晴れ

JR壁田駅8・40（バス）平9・10～20—皆子谷登山口10・15～25—途中12・10（昼食）12・45—雲子山13・30～50—寺谷山小屋14・50～15・00—平15・50～55（バス）壁田駅16・20（解散）

真夏の皆子谷ルートの登山はハードで「中級よりむしろ上級者向きでは」との声もあったが、足が指い楽しくクリヤーできた。

〔参加者〕高岡信男　天白富秒子　白根淑子　辻　行子　瀧田義春　今井　浩　野間稔夫　中村幸五郎　石原春子　加藤佳彦　馬場ヨシミ　筑山信夫　中村英雄　小林伊佐子　佐藤春義　河江北枝　坂口千鶴子　十把一絡　岡原定夫　石田利子　平　幸子　宮坂敏彦　中村佐代子　小林政男　秋田柄郎　松本いつ子　児玉夏子　風見弱子　林　宏男　吉嶋義枝　灰　真実　中村　稔　中川光昭　◎郡中　毅（計34名）

伊吹山夜間登山

7月27日出夜～28日（日）　晴れ

前夜発日帰り

JR近江長岡駅21・40（集合・バス）伊吹登山口—薬社22・45—ゴンドラ下駅22・50（ゴンドラ）三合目23・30—五合目0・00—七合目0・40～50—九合目1・30—伊吹山頂2・00（仮眠）5・00（朝食）6・00—お花畑めぐり—下山口7・00—三合目8・30（解散）

寒さを感じる程の涼しさで快調に登った。眼下の夜景がすばらしかった。ご来光はガスで待めなかったが、色とりどりのだを見て下山した。

〔参加者〕山崎邦治　藤村勝彦　岩崎弥生　川端邦治　伊藤勝子　北岡光弘　内山弘子　岡田正治　野口　修　中村静香　白根淑子　辻　行子　林　令子　杉村安代　船越みよ子　森脇真義　河辺牧男　呉比裕実　小田勇子　太田佳子子　中村静香　船越和明　今村　眞　石田賢一　松井徳永　高木　浩　山崎義雄　石田豊美　高橋静子　入江武史　佐田次男　夏山登子　中東孝子　佐藤静子　平　幸子　森川信之　奥田貞雄　伊藤佳子　玉田清代　水口記美代　佐藤三直　鈴尾公代　猪鼻さち子　平　幸子　平武英子　佐藤静子　須谷川　昇　○松田智俊　◎中西信行（計55名）

須谷川　（鈴鹿を歩く11）

8月4日（日）　曇り

ひろせ滝出発9・05—須谷川9・25—洞窟（岩屋）11・40（昼食）12・30—登山道分岐13・20—滝の上登山道出合14・00—42号線15・35—ひろせ滝15・45（解散）

大小さまざまの淵や滝をへつり、シャワーを浴びて滝を登る。薄暗い巨岩の間の流れを登って昼食。谷の気温は25度。暑い夏の涼しい沢歩きを満喫した。

〔参加者〕高杉　霊　池田彦雄　池田敏美　吉原　務　大石義夫　鈴木　甫　河辺牧男　谷　久雄　小林　実　○山本久雄　◎石野　明（計11名）

比良・サカ谷から蓬莱山

8月4日（日）　曇り

出町柳駅8・00（集合）8・05（バス）坂下9・10—桂昌院9・20—小女郎滝11・30（昼食）12・30—蓬莱山13・00～10（リフト）篠平13・30—太戸峠13・55—荒川峠15・10—水場15・45～16・00—JR志賀駅17・00（解散）

風は強かったが、曇り空で暑さはあまり感じなかった。サカ谷からの尾根道はやぶにおおわれていた。午後からのコースがやや長く、鳥谷山への登りはいつものことだがしんどかった。

〔参加者〕近藤　哉　川端邦治　野口　修　三浦敏宏　井林舞奈子　金森節子　小川晴美　中村静子　入江武史　呉比裕実　上坂雄枝

梅田　實　中村英雄　谷村つね子　妹尾一正　妹尾公代　河田真介　江口弘幸　青木一雄　西上利和　清林武親　高橋憲治　宮崎由紀子　岡原定夫　橋口武明　坂名由紀江　石原春子　宮岡碧子　岩木いずみ　川人静子　岩浅栄子　百瀬八十徳　仲秋一郎　仲秋碧子　宮村栄次郎　押木吉生　林　陽子　尾川静江　和田喜朗　木村利恵　平井法代子　吉村時子　家入敏光　家入緑子　高橋　寛　古田富子　渡邊なか乃　市川智子　小嶋敬子　堀伸特美　内田基茂　戒野　勉　上井栄美子　安倉正勝　◎村田智俊（計55名）

北アルプス・後立山連峰縦走

鹿島槍・五竜岳・唐松岳・鹿島槍ヶ岳

8月4日（日）～6日（火）　2泊3日

〔4日　曇り時々晴れ〕八方尾根ゴンドラ・山麓駅7・20（集合・ゴンドラ・リフト）黒菱平9・00—唐松山荘12・00（昼食）13・00—最低鞍部13・50～14・10—五竜山荘15・20（泊）＊リフトが故障運休のため黒菱平まで一部徒歩

〔5日　曇りのち晴れ〕五竜山荘5・00—五竜岳6・10—北尾根ノ頭8・30—キレット小屋10・00（昼食）10・30—鹿島槍ヶ岳北峰12・00—鹿島槍ヶ岳南峰12・45～13・15—冷池山荘15・00（泊）

〔6日　晴れ〕冷池山荘5・50—赤岩尾根分岐6・30—爺ヶ岳中央峰7・00—爺ヶ岳南峰7・30～8・00—種池山荘8・20—扇沢出合11・10

八峰キレットはあっけなく通過した。岩稜帯あり、高度感もありの険しい縦走路だったが、剱と立山三山の景観に励まされ、たどり着いた冷池山荘からは立山連峰のシルエットが荘厳なほどに浮く燃える空に映えていた。晴れわたった爺ヶ岳頂からは、槍・穂高・表銀座・中央アルプス・富士山が望見でき、健気に咲く高山植物や雪渓の輝きに後立山の夏を堪能した。

〔参加者〕頭川澄子　夏山登子　三浦弘幸　妹尾徳永　橋川真理子　明神敏行　今村　眞　石田賢一　加藤元彦　森川信之　奥井孝生　尾野吉孝　山科邦彦　森　昌弘　飯田　昇　飯田政子　林　鈴彦　○奥村誠治　◎鷲見守康（計19名）

鈴鹿・三ツ口谷から鎧ヶ岳

8月11日（日）　曇り

近鉄湯の山温泉駅8・30（バス）湯口駐車場—一の谷登山口9・00—三ツ口谷入口9・30～40—鎧ヶ岳御殿10・30～10—武平峠からの展望11・15—鎧ヶ岳11・30（昼食）12・15—岳峠12・25—大石の滝13・15～25—長石谷出合14・30—湯口駐車場14・50（解散）

雲が低く涼風はあまりなかったが、真夏にしてはしのぎやすい一日だった。滝の水量もまずまず。にぎり飯をほおばりながら眺めたウグイスののど自慢がよかった。

〔参加者〕小原幸男　飯田　昇　荒井宮子　奥井孝生　本村好和　高杉　博　藤田和洋　川本　隆　高橋正人　○福田逸夫　◎尾崎英五（計11名）

平ヶ岳と会津駒ヶ岳

8月14日（水）～17日（土）　3泊4日

〔14日　晴れ〕京都駅八条口7・30（バス）清四郎小屋20・50（泊）

〔15日　曇時晴れ〕清四郎小屋9・45（バス）沼山峠10・45—尾瀬沼群長蔵小屋12・00（昼食）13・15—沼山峠14・10（バス）清四郎小屋15・15（泊）

〔16日　雨〕清四郎小屋4・40—台倉山8・15—池ヶ岳10・55—平ヶ岳11・15（昼食）11・45—下台倉山14・30—国道登山口17・00～40（バス）檜枝岐かぎや旅館18・50（泊）

〔17日　晴れ〕檜枝岐5・00（バス）京都駅20・15（解散）

台風12号の通過で山行日が雨になった。会津駒ヶ岳をあきらめ、15日は尾瀬沼へ、大江湿原の花をたのしんだ。16日平ヶ岳へ、雨のなか長い登りを歩いた。平ヶ岳山頂の湿原と地塘を見たときは来てよかったと思った。清四郎小屋の蕎麦風呂とかぎや旅館の檜風呂が雨の山行を癒めてくれた。

〔参加者〕中村和子　横井　徹　横井静子　三浦弘幸　森川信之　宮本真幸　宮本静子　山本千鶴子　明神敏行　呉比裕実　竹内正二　西村義朗　武田協子　中井ひろみ　可部利彦　小林　稔　山崎加奈子　宗　喜敏　船越利明　船越みよ子　谷野英彦　湯浅欣男　安田文英江　高岡碧子　藤原　格　今村真智子　近藤　哉　福本芳雄　宮村栄次郎　渡辺逸郎　田中耕一　鈴木美恵子　川人静子　岡田幸子　森　美香子　大平　剛　大平牧子　高月ミツヨ　安倉正勝　豊田真理子　○山崎義治　◎村田智俊（計45名）

元越谷　（鈴蘭を歩く12）

8月18日(日)　晴れ

元越谷林道分岐9・10－元越谷9・30－大滝10・00－仏谷分岐10・30－仏谷右俣分岐11・20－左俣源流11・45－大岳12・20（昼食）13・35－水沢峠13・40－元越谷林道14・50－元越谷分岐15・30（解散）

エメラルドグリーンの淵をへつり、大滝を登ると、花崗岩の美しい渓谷が続く。大岩で膝窓をたのしみながら昼食、人道ヶ岳の上空にはパラグライダーが舞っていた。

（参加者）吉原　務　高杉　博　池田隆雄　池田慶美　豊田真理子　大石將美　小林　桂　小田妙子　越部義行　桑田貞雄　高杉孫三郎　○山本久雄　◎吉野　明（計13名）

比良・白滝谷から白滝山（水曜ハイク4）

8月21日(水)　晴れ

出町柳駅8・00（バス）坊村8・50～9・10－牛コバ10・05－スベリ石10・45－夫婦滝11・35（昼食）13・00－オトワ池13・30－白滝山13・45－ワサビ大滝14・30－坊村15・50～16・05（バス）出町柳駅17・00（解散）

夫婦滝での長い休憩で、心も体もすっかりリフレッシュして残暑の厳しさをしばし忘れてしまった。ワサビ大滝の辺は冷気漂の中を関けたような冷たさだった。途中ハチが群舞していた道を避け、谷川をジャブジャブとくだった。

（参加者）今村　寛　堀　久子　永井哲男　松山みつ　中田慶子　中村静香　中上紀代子　加藤佳彦　長谷川佑美　中井吉五郎　今西平男　中村伸子　松村雅子　上田敏子　青木一雄　田口雪子　辻　行子　鱗　嘉子　白根通子　細井和子　菲田幸子　西上利和　岡田登美　平　幸子　岩本いすゞ　美村孝治　西尾広二　西島　正　○岡田　昇　◎渡辺欣男（計15名）

和泉鳥城山

8月25日(日)　晴れ

岡海岸和田駅8・30（集合）8・45（バス）牛滝山8・25～35－丁石地蔵尊9・55～10・00－和泉鳥城山（三角点）11・30－ブナ林11・40－葛城神社11・50（昼食）12・50－展望台12・55－五本松13・30～14・00－大鳥山本勝寺15・15－大鳥山バス停15・40（解散）

紀泉高原にはもう秋の風が吹いていた。萩の花が愛らしく咲いていた。

（参加者）渡辺欣男　岡田恵美子　高橋　寛　妹尾公代　三木邑子　古川松子　船越利明　鈴鹿みよ子　近藤　哉　和田直樹　竹山利夫　山本　勉　岡田真介　○岡田　昇　◎奥村誠治（計15名）

紀見峠から金剛山（文学歴史散歩31）

8月25日(日)　晴れ

南海紀見峠駅9・00（集合）9・13発－山の神10・09～10－西の行者10・52～11・03－大沢峠11・50（昼食）12・30－千早峠13・10～20－中葛城山14・05～15－千早城跡地14・55～15・10－楠見城跡16・00～05－千早登山口バス停18・55（解散・バス）河内長野駅・近鉄富田林駅

あいにくの雨り空で大峰の山々は見えなかったが、ミズヒキ、ツリフネソウといった秋の草花が出迎えてくれた。

（参加者）吉植　浩　本間俊次　瀬尾節香　木村　晃　藤松雅子　芳賀宗子　辻　行子　鈴木井紀世　中田茂子　中田敬子　千葉千枝子　白井恵子　川上久雄　森口野美　松井徳永　芝村三枝　北川常光　◎松永熙一（計18名）

六甲・天狗岩から有馬温泉

8月28日(日)　晴れ

JR住吉駅9・05（バス）淵の森橋9・25－塩天滝9・40－天狗岩11・05－塩天谷12・00－極楽茶屋12・10（昼食）12・50－鼓ヶ滝14・10－有馬温泉会館14・20（解散）

天気も良く、足がそろい順調に歩けた。温泉に浸かった後のビールの味は格別であった。

（参加者）狩野憲彦　今村　寛　平畑英子　桑田久子　蝶名田紀江　前田平一　藤村隆彦　中井吉五郎　小田淑子　野口　修　野口志津子　石田勇美　西内英一　川端恵美子　大木政夫　青木一雄　立川郁夫　加藤元彦　家岡京子　吳比裕美　福岡　章　星加弘之　○今神信司　◎井上　保（計24名）

新ハイキングクラブ関西

入会のすすめ

このページの山行例会を通じて正しい山歩きを、たのしい山仲間たちと味わいませんか。リーダー（係）はすべて無償の奉仕で、各自で切符を買い来代を払い、宿泊料もすべてワリカンです。

あなたも新ハイキングクラブ関西に入会してたのしいお仲間になりませんか。会員には振号「新ハイキング・別冊関西の山」（全世帯月6円分）をお届けします。会員は山行例会に優先参加できます。

入会金　500円（バッジ代）
年会費　2500円（送料共）

新ハイキングクラブ関西への入会申し込みはこの雑誌に挿入の振替用紙をご利用ください。氏名（ふりがな）及び郵便番号からの送本は遅れずにご明記ください。

尚、定期購読をご希望される方も会費になっていただきますと、毎号確実にお手元に届きますので便利です。

山行リーダー募集

リーダーは2か月に一～二回程度の山行例会を立案し、実施していただきます。

経験のある人や、やってみたいと思われる人は、当会本部（村田）までご連絡ください。

マニュアルを記した小冊子「新ハイ関西・リーダー必携」を送ります。

○新入会員紹介（30233まで）

植田宗弘　菅野久雄　松尾誠治　井上邦光　井上節子　長岡愛子　今岡民代　小松紀夫　北本　豪　奥谷至朗　小杉清子　北本俊三郎　川浦　由　林　速美　鶴元井敏世　野間武彦　竹田弘志　河盛雅子　郡井上子　黄谷宗岡　大熊禎策　小鳴初美　高村孫三郎　本の山版社　大橋宗造　桑原章夫　岡田史一郎　岡田節子　鳥居明子　岡崎芳良　中村愛子　小東マユミ　細江佳代　野田　守　根山上純　前田正宏　城戸恒男　城戸尚子　杉浦清子　宗合ひろ子　山崎義雄　北田あや子　深田　聡　山下恒三　鈴木百合子　川口和子　河鶴妙子　渡辺友彦　佐伯清一　松津建医　松原美美子　小宮征夫　浅野明夫　近江秀子　山本堅一郎　岡田かな子　和波　聡　神波雅子　進藤己喜三　奥野雅子　吉田敬代　水木美容室　井上恵子　後藤誠一　井上郁洋　和久田トシ子　住山信黒　陸田義也　成川みさお　中川厚子　戸根　茂　人見正信　岡崎芳三　亀谷廣治　亀木秀子　宮田　修　伊藤明男　柳生晓志　岸本良子　桑名和子　野田節子　吉村常武　千原加代　千直芳美（86名）

訂正とお詫び

30号（初秋）62ページ上段10行目「…子規の碑を見…」は「句碑」が正しい。（編集室）

一毎号ご求めになりたい人へ一

前もって書店に予約をしないと「雑誌予約」をされますと、どこの書店でもお買い求めいただけます。（隔月刊）の発売です。

本部からのお知らせ

①山行例会の参加費について

山行は、特別をのぞき原在保険料（年額50円を支出していただいておりますが、来年度（97年）1月から別途参加費として日額50円を加算して、合計100円を支出していただくことになります。万一の時もありますので、よろしくご理解の上、ご了承ください。

なお、山行を円滑に実施するため、通信費などの本部の負担も多額になってきました。例会によっては、若干の参加費を負担していただくものもありますので、併せてご了承ください。

②山行リーダーの集い

12月8日(日)、当クラブも発足5年になりました。山行計画や実施についての打ち合わせ会を開催します。追って時間・場所など詳細は案内します。

新ハイ関西（代表）村田憲彦